

平成27（2015）年度入学者

専門教育科目

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

基本的に、日商簿記検定合格を目指した授業を行います。主に、演習によりレベルアップを図ります。3級に合格すれば、続いて2級を目指します。また、随時、新聞・雑誌の時事問題の記事を輪読、議論、解説なども行っていきます。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に指示・紹介します。

《授業の到達目標》

まず、日商簿記検定3級合格をめざします。

《授業時間外学習》

授業時間内の学習だけでは、簿記検定合格には時間が不足です。3級に合格するには、毎日少なくとも1日1時間の家庭学習が必要です。

《成績評価の方法》

到達度確認テスト（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。確認テストと宿題は、次回の授業において解答を示します。

《備考》

授業時間内の学習だけでは、簿記検定合格には時間が不足です。毎日1時間の家庭学習が必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	簿記上の取引と仕訳	簿記上の取引の意義と仕訳の原理
2	仕訳と勘定への転記	仕訳から勘定記入へ
3	勘定の締切と試算表	締切の意味と方法（大陸式と英米式）試算表の意義と作成方法
4	6桁精算表	精算表の意義と作成方法
5	商品売買1	商品売買の基本的処理分記法による処理
6	商品売買2	付随費用、返品・値引きを伴う商品売買三分法による処理
7	現金	簿記上の現金の種類と処理方法現金過不足の処理
8	当座預金	当座預金の意義と基本的な処理当座借越の処理
9	手形1	手形の意義と約束手形の処理
10	手形2	為替手形の意義と処理裏書手形、手形借入・手形貸付
11	貸付金・借入金未収金・未払金	基本的な処理と利息計算
12	前払金・前受金	予約販売の処理
13	仮払金・仮受金	基本的な処理と利息計算
14	立替金・預り金商品券	自店発行商品券、他店発行の商品券の処理
15	固定資産の処理	固定資産の購入と減価償却 固定資産の売却

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	堀池 聡		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

実用的なソフトウェア開発の基礎を学びます。具体的なシステムをターゲットに仕様検討から始まり、実装、試験までを実施します。専門演習 I は比較的簡単にイメージしやすい対象をテーマとしますが、各自の興味に対する意見も取り入れます。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配付します。

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

簡単なソフトウェア開発の流れを習得します。
ソフトウェア実装に関する実力を向上させます。

《授業時間外学習》

授業ごとに各自に課される指定する技術調査や情報処理の演習などの課題を行って下さい。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取組み(60%)、成果物とそのレポート(40%)により評価します。

出席回数が10回未満の場合は単位を与えません。遅刻やマナー違反は出席回数の削減対象となります。わからないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	本スケジュールではソフトウェア開発を前提としている。I期最初の実施内容打合せによっては内容が異なる場合がある。
2	システムの仕様検討(1)	システムの実現機能の検討
3	システムの仕様検討(2)	システムのユーザインタフェースの検討
4	システムの仕様検討(3)	システムのデータ構造の検討
5	システムの仕様検討(4)	システム仕様のまとめ
6	システムの仕様検討(5)	システム仕様のまとめ
7	システム開発(1)	プログラミングによるシステムの実装
8	システム開発(2)	プログラミングによるシステムの実装
9	システム開発(3)	プログラミングによるシステムの実装
10	システム開発(4)	プログラミングによるシステムの実装
11	システム開発(5)	プログラミングによるシステムの実装
12	システムの評価(1)	テストデータによるシステムの試験
13	システムの評価(2)	システムの機能と性能の評価
14	システムの評価(3)	システムの総合的な評価
15	まとめ	I期で学んだことのまとめ

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

現実の経済では、情報化・グローバル化などを背景に様々な変化が生じている。私のゼミでは、現実の経済問題（とくに産業・企業に関わる問題）の中から各自興味あるテーマを選び、卒業論文を作成することを最終目的として勉強する。専門演習 I ではその準備段階として、基礎的な知識を身につけるためにテキストを輪読する。授業はゼミ生の報告に基づいて進める。

《テキスト》

オリエンテーション時に指示する。
 （市場経済システムについて考察する書籍、産業組織論の入門書の中から選定する）

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ・経済学の基礎理論を理解し、経済学的考え方を身につける。
- ・経済理論が現実の経済問題を考える際にどのように応用できるのかを考える。
- ・わかりやすい報告資料が作成できるようになる。
- ・わかりやすいプレゼンテーションをする力を身につける。
- ・論理的にまとまりのあるレポートを作成する。

《授業時間外学習》

- ・事前にテキストの該当箇所を読んでくること。
- ・報告を担当する箇所については、時間をかけて学習し、報告準備をしっかりと行うこと。
- ・第8週目以降は、レポート作成に取り組む。レポート完成に向けて毎週課題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《成績評価の方法》

- ・授業への参加の姿勢、報告内容、学期末のレポートの内容をもって行う。評価の割合は、授業への参加の姿勢30%、報告内容20%、レポート50%とする。
- ・提出物についてはコメントを付して返却する。

《備考》

- ・「1時間に1度は発言する」という積極的な気持ちで出席していただきたい。
- ・レポートについては卒業論文作成に備えて添削指導を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要テキストの内容の紹介	ゼミの進め方、受講上の注意、テキストの内容について説明する。
2	レジュメの作り方 (1)	第 4週目以降の報告者の割り当てを行う。 レジュメの作り方を説明する。実際に作成してみよう。
3	レジュメの作り方 (2)	経済・ビジネスに関する資料を読んで考察する。 レジュメを実際に作成してみよう。
4	テキストの輪読 (1)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。 ※この週からゼミ生の報告に基づいて授業を進める
5	テキストの輪読 (2)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。
6	テキストの輪読 (3)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。
7	テキストの輪読 (4)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。
8	テキストの輪読 (5)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。
9	テキストの輪読 (6) レポートの準備 (1)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。 【レポート作成に向けて】レポートのテーマを決める
10	テキストの輪読 (7) レポートの準備 (2)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。 【レポート作成に向けて】構成を考える
11	テキストの輪読 (8) レポートの準備 (3)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。 【レポート作成に向けて】資料・文献の収集、情報の検索
12	レポート作成 (4)	各自のテーマに基づいてレポートを作成する。
13	レポート作成 (5)	各自のテーマに基づいてレポートを作成する。
14	レポートの報告会	各自のレポートの内容について報告する。レポートの提出
15	学習のまとめ	前回提出したレポートを添削して返却する。 指摘された箇所について手直しし、レポートを完成させよう。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	高野 敦子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 		

《授業の概要》

私たちの生活や社会の構造に影響を与える新しい情報技術の仕組みや問題点を学び、オリジナルな活用方法を提案します。

《テキスト》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

情報技術の仕組みや問題点を理解し説明することができる。さらに、基礎的な実践方法を学び、ユーザの視点から情報技術の活用方法を提案することができる。

《授業時間外学習》

調査やレポートや作品の作成は主に授業時間外で行います。授業時間内での発表やディスカッションを充実させるためには、授業時間外での学習が重要です。

《成績評価の方法》

学期中に提出する課題が評価の100%です。課題については、常に授業の中でコメントします。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報とは (1)	経済情報学部で経済と情報をバランスよく学ぶことの意味を考える。
2	情報とは (2)	ライフゲームを通じて、セルオートマトンについて学ぶ。
3	ヒューマンインターフェース	ユーザインターフェースを通して使いやすい情報システムについて考える。
4	地図情報, AR, 音声認識技術など	注目されている最新の情報技術の概要を学ぶ。
5	コンピュータと人間の仕事	コンピュータの発達によって人間の仕事がどのように変わってきたかを考える。
6	情報の表現技術とマルチメディア	情報のデジタル化によって、表現方法やメディアがどのように変わってきたかについて学ぶ。
7	人工知能	人工知能の概要と活用の現状を学ぶ。
8	ビッグデータ	ビッグデータ活用の仕組みと問題点を学ぶ。
9	オープンデータ	オープンデータの作成方法と活用方法を学ぶ。
10	WWWの仕組み	Webページを見る仕組みを理解する。HTML5について学ぶ。
11	HTML5 (1)	HTML5を使った Webプログラムの作成実習
12	HTML5 (2)	HTML5を使った Webプログラムの作成実習
13	JavaScript	JavaScriptを使ったWebプログラムの作成実習
14	ITを巡る時事問題 (1)	今、ITを巡って社会で起きている現象、問題を学ぶ。
15	ITを巡る時事問題 (2)	プレゼンテーション実習。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	榎木 浩		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

防災・減災の観点から、災害に強い、あるいは災害時にも最低限の情報伝達が可能となる情報システムが望まれている。この演習では、過去に起こった災害時の情報システムに関する対応を調査し、どのような課題があるかを考察し結果をまとめる。また演習に先立ち、文献の読み方、社会調査の方法、データ分析手法、仮説設定とその検証の方法、論文やレポートの書き方等のリサーチリテラシーを習得する。

《授業の到達目標》

- リサーチリテラシー「聞く力」「課題発見力」「情報収集力」「推報整理力」「読む力」「書く力」「データ分析力」「プレゼンテーション力」を身につける。
- 過去の大災害での情報システムの対応が理解できる。
- 災害時の情報システムの課題が発見できる。

《成績評価の方法》

平常の取り組み(50%)、成果物(50%)で評価する。特別の事情以外の無断欠席・遅刻が続く場合は単位認定しない。

分からないことは、授業中およびオフィスアワーなどで質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	専門演習（次年度の卒業演習を含む）の進め方 履修登録の確認
2	リサーチリテラシー（1）	聞く力、読む力、書く力
3	リサーチリテラシー（2）	情報収集力、情報整理力
4	リサーチリテラシー（3）	課題発見力、データ分析力
5	リサーチリテラシー（3）	プレゼンテーション力、リサーチリテラシーのまとめ
6	情報収集・整理（1）	災害時の情報システムの対応を調査
7	情報収集・整理（2）	災害時の情報システムの対応を調査
8	情報収集・整理（3）	調査結果のプレゼンテーション用まとめ
9	情報収集・整理（4）	調査結果のプレゼンテーションとディスカッション
10	課題発見・分析（1）	調査結果をもとに、災害時の情報システムに関する課題を発見・分析
11	課題発見・分析（2）	調査結果をもとに、災害時の情報システムに関する課題を発見・分析
12	課題発見・分析（3）	調査結果をもとに、災害時の情報システムに関する課題を発見・分析
13	課題発見・分析（4）	課題発見・分析のプレゼンテーション用まとめ
14	課題発見・分析（5）	課題発見・分析のプレゼンテーションとディスカッション
15	まとめ	災害時の情報システムの対応と課題発見を振り返る

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房
他、適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- 事後学習
- ・毎回の作業予定分を次回までに完了させること。

《備考》

- ・無断欠席厳禁
- ・主体的に取り組むこと

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	竹川 宏子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

企業経営の基礎および現代企業の経営の特徴を学ぶために、以下3つの内容を柱とする。

1. 経営学の基本書（テキスト）を輪読し、内容を理解する。
2. 新聞やテレビなどで取り上げられている企業活動の実際について学び、その本質を理解する。
3. 学んだ内容を定着させる。

《授業の到達目標》

- 経営学の基本書を読んで、経営学の基礎知識を身につけることができる。
- 企業を多面的に捉えることができるようになる。
- 企業と社会の関係について理解し、将来の職業についての意識を高めることができるようになる。

《成績評価の方法》

(1) 平常点（理解度確認の小テスト、ディスカッションの内容など）を50%，(2) 教科書のまとめ作成，発表，事例研究に関するレポート等課題の提出を50%として評価する。小テストについては、すぐに採点を行い理解不足の部分を確認する。

《テキスト》

齊藤毅憲『経営学を楽しく学ぶ Ver. 3』中央経済社，2012年

《参考図書》

授業時に必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：該当箇所のテキストを読んで、分からないところをはっきりさせてくること。ゼミメンバーの前で発表するための準備として教科書をまとめてくる。
- (2) 復習の方法：前回学習した内容の理解度を確認するため授業の初めに質問または小テストを行うので、その準備が復習に該当する。

《備考》

日常的に様々なメディアを活用して、企業にかかわるニュースに目を向けるよう心がけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の概要と進め方	シラバスをもとに学習の進め方を説明し、経営学を学ぶ意義について理解する。
2	企業の役割	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，私たちの生活と企業の接点を理解する。
3	ビジネス化の進展	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，ビジネス化の進展とサービス産業の発展について理解する。
4	国際経済の発展と企業の役割	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，グローバルな企業活動の基本的な考え方を理解する。
5	企業分類のフレームワーク	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，企業を観察する際に用いるいくつかの視点について理解する。
6	現代経営学の考え方	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，現代経営で重視される3つの基準について理解する。
7	企業情報の収集方法	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，企業情報の収集方法について理解する。
8	経営学の学習方法	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，経営学を自ら学ぶ方法について理解する。
9	事例研究	経営に関する時事問題について学び，レポートを作成し，発表する。
10	経営者の役割	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，経営者，管理者の仕事や役割について理解する。
11	経営理念	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，経営理念の重要性と制定の方法について理解する。
12	企業における所有と経営の関係	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，企業における所有と経営の関係について理解する。
13	組織の構造	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，組織の構造について理解する。
14	コーポレート・ガバナンス	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，コーポレート・ガバナンスについて理解する。
15	まとめ	学習内容の振り返りと理解度確認の小テストをおこなう。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	西田 悦雄		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

自らの研究環境構築・整備と研究テーマ設定のための調査、情報収集、参考文献の読み方など研究を進めるための基礎となる研究リテラシーを学びます。

《テキスト》

小笠原信之著, 「文書力が身につく本」, 高橋書店
 奥村晴彦著, 『改訂第6版 LaTeX2e 美文書作成入門』, 技術評論社

《参考図書》

小笠原信之著, 「文書力が豊かになる本」, 高橋書店など。
 その他の参考文献に関しては必要に応じて適宜紹介します。

《授業の到達目標》

1. 各自の研究テーマの設定や調査が自発的にできること。
 2. 各自がUnixサーバを活用できること。
 3. 研究の進捗状況報告や論文作成のための文書組版LaTeX2eの理解と活用ができること。
- など必要となる研究リテラシーのスキルや考え方の獲得も目標とします。

《授業時間外学習》

課題, 演習および研究に必要な活動に関しては授業時間外で対応して下さい。

《成績評価の方法》

基礎課題(50%), 研究テーマに関わる課題(40%), 平常点(10%)として判定し評価します。

《備考》

興味や関心を持ち意欲的に取り組むことを望みます。より深い理解を促し進捗状況により授業計画の順序等の変更・修正を行います。アクティブラーニングゾーンの活用も考慮します。

議論ではフィードバックをはかりながら, 研究テーマを見つけます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要	研究室でのルール説明, ファーストステップの目標設定
2	計算機構成の基礎知識	ハードウェア・ソフトウェアの概念と基礎知識, データ管理方法
3	利用環境の基礎 ネットワークの基礎	研究で使用する計算機環境の概要, ネットワークの基礎知識
4	研究用環境の構築	研究室サーバの個人設定, 操作方法説明
5	文書の表現と活用	レポート・論文等の文書作成のための基礎
6	文献の探し方	研究テーマの設定や情報収集
7	文書組版の基礎(1)	組版の概要, 記述, 組版, 閲覧方法, 文書作成のための LaTeX の基礎知識, 章, 節, 本文の練習
8	文書組版の基礎(2)	文書作成のための LaTeX の基礎知識, 表組み, 数式, 図の挿入 グラフィックツールの活用
9	文書組版の基礎(3)	文書作成のための LaTeX の基礎知識, 引用, 参照, ページスタイル
10	研究テーマの調査(1)	Webブラウザと検索サイト(CiNii)の活用
11	研究テーマの調査(2)	Webブラウザと検索サイト(Google Scholar)の活用
12	研究テーマの調査(3)	Webブラウザと研究関連学会等の活用
13	研究テーマの調査発表(1)	テーマ決定のための調査報告(1) 研究テーマの大まかな設定
14	研究テーマの調査発表(2)	テーマ決定のための調査報告(2) より詳細な研究テーマの設定
15	まとめ	その他補足およびまとめ

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	中本 淳		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

受講生の興味関心に合わせ、基本書を使ってミクロ・マクロの経済理論をブラッシュアップするとともに、経済データを使用・分析する技術と、問題意識を掘り下げていく技術を身につけていく。
 専門演習 I では、受講生の興味関心の最大公約数となるテーマについて、共同で論文orレポートを仕上げることを目指す。

《テキスト》

テーマに合わせて、適宜紹介する。

《参考図書》

浅子和美・飯塚信夫・篠原聡一（2015）『入門・日本経済 第5版』有斐閣
 その他、テーマに合わせて、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ・経済理論の枠組みを使って、関心のある経済事象を説明することができる。
- ・関心のある経済事象について、現実のデータに即して説明することができる。
- ・自身が理解した理論・データを使って、論理的にまとめ、分かりやすいプレゼンをすることができる。

《授業時間外学習》

講義の中で与えられた課題にしっかりと取り組むこと。

《成績評価の方法》

授業への参加姿勢50%+共同論文への貢献度50%。
 詳細は受講生と協議して決めるものとする。

《備考》

分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	自己紹介 ゼミの進め方 研究テーマについて レジュメの作り方
2	研究テーマの設定(1)	各自、自身の興味関心について、簡単な資料などを持ち寄りながら発表1
3	研究テーマの設定(2)	各自、自身の興味関心について、簡単な資料などを持ち寄りながら発表2
4	経済理論の復習(1)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集1
5	経済理論の復習(2)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集2
6	経済理論の復習(3)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集3
7	経済理論の復習(4)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集4
8	経済理論の復習(5)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集5
9	研究テーマの設定(3)	各自(もしくはグループで)、それぞれの興味関心について、経済理論とデータを用いて発表1
10	研究テーマの設定(4)	各自(もしくはグループで)、それぞれの興味関心について、経済理論とデータを用いて発表2。共通テーマを選定し、執筆・調査の担当を決める。
11	研究テーマの深化(1)	各自の担当箇所について、進捗状況の報告。討論1
12	研究テーマの深化(2)	各自の担当箇所について、進捗状況の報告。討論2
13	研究テーマの深化(3)	各自の担当箇所について、進捗状況の報告。討論3
14	まとめ(1)	これまでの進捗を整理し、1つのプレゼンとして整理する1
15	まとめ(2)	これまでの進捗を整理し、1つのレポートとして整理する2

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I	科目ナンバリング	ESZS13005
担当者氏名	橋本 尚史		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

私たちは、あまりお金の話を友人同士でしません。しかし、お金は私たちの生活には無くてはならないモノです。たとえば、私たちは、いくら稼いで（または借金して）そのうち、いくら使って、どれくらい貯金・株式投資するか（または返済するか）悩みます。これは、企業も直面する資金調達と投資の問題です。当ゼミでは、お金に関する学問である金融論・ファイナンス論についてじっくりと勉強していきます。

《授業の到達目標》

ファイナンス・金融に関する基本的な考え方を身に付けること、そして最新の金融・経済動向について自ら考えられるようになることを目標とします。また、機会があれば企業が提供している「株式投資ゲーム」に参加する予定です。

《成績評価の方法》

与えられた課題に対する取り組み姿勢（20パーセント）・発表内容（30パーセント）と授業への参加姿勢（50パーセント）によって評価します。また、4回以上無断欠席した場合は単位の修得ができません。また、わからないことはオフィスアワーなどで質問を受付けます。

《テキスト》

1. 石野雄一（2008）『ざっくり分かるファイナンス』光文社書房。

《参考図書》

1. 石野雄一（2005）『道具としてのファイナンス』日本実業出版社。
 2. 大屋幸輔（2006）『コア・テキスト 統計学』新世社。

《授業時間外学習》

新聞を読み世の中の動向に興味を持つこと、そしてインターネット、図書館も積極的に利用してさまざまなことに興味を持つことが重要です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	本専門演習 I の進め方について説明します。
2	ファイナンス (1)	テキストの輪読とディスカッション (第1章 会計とファイナンスはどう違う?)。
3	ファイナンス (2)	テキストの輪読とディスカッション (第2章 ファイナンス, 基本のキ)。
4	ファイナンス (3)	テキストの輪読とディスカッション (第3章 明日の1万円より今日の1万円 - お金の時間価値)。
5	ファイナンス (4)	テキストの輪読とディスカッション (第4章 会社の値段)。
6	ファイナンス (5)	テキストの輪読とディスカッション (第5章 投資の判断基準)。
7	ファイナンス (6)	テキストの輪読とディスカッション (第6章 お金の借り方・返し方)。
8	ファイナンス (7)	テキストの輪読とディスカッション (第6章 お金の借り方・返し方)。
9	投資シミュレーション (1)	投資シミュレーションの登録方法について説明します。
10	投資シミュレーション (2)	投資シミュレーションに役立つ知識について学び、その実践をおこないます (配当と株主優待の違い)。
11	投資シミュレーション (3)	投資シミュレーションに役立つ知識について学び、その実践をおこないます (信用取引のしくみ)。
12	投資シミュレーション (4)	投資シミュレーションに役立つ知識について学び、その実践をおこないます (株式指標の見方)。
13	投資シミュレーション (5)	投資シミュレーションの結果に関する報告プレゼンの準備をします。
14	投資シミュレーション (6)	投資シミュレーションの結果について報告をプレゼンします。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふり返ります。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力		

《授業の概要》

簿記の力を身につけます。主に演習によりレベルアップを図ります。また、卒業論文作成に向け経済問題の新聞記事の解説・輪読も行っていきたいと思います。簿記の学習は、最初は、レベルがほぼ同じなので、一緒に勉強することになりますが、学年が進むにつれ進度に差が出て、内容が異なってきますので、個別指導に近い形になります。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に指示、紹介します。

《授業の到達目標》

まず、日商簿記検定3級を目指します。3級に合格した人は2級を目指します。

《授業時間外学習》

日商3級合格には連続した学習時間約40時間が必要です。家庭学習の習慣を付けてください。

《成績評価の方法》

到達度確認テスト（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。確認テストの解答は次回授業時に行います。

《備考》

税理士、公認会計士、国税専門官など職業会計人を目指すためのワンステップになればと考えています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	有価証券	有価証券の売買の処理
2	資本と引出金	個人資本と引出金の処理
3	試算表	試算表の作成に係る総合問題の演習
4	精算表の作成	試算表から精算表作成に至る手続き
5	決算整理1	有価証券の評価 現金過不足の処理
6	決算整理2	消耗品の処理売上原価の計算と処理
7	決算整理3	貸倒の処理と貸倒引当金の設定（差額補充法）
8	決算整理4	固定資産の減価償却
9	決算整理5	費用・収益の見越し・繰延の処理
10	決算整理6	費用・収益の再振替処理
11	決算整理7	決算手続きの総合演習
12	簿記における訂正	簿記における訂正処理の意義と方法
13	8桁精算表	8桁精算表作成に係る総合問題の演習
14	勘定の締切と財務諸表の作成	勘定の締切と費用・収益勘定への集合。損益勘定から資本金勘定への振替と資本金勘定の締切
15	伝票会計	伝票会計の処理方法3伝票制、5伝票制

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	堀池 聡		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

実用的なソフトウェア開発を学びます。具体的なシステムをターゲットに仕様検討から始まり、実装、試験までを実施します。専門演習Ⅱは専門演習Ⅰより高度な対象をテーマとします。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配付します。

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

ソフトウェア実装に関する更なる実力向上を目指します。

《授業時間外学習》

授業ごとに各自に課される指定する技術調査や情報処理の演習などの課題を行って下さい。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取組み(60%)、成果物とそのレポート(40%)により評価します。

出席回数が10回未満の場合は単位を与えません。遅刻やマナー違反は出席回数の削減対象となります。わからないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	本スケジュールではソフトウェア開発を前提としている。実施内容打合せによっては内容が異なる場合がある。
2	システムの仕様検討(1)	システムの実現機能の検討
3	システムの仕様検討(2)	システムのユーザインタフェースの検討
4	システムの仕様検討(3)	システムのデータ構造の検討
5	システムの仕様検討(4)	システム仕様のまとめ
6	システムの仕様検討(5)	システム仕様のまとめ
7	システム開発(1)	プログラミングによるシステムの実装
8	システム開発(2)	プログラミングによるシステムの実装
9	システム開発(3)	プログラミングによるシステムの実装
10	システム開発(4)	プログラミングによるシステムの実装
11	システム開発(5)	プログラミングによるシステムの実装
12	システムの評価(1)	テストデータによるシステムの試験
13	システムの評価(2)	システムの機能と性能の評価
14	システムの評価(3)	システムの総合的な評価
15	まとめ	Ⅱ期で学んだことのまとめ

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

日本の産業・企業は、経済のグローバル化や情報化などを背景にさまざまな課題に直面している。この授業では、専門演習Ⅰに引き続いて、テキストを輪読しながら、現実産業や企業行動を分析するための基礎理論を学ぶとともに、日本経済・産業・企業の現状と課題について検討する。専門演習Ⅰと同様に、学生の報告に基づいて授業を進める。

《テキスト》

「専門演習Ⅰ」の授業時に指示する。
 (ミクロ経済学・産業組織論の専門書の中から選定する)

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ・現実の経済問題について経済学の基礎理論を用いて考察できるようにする。
- ・わかりやすい報告資料が作成できるようになる。
- ・わかりやすいプレゼンテーションをする力を身につける。
- ・論理的にまとまりのあるレポートを作成する。

《授業時間外学習》

- ・事前にテキストの該当箇所を読んでくること。
- ・報告を担当する箇所については、時間をかけて学習し、報告準備をしっかりと行うこと。
- ・第8週目以降は、レポート作成に取り組む。レポート完成に向けて毎週課題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《成績評価の方法》

- ・授業への参加の姿勢、報告内容、学期末のレポートの内容をもって行う。評価の割合は、授業への参加の姿勢30%、報告内容20%、レポート50%とする。
- ・提出物についてはコメントを付して返却する。

《備考》

- ・「1時間に1度は発言する」という積極的な気持ちで出席していただきたい。
- ・レポートについては卒業論文作成に備えて添削指導を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 資料を読んで考える(1)	ゼミの進め方、受講上の注意について説明する。 経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。
2	資料を読んで考える(2)	第4週目以降の報告者の割り当てを行う。 経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。
3	資料を読んで考える(3)	経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。
4	テキストの輪読(1)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。 ※この週からゼミ生の報告に基づいて授業を進める。
5	テキストの輪読(2)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。
6	テキストの輪読(3)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。
7	テキストの輪読(4)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。
8	テキストの輪読(5)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。
9	テキストの輪読(6) レポートの準備(1)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。 【レポート作成に向けて】レポートのテーマを決める
10	テキストの輪読(7) レポートの準備(2)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。 【レポート作成に向けて】構成を考える
11	テキストの輪読(8) レポートの準備(3)	テキストの内容について担当者が報告し、議論して理解を深める。 【レポート作成に向けて】資料・文献の収集、情報の検索
12	資料を読んで考える(4) レポート作成	経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。 【レポート作成】各自のテーマに基づいてレポートを作成する。
13	レポート作成	各自のテーマに基づいてレポートを作成する。
14	レポートの報告会	各自のレポートの内容について報告する。レポートの提出
15	学習のまとめ	前回提出したレポートを添削して返却する。 指摘された箇所について手直しし、レポートを完成させよう。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	高野 敦子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="checkbox"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="checkbox"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="checkbox"/> 1-5 論理的思考力 <input type="checkbox"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

私たちの生活や社会の構造に影響を与える新しい情報技術の仕組みや問題点を学び、オリジナルな活用方法を提案します。

《テキスト》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

ユーザの視点から情報技術の活用方法を提案するための力をつけることができる。具体的には、テーマの見つけ方、プレゼンテーション技術、基礎的な情報技術を活用するためのスキルを身につけることができる。

《授業時間外学習》

調査やレポートや作品の作成は主に授業時間外で行います。授業時間内での発表やディスカッションを充実させるためには、授業時間外での学習が重要です。

《成績評価の方法》

学期中に提出する課題が評価の100%です。課題については、常に授業の中で議論します。提出された課題については、授業の中で議論すると同時に担当教員からもコメントします。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ITを巡る時事問題(1)	今、ITを巡って社会で起きている現象、問題を学ぶ。
2	ITを巡る時事問題(2)	プレゼンテーション実習。
3	ITを巡る時事問題(3)	レポート作成実習。
4	新しいIT技術の調査	社会の仕組みや私たちの暮らしに与える影響の大きい新しいIT技術について調査する。
5	新しいIT技術の調査	社会の仕組みや私たちの暮らしに与える影響の大きい新しいIT技術についてその意義や問題点を議論する。
6	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
7	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
8	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
9	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
10	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
11	IT技術の活用方法提案に向けた実験	実験
12	IT技術の活用方法提案に向けた実験	実験
13	IT技術の活用方法提案に向けた実験	実験
14	提案のまとめ	プレゼンテーション準備
15	提案の発表	プレゼンテーションと議論

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	榎木 浩		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

防災・減災の観点から、災害に強い、あるいは災害時にでも最低限の情報伝達が可能となる情報システムが望まれている。この演習では、専門演習Ⅰのまとめをもとにして、それぞれの課題に対してどのように解決すればよいかを考察しまとめる。解決策のアイデアは複数用意する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

- 災害での情報システムに対する課題解決策を複数導き出せる。
- 演習結果をミニ論文としてまとめられる。

《授業時間外学習》

- 事後学習
- ・毎回の作業予定分を次回までに完了させること。

《成績評価の方法》

平常の取り組み(50%)、成果物(50%)で評価する。特別の事情以外の無断欠席・遅刻が続く場合は単位認定しない。

《備考》

- ・無断欠席厳禁
- ・主体的に取り組むこと

分からないことは、授業中およびオフィスアワーなどで質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方、専門演習Ⅰの課題確認 履修登録の確認
2	課題解決策の導出(1)	課題に対して、どのように解決すればよいかを複数案検討する。
3	課題解決策の導出(2)	課題に対して、どのように解決すればよいかを複数案検討する。
4	課題解決策の導出(3)	課題に対して、どのように解決すればよいかを複数案検討する。
5	課題解決策の導出(4)	課題に対して、どのように解決すればよいかを複数案検討する。
6	中間報告準備	中間報告のためのプレゼンテーション資料作成
7	中間報告	中間報告(プレゼンテーション)とディスカッション
8	課題解決策の導出・評価(1)	中間報告での指摘を踏まえて、複数の課題解決策を評価し洗練する。
9	課題解決策の導出・評価(2)	複数の課題解決策を評価し洗練する。
10	課題解決策の導出・評価(3)	複数の課題解決策を評価し洗練する。
11	課題解決策の導出・評価(4)	複数の課題解決策を評価し洗練する。
12	最終報告準備	最終報告のためのプレゼンテーション資料作成
13	最終報告	最終報告(プレゼンテーション)とディスカッション
14	ミニ論文作成	最終報告をミニ論文として仕上げる
15	まとめ	ミニ論文の提出と演習の振り返り

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	竹川 宏子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

企業経営の基礎および現代企業の経営の特徴を学ぶために、以下3つの内容を柱とする。

1. 経営学の基本書（テキスト）を輪読し、内容を理解する。
2. 新聞やテレビなどで取り上げられている企業活動の実際について学び、その本質を理解する。
3. 学んだ内容を定着させる。

《授業の到達目標》

- 経営学の基本書を読んで、経営学の基礎知識を身につけることができる。
- 企業を多面的に捉えることができるようになる。
- 企業と社会の関係について理解し、将来の職業についての意識を高めることができるようになる

《成績評価の方法》

(1) 平常点（理解度確認の小テスト、ディスカッションの内容など）を50%，(2) 教科書のまとめ作成，発表，事例研究に関するレポート等課題の提出を50%として評価する。小テストについては、すぐに採点を行い理解不足の部分を確認する。

《テキスト》

齊藤毅憲『経営学を楽しく学ぶ Ver. 3』中央経済社，2012年

《参考図書》

授業時に必要に応じて紹介する

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：該当箇所のテキストを読んで、分からないところをはっきりさせてくること。ゼミメンバーの前で発表するための準備として教科書をまとめてくる。
- (2) 復習の方法：前回学習した内容の理解度を確認するため授業の初めに質問または小テストを行うので、その準備が復習に該当する。

《備考》

日常的に様々なメディアを活用して、企業にかかわるニュースに目を向けるよう心がけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の概要と進め方	シラバスをもとに学習の進め方を説明し、経営学を学ぶ意義について理解する。
2	起業家と起業	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，起業家と起業の意味，ベンチャーについて理解する。
3	起業のプロセス	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，起業のプロセスを理解する。
4	企業間関係の意味と必要性	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，企業間関係の意味と必要性を理解する。
5	企業間関係の種類	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，企業間関係の種類を理解する。
6	事例研究	経営に関する具体的な事例を取り上げ，レポートを作成し，発表する。
7	経営戦略の理論	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，経営戦略の理論（チャンドラー，アンゾフ）について理解する。
8	経営戦略の変遷	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，経営戦略の変遷を理解する。
9	ドメインと競争戦略	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，ドメインと競争戦略を理解する。
10	組織の管理原則	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，組織の管理原則を理解する。
11	組織の基本形	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，組織の基本形を理解する。
12	事例研究	企業戦略に関する具体的な事例を取り上げ，レポートを作成し，発表する。
13	企業環境	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，企業環境の把握と分析手法について理解する。
14	経営資源	テキストの輪読，ディスカッションを通じて，経営資源とその活用について理解する。
15	まとめ	学習内容の振り返りと理解度確認の小テストを行う。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	西田 悦雄		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

専門演習Ⅰに引き続き、研究テーマの設定とその研究の進め方を学びます。
 また、研究の予備実験等で活用が見込まれるプログラミングも合わせて学びます。

《テキスト》

B. W. Kernighan, D. M. Ritchie著, 石田晴久訳, 『プログラミング言語C 第2版 -ANSI規格準拠-』, 共立出版
 小笠原信之著, 「文書力が豊かになる本」, 高橋書店

《参考図書》

B. W. Kernighan, Rob. Pike著, 福崎俊博訳, 『プログラミング作法』, ASCII
 その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

《授業の到達目標》

1. 各自が研究用環境であるUnixサーバを活用できること.
2. C言語を活用できること.
3. より実践的なプログラミングのための知識の獲得.
4. 各自が設定した研究テーマもさらに進められること. を目標とします.

《授業時間外学習》

課題, 演習および研究に必要な活動に関しては授業時間外で対応して下さい.

《成績評価の方法》

基礎課題(40%), 研究テーマに関わる課題(50%), 平常点(10%)として判定し評価します.

《備考》

いろいろなことに興味や関心を持って, 意欲的取り組みことを望みます. 可能性への挑戦を試みて下さい.
 アクティブラーニングゾーンの活用も試みます.

議論ではフィードバックをはかりながら, 研究テーマを見つけます.

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要	課題とするテーマの確認
2	データ構造とアルゴリズム	C言語プログラミングの基礎, アルゴリズム・データ構造の重要性
3	Cプログラミング(1)	C言語プログラミングの復習
4	Cプログラミング(2)	C言語プログラミングの補足, スキルアップのための実践
5	Cプログラミング(3)	ライブラリの拡張, システムコール
6	Cプログラミング(4)	グラフィックライブラリの活用 シミュレーションプログラムの試み
7	研究テーマの調査・報告・議論(1)	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
8	研究テーマの調査・報告・議論(2)	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
9	研究テーマの調査・報告・議論(3)	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
10	研究テーマの調査・報告・議論(4)	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
11	研究テーマの調査・報告・議論(5)	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
12	研究テーマの調査・報告・議論(6)	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
13	研究テーマの調査・報告・議論(7)	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
14	研究テーマの調査・報告・議論(8)	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
15	まとめ	その他補足およびまとめ

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	中本 淳		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

受講生の興味関心に合わせ、基本書を使ってミクロ・マクロの経済理論をブラッシュアップするとともに、経済データを使用・分析する技術と、問題意識を掘り下げていく技術を身につけていく。

専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰで学んだ研究手法を、各自の興味関心に適用し、それぞれのテーマについて、知識と考察を深めていく。

《授業の到達目標》

- ・経済理論の枠組みを使って、関心のある経済事象を説明することができる。
- ・関心のある経済事象について、現実のデータに即して説明することができる。
- ・自身が理解した理論・データを使って、論理的にまとめ、分かりやすいプレゼンをすることができる。

《成績評価の方法》

授業への参加姿勢30%+講義での報告30%+期末のレポート40%
 詳細は受講生と協議して決めるものとする。

分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	専門演習Ⅰの総括	専門演習Ⅰの内容を振り返り、専門演習Ⅱの進め方について説明する。
2	研究テーマの設定(1)	各自、自身の興味関心について、理論・データを持ち寄りながら発表。討論1
3	研究テーマの設定(2)	各自、自身の興味関心について、理論・データを持ち寄りながら発表。討論2
4	研究テーマの設定(3)	各自、自身の興味関心について、理論・データを持ち寄りながら発表。討論3
5	経済理論の復習(1)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集1
6	経済理論の復習(2)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集2
7	経済理論の復習(3)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集3
8	経済理論の復習(4)	研究テーマに合わせたテキストの輪読+データ収集4
9	研究テーマの深化(1)	各自の研究テーマについて、進捗状況の報告。討論1
10	研究テーマの深化(2)	各自の研究テーマについて、進捗状況の報告。討論2
11	研究テーマの深化(3)	各自の研究テーマについて、進捗状況の報告。討論3
12	研究テーマの深化(4)	各自の研究テーマについて、進捗状況の報告。討論4
13	まとめ(1)	各自、レポートの発表1
14	まとめ(2)	各自、レポートの発表2
15	まとめ(3)	各自、レポートの発表3

《テキスト》

ロジャー・ミラー他(2010)『経済学で現代社会を読む 改訂新版』日本経済新聞出版社

その他、受講生各自のテーマに合わせて、適宜紹介する。

《参考図書》

浅子和美・飯塚信夫・篠原聡一(2015)『入門・日本経済 第5版』有斐閣

その他、受講生各自のテーマに合わせて、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

自身の関心に沿って、理論・データについて理解を深めていくこと。また、日々のニュースと自身の関心との関連を常に意識しよう。

《備考》

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ	科目ナンバリング	ESZS13006
担当者氏名	橋本 尚史		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

私たちは、あまりお金の話を友人同士でしません。しかし、お金は私たちの生活には無くてはならないモノです。当ゼミでは、専門演習Ⅰに引き続き、お金に関する学問である金融論・ファイナンス論と金融データの分析方法についてじっくりと勉強していきます。

《授業の到達目標》

専門演習Ⅰで身に付けたファイナンス・金融に関する基本的な考え方についてデータを用いて分析をおこなう能力を身に付けることと、最新の金融・経済動向について自ら考えられるようになることを目標とします。また、機会があれば企業が提供している「株式投資ゲーム」に参加する予定です。

《成績評価の方法》

与えられた課題に対する取り組み姿勢（20パーセント）・発表内容（30パーセント）と授業への参加姿勢（50パーセント）によって評価します。また、4回以上無断欠席した場合は単位の修得ができません。また、わからないことはオフィスアワーなどで質問を受付けます。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

1. 石野雄一（2005）『道具としてのファイナンス』日本実業出版社。
2. 石野雄一（2008）『ざっくり分かるファイナンス』光文社書房。
3. 大屋幸輔（2006）『コア・テキスト 統計学』新世社。

《授業時間外学習》

新聞を読み世の中の動向に興味を持つこと、そしてインターネット、図書館も積極的に利用してさまざまなことに興味を持つことが重要です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	専門演習Ⅰの復習と専門演習Ⅱの進め方について説明します。
2	データ分析（1）	データ分析のファイナンスへの応用方法について学びます（統計学とは）。
3	データ分析（2）	データ分析のファイナンスへの応用方法について学びます（統計学とファイナンスの関係：期待リターン）。
4	データ分析（3）	データ分析のファイナンスへの応用方法について学びます（統計学とファイナンスの関係：リスク）。
5	データ分析（4）	データ分析のファイナンスへの応用方法について学びます（統計学とファイナンスの関係：母平均の推定と検定）。
6	データ分析（5）	データ分析のファイナンスへの応用方法について学びます（統計学とファイナンスの関係：母分散の推定と検定）。
7	データ分析（6）	データ分析のファイナンスへの応用方法について学びます（統計学とファイナンスの関係：平均値の差の検定）。
8	データ分析（7）	データ分析のファイナンスへの応用方法について学びます（統計学とファイナンス：等分散性の検定）。
9	投資シミュレーション（1）	投資シミュレーションを用いてデータ分析の実践をおこないます（期待リターンの計測と実践）。
10	投資シミュレーション（2）	投資シミュレーションを用いてデータ分析の実践をおこないます（リスクの計測と実践）。
11	投資シミュレーション（3）	投資シミュレーションを用いてデータ分析の実践をおこないます（母平均の推定と実践）。
12	投資シミュレーション（4）	投資シミュレーションを用いてデータ分析の実践をおこないます（母分散の推定と実践）。
13	投資シミュレーション（5）	投資シミュレーションを用いてデータ分析の実践をおこないます（ポートフォリオ理論の実践）。
14	投資シミュレーション（6）	投資シミュレーションを用いてデータ分析の実践をおこないます（さまざまな検定の実践）。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふりかえります。

科目名	情報科学入門		科目ナンバリング	ECLL11002
担当者氏名	堀池 聡			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

情報技術の進展には目を見張るものがあり、生活のあらゆる局面に浸透しています。情報技術の基本的な知識を習得することにより、現在の情報処理環境をより有効に活用でき、新しい技術にも柔軟に対応できます。情報技術は幅広い項目から構成されますが、本講義ではその中でも特に中核となる技術を中心に、基本的な内容について講義を行います。

《テキスト》

テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

情報科学を学んでいく上での基本事項を理解し、情報に関する専門教育科目にスムーズに取り組んでいけるようになります。

《授業時間外学習》

配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。

《成績評価の方法》

毎回行う確認テストを40%、最後に行う総合テストを60%の割合で評価します。翌週の授業で、確認テストの解説をします。受講マナーが悪い場合は確認テストの点数を減点します。

《備考》

理解をより深めるため、周辺の情報処理システムを観察しつつ、本講義を受講してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 情報とは	本講義の狙い、受講上の注意点、成績評価の方法、情報科学の概要
2	現代社会とIT	大規模コンピュータシステム、組み込みコンピュータ、生活に浸透したIT
3	情報のデジタル化	2進数、16進数、文字コード、A-D変換とD-A変換、音声のデジタル化、静止画と動画のデジタル化
4	論理回路	ブール代数、論理演算の基本、組合せ回路
5	コンピュータハードウェア(1)	コンピュータの歴史、ノイマン型計算機、計算機の基本動作
6	コンピュータハードウェア(2)	周辺機器、半導体メモリ、磁気ディスク
7	ソフトウェアとプログラミング言語	ソフトウェアとは、プログラミングの初歩、言語処理プロセッサ
8	アルゴリズム	フローチャート、複雑さ、ソーティングアルゴリズム、検索アルゴリズム
9	オペレーティングシステム(OS)	OSの種類、OSの役割、OSの基本動作
10	データベース(DB)	DBの種類、リレーショナルDB、DB操作、排他制御
11	コンピュータシステム(1)	システム構成、集中型システム、分散型システム、システムの信頼性、コンピュータネットワーク
12	コンピュータシステム(2)	システム開発、ウォーターフォールモデル、システムエンジニア、プログラマー、仕様書
13	ネットワーク社会とセキュリティ	情報倫理、著作権、コンピュータウィルス、ファイアーウォール、暗号技術
14	習得事項の整理	情報科学の基礎に関し、最低限習得すべき事項を整理し、全体に関する理解を深める。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達レベルを確認する。

科目名	基礎数学A		科目ナンバリング	ECLL11003
担当者氏名	森下 博			
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-4 ビジネス基礎力		

《授業の概要》

日常生活に関わる具体的な問題を通して、数学的手法による最適な解決を目指します。その中で出てくる問題解決に必要な数学の概念を一つ一つ確認していきます。具体的には、方程式の解法、関数と最適解、数列と予測、確率と統計について取り上げます。正確に計算できる結果はもちろん大事ですが、過程をじっくりと考えることに重きをおきたいと思います。経済学を学ぶ際の強みを身に付けて下さい。

《授業の到達目標》

- 問題の内容を把握し、どの情報から何を求めるのか、説明することができる。
- 問題解決のためのアプローチの方法を順序立てながら説明することができる。
- 数学ツールを活用しながら、正確かつ効率的に最適解を求めることができる。

《成績評価の方法》

提出課題40%
 筆記試験60%
 分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業はそれぞれの回で取り上げる内容が連動しています。次に備えるためにも、毎回確実に復習をして下さい。自主的な学習の取り組みにも期待します。

《備考》

数学を学ぶ上で大切なことは、問題を正確に把握し、最適な解に到達するまでの見通しをイメージすることです。一歩ずつ解に近づくワクワク感を体験しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明	授業計画を説明するとともに、数学を活用した問題について具体的な例を紹介する。
2	情報の進数変換	十進数と二進数について概念と計算方法を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
3	方程式の解法(1)	1次方程式に対する解法のためのルールを確認し、具体的な例を使って定着を図る。
4	方程式の解法(2)	2次方程式に対する因数分解などの解法を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
5	方程式の解法(3)	連立の方程式に対する消去法などの解法を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
6	関数と最適解(1)	最適化問題に対する目的関数や制約条件を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
7	関数と最適解(2)	線形計画問題に対する不等式とその領域を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
8	関数と最適解(3)	最大値最小値問題に対する放物線の特徴を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
9	数列と予測(1)	数列の中で、等差数列と等比数列の概念を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
10	数列と予測(2)	与えられた数列の一般項と漸化式の概念を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
11	数列と予測(3)	単利と複利の違いを基に指数関数の概念を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
12	確率と統計(1)	順列組合せの数の上げおよび確率の計算を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
13	確率と統計(2)	単純平均や加重平均といった平均の計算を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
14	確率と統計(3)	命題とその数学的な証明のための考え方を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
15	総括と振り返り	本授業内において取り扱ってきた内容や数学的アプローチの手法について振り返る。

科目名	現代経済社会論A		科目ナンバリング	ECLS21005
担当者氏名	石原 敬子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

日々のニュースからもうかがえるように、今日の日本経済・社会は、グローバル化や少子高齢化などを背景にさまざまな課題や問題に直面している。この授業では、戦後の日本経済のあゆみを振り返り、現実経済を読み解く経済学の基礎的概念も学びながら、グローバル化と日本経済、雇用問題、ICT革命とビジネスなど、今日注目を集めているいくつかのトピックを取り上げ、経済・社会問題について考察する。

《授業の到達目標》

- ・現実の経済・社会問題に関心をもち、自らすすんで考察するようになる。
- ・一面的な見方に偏らず、異なる見解も踏まえて考える力を身につける。
- ・経済学考え方を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業への参加の姿勢、課題への取り組み、レポートなど）と学期末の筆記試験をもって評価する。評価の割合は、平常点50%、学期末の筆記試験50%とする。授業時の課題については、解答例を解説する。レポートはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要	授業の概要、目標、受講上の注意事項について説明する。
2	日本経済の現状	現在日本経済・社会がどのような問題を抱えているのかを概観する。
3	人口減少社会(1)	少子高齢化に伴う財政問題、社会保障制度に関する問題について考察する。
4	人口減少社会(2)	少子高齢時代のビジネス、経済成長を維持するため課題について考察する。
5	雇用問題(1)	日本的経営の特徴、成果主義に基づく雇用制度の特徴と、それぞれの問題点について考察する。
6	雇用問題(2)	現在の日本が抱える雇用問題、働き方改革について考察する。諸外国の雇用制度や、限定正社員制度など新しい雇用制度についても考察する。
7	グローバル化(1)	貿易の利益について理解し、自由貿易と保護貿易をめぐる論争について考察する。
8	グローバル化(2)	RCEPやFTAAPなど、昨今の自由貿易を推進する動きと日本経済・社会への影響について考察する。
9	グローバル化(3)	グローバル時代の農業・食糧問題について考える。
10	ICT革命(1)	ICT革命の特徴、経済・ビジネスに及ぼした影響について考察する。
11	ICT革命(2)	ICT、ビッグデータを活用したビジネスについて考察する。
12	ICT革命(3)	人工知能・高機能ロボットが経済・社会にどのような変化をもたらすかを考察する。
13	地球環境問題(1)	地球温暖化問題と、日本や世界各国の取り組みについて考察する。
14	地球環境問題(2)	資源エネルギー問題について考える。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を振り返る。

《テキスト》

特に指定しない。
適宜プリントを配布する。

《参考図書》

伊藤元重著『日本と世界の「流れ」を読む経済学』PHPビジネス新書、2012年。
三菱総合研究所編『IoTまるわかり』日経文庫、2015年。
その他、授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・授業で取り上げたトピックについてより考察を深めるように、課題を出す予定である。日ごろからニュースや新聞記事に目を通し、経済・社会の動きを知る習慣を身につけよう。
- ・第11週目を終わったところに、学期末のテストにむけて、授業内容を復習・確認するための教材を配布する。授業内容を理解できているか、振り返ってみよう。

《備考》

科目名	現代経済社会論B		科目ナンバリング	ECLS22006
担当者氏名	竹川 宏子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

現代経済社会の実際を知るために、現代社会を理解するための基礎知識を習得し、民間企業等で活躍している方々から経済社会の現場で起きていることを学ぶ。

現場の話は外部講師によるオムニバス形式の講義で行う。外部講師としては公認会計士、地元加古川市の企業経営者、企業の人事担当者などを予定している。また受講生には各自が一つの業界を調査し、授業で発表してもらう。

《授業の到達目標》

各講師の話を通じて、今の経済社会を実感することを目標とする。

将来の自分の姿を思い描くための助けにもなります。

《テキスト》

テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

必要に応じ、各講師から指示する。

《成績評価の方法》

(1) 毎回授業で作成するレポートによる平常点(60%) (2) 発表点(40%)により評価する。平常点では受講態度も考慮する。平常点が40点に達しない場合は、発表点に関係なく不合格とする。レポート・発表について、発表後に不足点や改善点を指摘する。

《授業時間外学習》

毎回の講義内容を振り返り、レポートを作成する。授業の後半で行うの発表の準備をする。

《備考》

第1回目のガイダンスを必ず受講すること。その際、確定した2017年度のスケジュールを配布する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の目的、注意事項、単位取得方法について述べる。現在講師のスケジュールを調整中で下記は2016年度のものである。ガイダンス時に確定スケジュールを配布する。
2	キャリア設計について	講師の話により良く理解し、職業意識を高めるためにキャリア設計の基礎について理解する。
3	富士コンピュータ(株)代表取締役社長 森和明氏	富士コンピュータの創業、情報技術学院、相生学院高校、学生に期待することについて理解する。
4	(株)光洋開発本部建設部課長 中村耕治氏	小売業の歴史、小売業の業務について理解する。
5	オフィスF代表 福島克三氏	経験学習と人の成長について学ぶ。
6	(株)チクマ キャンパス事業部 有吉直美氏	コミュニケーションとしての衣服について理解する。
7	いしだサポートオフィス 石田信隆氏	社会保険労務士の役割、仕事内容について理解する。
8	中間のまとめ 学生発表のガイダンス	授業の14回、15回で行う業界についての学生発表に関して必要な調査や発表方法について説明する。
9	公認会計士・税理士 小長谷敦子氏	「目標による管理」について体験を通じて学ぶ(実際に体を動かします)。
10	公認会計士・税理士 大辻俊介氏	税理士の業務、税理士の日、税理士の仕事体験について理解する。
11	加古川市役所 企画部 村上尚輝氏	加古川市政の概要(加古川市のすがた、加古川市のまちづくり、市役所の組織と業務)について理解する。
12	高砂市役所 生活環境部 水田ことみ氏	高砂市の紹介と市役所の仕事について理解する。
13	兵庫大学 事務部総務課 吉川剛氏	大学の組織で働くとはどういうことかについて理解する。
14	学生発表	金融サービス、素材資源エネルギー、社会インフラの業界について学生発表。
15	学生発表	小売・流通、生活資材・サービスの業界について学生発表。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	簿記演習 I	科目ナンバリング	EEL21001
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

商業簿記の基本原理を習得し、日商簿記検定3級に向けた基礎を学習します。取引ごとに問題演習をし、貸借対照表と損益計算書の作成方法を習得します。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

取引を仕訳で表現することを身につけるとともに、貸借対照表と損益計算書の意義と作成方法を習得します。

《授業時間外学習》

宿題を出しますので、次回授業時に提出してください。

《成績評価の方法》

授業中に行う小テスト（3回程度）で評価します。

《備考》

12桁の電卓が必要です。日商簿記検定の取得は就職にも有利です。是非合格を目指しましょう。

※次々回授業時に小テストの解答を示します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	簿記の基礎	簿記とは何か
2	日常の手続き	仕訳の仕組み
3	勘定	仕訳から勘定記入の流れ
4	商品売買	商品売買の基本的な処理方法 三分法
5	現金	簿記上の現金とその取扱い
6	当座預金	当座預金の意味と取扱い 当座借越の処理
7	小口現金	小口現金の意味と処理 インプレストシステムの仕組みと処理方法
8	約束手形	手形の仕組みと約束手形の基礎的処理方法
9	その他の期中取引	前受け・前払い、仮受け・仮払い、利息計算、付随費用、有価証券、租税公課、引出金などの処理方法 訂正処理の仕方
10	試算表 1	試算表の意義 試算表の仕組みと作成方法。
11	試算表 2	試算表の作成演習
12	決算手続き 1	貸倒引当金、有価証券の評価、消耗品の処理、未収・未払いの処理、減価償却
13	決算手続き 2	売上原価の計算
14	精算表	精算表の形式と作成方法
15	復習と確認	簿記の基本的処理の確認と総合演習

科目名	経済学入門		科目ナンバリング	EEEL22001
担当者氏名	中本 淳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

この講義では、現代経済のあり方を理解するとともに、今後の本格的な経済学への導入となるような基本的な概念や基礎知識を概説する。前半で、ミクロ経済学・マクロ経済学の基本概念を学んだあと、後半では現代経済の動きを掴むための種々の指標や歴史的背景について講義していく。

《授業の到達目標》

経済学の基礎的知識・概念を身につけるとともに、日々の経済ニュースに出てくるキーワードを理解する。

《テキスト》

なし(講義の中で、資料を配布する)

《参考図書》

篠原総一, 野間敏克, 入谷純(1999)『初歩から学ぶ経済入門 -- 経済学の考え方』
 マンキュー(2014)『入門経済学(第2版)』東洋経済新報社
 高本茂『初歩の経済学』(幻冬舎ルネッサンス)

《授業時間外学習》

日々のニュースに意識して触れ、講義で学んだこととの関連を考えよう。

《成績評価の方法》

平常点(30%) + 期末テスト(70%)

分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	経済学とは何かについて説明することができる。
2	国民経済の仕組み	市場の概念について説明し、その相互のつながりによって経済が成り立っていることを説明することができる。
3	市場メカニズム①	市場において、価格と取引量がどのように決まるのか、どのような要因が市場に影響を与えるのかを説明することができる。
4	市場メカニズム②	需要曲線と供給曲線の背後にある考え方について説明することができる。
5	市場メカニズム③	市場メカニズムがうまく働かない場合があり、そこに政府の役割があることを説明することができる。
6	マクロ経済指標①	GDPをめぐる諸概念について説明することができる。
7	マクロ経済指標②	一国の経済循環図において、GDPが他のマクロ指標とどのように関係しているのかを説明することができる。
8	マクロ経済指標③	為替レートがどのようにして決まるのか、また為替レートの変化が一国経済に与える影響について説明することができる。
9	戦後日本経済の歩み①	経済成長の概念と、戦後の日本経済成長の実際についての講義を通し、戦後日本経済史を概観する。
10	戦後日本経済の歩み②	国際金融市場の変遷と、それが日本経済に与えた影響について説明することができる。
11	戦後日本経済の歩み③	日本の財政、特に社会保障制度の経緯について、概略を説明することができる。
12	戦後日本経済の歩み④	景気対策の効果と、日本の財政の現状について、概略を説明することができる。
13	戦後日本経済の歩み⑤	金融システムの概略を理解し、バブル前後の経緯について、概略を説明することができる。
14	戦後日本経済の歩み⑥	日本経済の現状と課題について、理解する。
15	まとめ	いままでの学習内容を整理する。

科目名	経営学入門		科目ナンバリング	EEBL22001	
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

世界経済、社会に対して大きな影響を及ぼしている大企業に焦点を当て、その仕組みと戦略について解説する。企業と私たちが直接かかわる身近な問題から入り、企業と社会とのかかわり、企業活動の本質などについて解説する。

なお、企業にかかわる大きなニュースについては、随時テキストの範囲を超えてトピックスとして取り上げる。

《テキスト》

周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔『経営学1』実教出版, 2009年

《参考図書》

守屋貴司・近藤宏一・小沢道紀『はじめの一步 経営学』ミネルヴァ書房, 2007年

《授業の到達目標》

- 社会における企業の役割を理解できるようになる。
- 株式会社の制度と意味について理解できるようになる。
- 企業活動の内容（経営の諸機能、経営管理）について理解できるようになる。

《授業時間外学習》

予習の方法：テキストの該当箇所を読んできて（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。
 復習の方法：授業のノートを見返して疑問点を考えてくることとする。

《成績評価の方法》

(1) 定期試験70%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）(2) 中間小テスト30%（持ち込み不可として評価する。中間テストはその場で自己採点し、自らの理解度を確認する。授業態度が悪い場合は減点の対象とする。欠席が三分の一を超えた場合は不合格とする。

《備考》

連絡用のメールアドレスは第1回講義の際に伝える。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	シラバスを参照しながら授業の概要を理解し、経営学の学習意義について学ぶ。
2	現代社会における企業経営①	企業が社会に与える影響力について理解する。
3	現代社会における企業経営②	経済社会の変化と企業の関係について理解する。
4	企業活動と利害関係者	利害関係者の概念について理解する。
5	会社の種類	会社の種類について理解する。
6	株式会社の制度と意味	株式会社の特徴と会社設立の手続きについて理解する。
7	中間のまとめ	小テストを行い、これまでの学習内容の理解度を確認する。
8	財務と会計	企業の活動資金の調達と運用について理解する。
9	人的資源管理①	採用、配置、異動、評価、能力向上、退職など主要な管理項目について理解する。
10	人的資源管理②	働きがい、労使利害の調整について理解する。
11	生産管理①	生産の仕組みの基礎について理解する。
12	生産管理②	工程管理や品質管理の基礎について理解する。
13	マーケティング①	マーケティングの概念、顧客のニーズ調査、商品開発などについて理解する。
14	マーケティング②	価格設定、流通チャネル、販売促進について理解する。
15	まとめ	学習内容の振り返りを行う。

科目名	民法		科目ナンバリング	ECSL22008	
担当者氏名	豊福 一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力			

《授業の概要》

日常生活（就職後の会社での生活を含む）において、問題となりそうな典型的事例をテーマ毎に解説していきます。いずれも法律相談で寄せられることの多い内容です。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

特に指定しない。適宜講義時に紹介。

《授業の到達目標》

日常生活を送る上で最低限必要な法律的知識の習得。

《授業時間外学習》

特に指定しない。

《成績評価の方法》

レポート評価

《備考》

※授業到達目標に対し講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代日本の法制度	日本の法制度の概観と今後の講義テーマの概略。
2	学生と法律（1）－貸借関係	住居を借りる際の賃貸借契約の内容。
3	学生と法律（2）－売買取引	物を第三社から購入する際の法律関係。
4	学生と法律（3）－労働関係	就職の前後を通じた雇用契約についての法律関係。
5	法律行為と契約の成立	法律行為の定義、契約が成立する過程。
6	所有権	所有権の内容とその限界（近隣居住者との利害調整を含む）。
7	所有権の変動	所有者が変わる場合の法律関係。
8	不動産登記制度	主に所有権が変動する場合に関連する日本の登記制度の概要。
9	婚姻・離婚・養子縁組	離婚する際に生じる法律問題を概説。
10	後見制度	主に高齢化による判断能力の低下した者の権利擁護の制度。
11	相続（1）	相続人の範囲、法定相続分、相続の承認・放棄等の基本的知識。
12	相続（2）	遺言の作成方法や遺産分割協議の流れ。
13	民法の適用に関して、手形・小切手	民法が適用される場合（外国人が関係する場合）、その他約束手形の仕組み。
14	民法の特別法－商法・会社法	株式会社の仕組み。
15	民法と関連する諸法	民法の適用時に合わせて問題となる法律の概要。

科目名	グラフィックス		科目ナンバリング	EIPL21002	
担当者氏名	田中 正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

コンピュータグラフィックスの基礎的技法を学び、イラスト作成などの作品制作に結びつける。
 この授業では色や形の情報を数値で表すベクトルグラフィックスを主に扱います。
 フリーのCGソフトであるInkscapeを用いて作品作りを行います。

《授業の到達目標》

次のことがらを理解し活用することができる。
 画像の表現方法、データの扱い方、色彩、構成
 ドローソフトの使い方、グラフィックスの基礎的技法

《成績評価の方法》

毎回課題提出があります。
 毎回の提出物の評価の合計を成績評価とします。(100%)
 提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

なし
 資料はe-Learningシステムや学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考図書》

CGに関する書籍は数多く出版されているので、いろいろ読んでみることを薦めます。
 また、CGに限らず絵画を見ることも作品制作の参考になります。
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えると。
 作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》

基本をきっちり理解し、楽しく作品制作にとりくみましょう。
 e-Learningシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	授業概要とeラーニングの使い方
2	ドローソフトとは	ドロー系ソフトウェアの基本的な使い方
3	作品の構成	ドロー系ソフトウェアでの作品制作の考え方
4	パスの構造	パスの構造とその編集方法
5	ベジェ曲線	ベジェ曲線を描くツールの使い方
6	着色	パスの色、色の表現、グループ化
7	グラデーション	グラデーションの作り方、使い方
8	ビットマップデータ	画像ファイルの利用と作成
9	レイヤー (1)	レイヤーと部品の重なり
10	レイヤー (2)	レイヤーをうまく使って作業する
11	いろいろな機能	スナップ、整列、配置、クリップ
12	文字	文字に関する機能
13	作品制作(1)	印刷物としての作品を考える
14	作品制作(2)	作品の構成を考える
15	作品制作(3)	作品制作と講評

科目名	基礎数学B		科目ナンバリング	ECLL21007	
担当者氏名	森下 博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力			

《授業の概要》

授業では、情報科学の分野で必要とされる数学とその思考の方法について取り上げます。問題の本質を捉え、正解または最適解に近づくために必要な数学的手法の獲得を目指します。具体的には、基数変換、数理解析、線形代数、数理論理などの基礎概念について扱うこととし、その理解とともに、数学的なアプローチの強みとその解決を実感できることを目指します。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業の到達目標》

- 与えられた問題の本質を捉え、目標達成までのビジョンを描くことができる。
- 与えられた問題に対するアプローチの方法について、説明することができる。
- 与えられた問題を解決するまでの過程を、段階に分けて進めることができる。

《授業時間外学習》

授業で学んだ内容については、確実に身に付くようしっかり復習して下さい。また、より理解を深め、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みにも期待します。

《成績評価の方法》

提出課題40%
 筆記試験60%
 分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《備考》

日常の問題にはいつも正解と対策が用意されているわけではありません。解決に向けてどのように数学を駆使するか、そのアプローチの感覚を身に付けてほしいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明	授業の概要を説明するとともに、情報のための数学の具体的な事例紹介をおこなう。
2	データと情報の表現	問題解決のための戦略として、シミュレーションの活用と数学的思考について学ぶ。
3	情報と基数変換(1)	数の表現方法としてのさまざまな位取り記数法による進数表現と計算について学ぶ。
4	情報と基数変換(2)	十進数から二進数および十六進数への基数変換をおこない、色の表現について学ぶ。
5	情報と基数変換(3)	再帰的な構造をもつ問題のシミュレーションをもとに、指数の大きさについて学ぶ。
6	関数と数理解析(1)	数理モデルをもとに、定めた規則にしたがうシミュレーションの方法について学ぶ。
7	関数と数理解析(2)	漸化式による数列と座標変換について触れ、描画点の収束発散の様子について学ぶ。
8	関数と数理解析(3)	自己相似形の性質に触れ、新たな次元の定義による計算と図形の描画について学ぶ。
9	行列と線形代数(1)	行列の性質と和と積の演算を用いた問題解決のための行列の活用方法について学ぶ。
10	行列と線形代数(2)	連立方程式のさまざまな解き方の中で、公式による求め方とその拡張について学ぶ。
11	行列と線形代数(3)	行列の表現をもとに前進消去と後退代入による多元連立方程式の解法について学ぶ。
12	命題と論理演算(1)	コンピュータ内部での演算の仕組みを知るための論理演算とパターンについて学ぶ。
13	命題と論理演算(2)	ブール代数のさまざまな論理演算を確かめ、また符号誤りのチェックについて学ぶ。
14	命題と論理演算(3)	予想した命題の正しさの証明をするための手段として、数学的帰納法について学ぶ。
15	授業総括と振り返り	授業内容を総括し、情報のための数学のツールとそのアプローチについて振り返る。

科目名	経済数学A		科目ナンバリング	ECLL22008
担当者氏名	橋本 尚史			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-3 経済学の知識の応用			

《授業の概要》

経済学の分析対象は複雑に絡み合った経済システムです。このシステムに対して経済学は「数字・数式」を用いて経済システムをモデル化してその分析を容易にしました。すなわち、経済学にとって「数学」はコミュニケーション・ツールのひとつと考えられます。本講義では、「数学」という言葉の使い方を学び、経済学に対してどのように用いられているか学びます。

《授業の到達目標》

経済学に適用されているさまざまな数学の知識を学び、それを用いて自分で経済問題を分析できるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

定期試験50パーセント、受講生の理解度を確認するために複数回の小テスト30パーセント、そして平常点20パーセント。ただし、平常点(講義中の発言、受講態度)は点数の加点・減点で評価します。4回以上無断欠席した受講生には単位を与えません。わからないことはオフィスアワーなどで質問を受付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	「経済数学A」を学ぶ意義について具体的な例を用いて説明します。
2	数学の復習 (1)	経済数学Aに必要な高校までに学んだ数学について復習します。
3	数学の復習 (2)	高校までに学んだ数学と経済数学Aの関連性について説明します。
4	1次関数とグラフ (1)	1次関数の考えについて学びます。
5	1次関数とグラフ (2)	1次関数のグラフの見方について学びます。
6	1次関数の経済学への応用 (1)	市場均衡について学びます。
7	1次関数の経済学への応用 (2)	余剰分析について学びます。
8	2次関数とグラフ (1)	2次関数の考え方について学びます。
9	2次関数とグラフ (2)	2次関数のグラフの見方について学びます。
10	2次関数の経済学への応用 (1)	独占市場における企業の生産行動について考えます。
11	2次関数と経済学への応用 (2)	寡占市場における企業の生産行動について学びます。
12	微分 (1)	微分の考え方について学びます。
13	微分 (2)	微分の計算方法について学びます。
14	制約付き最大化・最小化問題	微分法の経済学への応用方法について学びます。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふり返ります。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

- 石川秀樹 (2010) 『単位が取れる 経済数学ノート』講談社.
- 尾山大輔, 安田洋祐 編 (2013) 『改訂版 経済学で出る数学』 日本評論社.

《授業時間外学習》

経済学に対する数学の応用方法に興味を持つこと、そして参考図書・講義資料を用いて復習することが大事です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

科目名	経済数学B		科目ナンバリング	ECLL22009
担当者氏名	橋本 尚史			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-3 経済学の知識の応用			

《授業の概要》

経済学の分析対象は複雑に絡み合った経済システムです。このシステムに対して経済学は「数学・数式」を用いて経済システムをモデル化してその分析を容易にしました。すなわち、経済学にとって「数学」はコミュニケーション・ツールのひとつと考えられます。本講義では、「数学」という言葉の使い方を学び、経済学に対してどのように用いられているか学びます。

《授業の到達目標》

経済学に応用されているさまざまな数学の知識を学び、それを用いて自分で経済問題を分析できるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

定期試験50パーセント、受講生の理解度を確認するために複数回の小テスト30パーセント、そして平常点20パーセント。ただし、平常点(講義中の発言、受講態度)は点数の加点・減点で評価します。4回以上無断欠席した受講生には単位を与えません。わからないことはオフィスアワーなどで質問を受付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	「経済数学B」を学ぶ意義について具体的な例を用いて説明します。
2	数学の復習 (1)	経済数学Bに必要な高校までに学んだ数学について復習します。
3	数学の復習 (2)	高校までに学んだ数学と経済数学Bの関連性について説明します。
4	指数について (1)	指数の意味について学びます。
5	指数について (2)	指数計算の方法について学びます。
6	指数の経済への応用 (1)	さまざまな金利の計算方法について学びます。
7	指数の経済への応用 (2)	将来価値と割引現在価値の考え方について学びます。
8	対数について (1)	対数の意味について学びます。
9	対数について (2)	対数計算の方法について学びます。
10	対数の経済への応用 (1)	指数と対数の関係について学びます。
11	対数の経済への応用 (2)	対数計算を用いてプロジェクトの比較方法について学びます。
12	数列について (1)	数列の考え方について学びます。
13	数列について (2)	数列の和の考え方について学びます。
14	数列の経済への応用	さまざまなプロジェクトの理論価値の導出方法について学びます。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふり返ります。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

1. 石川秀樹 (2010) 『単位が取れる 経済数学ノート』講談社.
2. 尾山大輔, 安田洋祐 編 (2013) 『改訂版 経済学で出る数学』日本評論社.

《授業時間外学習》

経済学に対する数学の応用方法に興味を持つこと、そして参考図書・講義資料を用いて復習することが大事です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

科目名	統計学	科目ナンバリング	ECSL22001
担当者氏名	高野 敦子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

インターネットの普及により私たちは多くのデータを容易に手に入れることができるようになりました。その背景にある現象を偏らない目で見つめるために必要なものが「統計的センス」です。これは、訓練で身につけることができます。激動する時代において安全に豊かに暮らしてゆくための知恵として、「統計的センス」を身に付けてもらうことを目的とします。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

統計の基本的な概念・技法に対して次のことを目指します。

- (1) 基本的な概念が「わかること」
- (2) 基本的な技法が「わかって使えること」具体的には、経済分析など実用的な題材に対して、計算機を使って基本的な統計処理ができることを目指します。

《授業時間外学習》

授業内に終了できなかった課題については、次の授業までに完成させて、提出してください。

《成績評価の方法》

到達目標(1)については、試験によって見ます。(2)については、確認テストと毎回提出してもらう課題を見ます。平常点(毎回の課題)を20%、期末試験を80%の割合で評価します。ただし、確認テストはその場で採点し、期末試験については必要に応じてコメントを返します。

《備考》

多くのデータに接して、「統計的」センスを磨きましょう。そして、日ごろからデータを単なる数字の並びと見るのではなく、その奥にある現象をみつめる習慣をつけましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身近で役立つ統計	学校、社会、学びの中に見られるごく身近な統計を取り上げ、実際に生活に役立っていることを確認する。
2	統計の面白さとこわさ	統計データやグラフから誤解が生じる例を学び、統計的センスとは何かを理解する。
3	グラフを描く意味と効果的な描き方	グラフの有効性を確認し、グラフの読み方、効果的な描き方を学ぶ。
4	EXCELを使ったグラフの描き方	EXCELを使った様々な種類のグラフ描き方を学ぶ。
5	中心傾向の測度	平均値、中央値、最頻値の特徴と求め方を学ぶ。
6	度数分布(1)	度数分布表の作り方、度数分布グラフの作り方を学ぶ。
7	度数分布(2)	度数分布グラフの見方を学ぶ。
8	データの散らばり度合い(1)	分散、標準偏差の求め方を学ぶ。
9	データの散らばり度合い(2)	箱ひげ図の描き方、見方を学ぶ。
10	幹葉図	幹葉図の描き方、見方を学ぶ。
11	母集団と標本	標本調査の考え方を学ぶ。
12	信頼区間	身近な例を取り上げ、信頼区間の求め方とその利用方法を学ぶ。
13	相関	経営問題を取り上げ、相関係数の求め方とその応用について学ぶ。
14	累積度数分布	累積度数分布の描き方見方を学び、その応用として、パレート図やABC分析について学ぶ。
15	まとめ	社会現象の意味を統計データに基づいて考える。

科目名	現代思想論	科目ナンバリング	ECSL22009
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

現代思想に関する比較的短く論理的な文章を読解します。代表的現代思想の論理と、各思想間の関係性を考察します。

また、文章を論理的かつ正確に読解するトレーニングを行います。雰囲気やフィーリングによりなんとなく理解するのではなく、文中に存在するキーワードを発見し、文章の論理構造を明らかにすることを通して、文章の正確な理解を目指します。

《テキスト》

なし

《参考図書》

講義中に随時示します。

《授業の到達目標》

文章の論理的読解力の獲得。代表的な現代思想の論点の獲得。

《授業時間外学習》

講義前には、前回まで、どのような方法論を用いて文章を読解したか、を反芻してください。新聞、雑誌、書籍などで、論理的な文章を見た際には、講義で用いた方法論を使った読解方法を試してみてください。

《成績評価の方法》

学期末に行うペーパーテストが50パーセントです。持ち込みは不可です。毎回の講義時に行う、その回の講義の理解度を確認する小テストの合計が50パーセントです。小テストの答案を作成していく過程で「発想力と理解度」を随時チェックし、コメント・アドバイスをしていきます。

《備考》

真剣な講義への参加を期待します。この講義では、思考の限界点を突破する真剣勝負が求められます。「頭が真っ白」になるまで考えていただきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	本講義の目的 論理的読解の方法論
2	現代思想とは1	現代思想に関する概説1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
3	現代思想とは2	現代思想に関する概説2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
4	構造主義への誘い1	構造主義1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
5	構造主義への誘い2	構造主義2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
6	構造主義への誘い3	構造主義3 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
7	構造主義への誘い4	構造主義4 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
8	ポスト・モダン思想のラビリンス (迷宮) 1	ポスト・モダン思想1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
9	ポスト・モダン思想のラビリンス (迷宮) 2	ポスト・モダン思想2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
10	ポスト・モダン思想のラビリンス (迷宮) 3	ポスト・モダン思想3 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
11	ネオ・リベラリズム1	ネオ・リベラリズム1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
12	ネオ・リベラリズム2	ネオ・リベラリズム2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
13	監獄国家・監視社会の克服1	ロイック＝ヴァカンの世界1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
14	監獄国家・監視社会の克服2	ロイック＝ヴァカンの世界2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
15	おわりに	全体の総括

科目名	現代社会文化論	科目ナンバリング	ECSL22011
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力		

《授業の概要》

現代の社会文化に関する比較的短く論理的な文章を読解します。現代社会文化論の論理と、各文化間の関係性を考察します。

また、文章を論理的かつ正確に読解するトレーニングを行います。雰囲気やフィーリングによりなんとなく理解するのではなく、文中に存在するキーワードを発見し、文章の論理構造を明らかにすることを通して、文章の正確な理解を目指します。

《授業の到達目標》

文章の論理的読解力の獲得。現代文化をめぐる代表的論点の獲得。

《テキスト》

なし

《参考図書》

講義中に随時示します。

《授業時間外学習》

講義前には、前回まで、どのような方法論を用いて文章を読解したか、を反芻してください。新聞、雑誌、書籍などで、論理的な文章を見た際には、講義で用いた方法論を使った読解方法を試してみてください。

《成績評価の方法》

学期末に行うペーパーテストが50パーセントです。持ち込みは不可です。毎回の講義時に行う、その回の講義の理解度を確認する小テストの合計が50パーセントです。小テストの答案を作成していく過程で「発想力と理解度」を随時チェックし、コメント・アドバイスをしていきます。

《備考》

真剣な講義への参加を期待します。この講義では、思考の限界点を突破する真剣勝負が求められます。「頭が真っ白」になるまで考えていただきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	本講義の目的 論理的読解の方法論
2	現代社会文化とは1	現代社会文化に関する概説1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
3	現代社会文化とは2	現代社会文化に関する概説2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
4	グローバリズムと競争至上主義社会1	グローバリズムの潮流1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
5	グローバリズムと競争至上主義社会2	グローバリズムの潮流2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
6	グローバリズムとナショナリズム1	強権的社会システムへの道1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
7	グローバリズムとナショナリズム2	強権的社会システムへの道2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
8	エスノセントリズム1	エスノセントリズムの陥穽1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
9	エスノセントリズム2	エスノセントリズムの陥穽2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
10	格差社会1	格差社会と文化1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
11	格差社会2	格差社会と文化2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
12	現代サブ・カルチャー論1	現代のサブカルチャーと文化の多様性1 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
13	現代サブ・カルチャー論2	現代のサブカルチャーと文化の多様性2 記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
14	全体の総括1	全体をふりかえって1
15	全体の総括2	全体をふりかえって2

科目名	国際政治学		科目ナンバリング	ECSL21004	
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

この講義では、国際政治を国際社会での「政治」と立場から捉えて、政治学的思考に必要な概念・ボキャブラリーを学ぶことから出発し、次第に国際社会特有のアクター（国家、国民、多国籍企業、NGO等）の特徴を理解することを目標としたい。その後、現実に起こっている「国際政治」をどのような概念操作で理解することができるのかを、諸君と討論を重ねながら考えていきたい。

《授業の到達目標》

- 国際政治学の基本的概念を習得できる。
- 現代に生起する様々な国際問題の構造的な理解が可能となる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配付する。

《参考図書》

参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の国際政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

国際政治を理解するという行為は、モデル (model) とマドゥル (muddle) の間の知的な往復運動に他ならないと私は考えています。皆さんとその知的興奮を楽しみたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	主体 (1)	さまざまな国際社会のアクター
2	主体 (2)	国家 (1) 帝国・王国
3	主体 (3)	国家 (2) 中世・封建国家
4	主体 (4)	国家 (3) 近代主権国家・絶対主義
5	主体 (5)	国家 (4) 近代主権国家・国民国家
6	構造 (1)	近代国際体系
7	構造 (2)	勢力均衡、パワーポリティクス
8	構造 (3)	相互依存、国家と世界経済
9	構造 (4)	世界システム
10	事例 (1)	米ソ冷戦と核兵器
11	事例 (2)	ポスト冷戦
12	事例 (3)	国連と地域主義
13	事例 (4)	国際経済と政治
14	事例 (5)	エスニシティ、民族紛争
15	事例 (6)	地球環境と南北問題

科目名	国際社会論	科目ナンバリング	ECSL22007
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

この講義では、まるで空気のように、私たちがふだん意識することのない「近代的」な現象を、様々なトピックをとりあげ、主に歴史的アプローチを使って議論していくことで、現代の私たちの生活を相対化する視点を提供したいと思っています。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

講義の中で随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 文化のもつ曖昧さ、凝集性、そして政治性を理解できる。
- 様々な国際的事象を理解するための思考ツールを習得できる。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

毎回、国際的であることを意識しつつ、いろいろなトピックを用意して、諸君とゆっくりと考えてみたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	いろいろな近代
2	近代以前の世界（1）	世界がまだいくつもあった頃
3	近代以前の世界（2）	神のあたたかい眼差しがあった頃
4	近代以前の世界（3）	王様がすべての中心であった頃
5	近代の到来（1）	大航海時代のヨーロッパ
6	近代の到来（2）	キリスト教世界の拡大
7	近代の到来（3）	フランス革命の衝撃
8	近代の到来（4）	ヨーロッパ国際体系の成立
9	近代の到来（5）	資本主義の誕生
10	近代の装置（1）	近代国家、近代戦争
11	近代の装置（2）	市場、貨幣
12	近代の装置（3）	学校、監獄、病院
13	近代の思想（1）	子ども、経済人
14	近代の思想（2）	進歩、進化、差別
15	近代の思想（3）	計画、文化、博物館

科目名	行政学 I		科目ナンバリング	ECRL22003
担当者氏名	木下 準一郎			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

行政学は国・地方の行政活動の分析を通じて行政の問題を見出して処方箋を書くこと、つまり行政の診断や治療を行うことを目指した学問です。行政学 I では主に「人」の側面から行政の問題について講義を行います。

《テキスト》

『行政学の基礎』風間規男編、一藝社、2007

《参考図書》

『行政学』[新版]西尾勝、有斐閣、2001
 『講座 行政学』（全6巻）西尾勝・村松岐夫編、有斐閣、1995

《授業の到達目標》

教科書の記述を理解できる。行政の活動や行政が抱える問題を理解できる。

《授業時間外学習》

テキストの指定された箇所を読んだ上で出席していることを前提に講義を進めますので、該当ページをあらかじめ読んでくること。

《成績評価の方法》

小テストを2回（40%）と定期試験（60%）を実施します。採点後にそれぞれコメントを付けて返却します。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えません。

《備考》

公務員試験を目指す学生は「行政学 I」と「行政学 II」を通年科目とみなして受講するとよい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明、公務員試験受験に関する特別指導について
2	行政とは何か	行政学を学ぶ目的、市民による行政統制
3	行政国家	国家の役割の拡大、職能国家あるいは福祉国家概念との比較
4	官房学	ロレンツ・フォン・シュタインの行政学
5	アメリカ行政学	現代行政学の誕生、アメリカ行政学説史
6	小テスト	1～5週までの学習範囲について小テストを行う予定
7	官僚制の概念	ウェーバー、ラスキ、マートンの官僚制
8	官僚の行動様式	インクリメンタリズム、レッドテープなど
9	日本の公務員制度	我が国における近代的公務員制度の確立について
10	諸外国の公務員制度	英国および米国における公務員制度の歩み
11	公務員制度改革	幹部人事のあり方について
12	小テスト	7～11週までの学習範囲について小テストを行う予定
13	官僚と政治家	諸外国における政官関係の比較
14	意思決定の仕組み	稟議制について
15	予算編成と会計検査	予算編成過程、決算の仕組み

科目名	行政学Ⅱ		科目ナンバリング	ECRL23004
担当者氏名	木下 準一郎			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力 			

《授業の概要》

行政学は国・地方の行政活動の分析を通じて行政の問題を見出して処方箋を書くこと、つまり行政の診断や治療を行うことを目指した学問です。行政学Ⅱでは主に「組織」の側面から行政の問題について講義を行います。

《テキスト》

『行政学の基礎』風間規男編、一藝社、2007

《参考図書》

『行政学』[新版]西尾勝、有斐閣、2001
『講座 行政学』（全6巻）西尾勝・村松岐夫編、有斐閣、1995

《授業の到達目標》

教科書の記述を理解できる、行政の活動や行政が抱える問題を理解できる。

《授業時間外学習》

テキストの指定された箇所を読んだ上で出席していることを前提に授業を進めますので、該当ページをあらかじめ読んでくること。

《成績評価の方法》

小テストを2回（40%）と定期試験（60%）を実施します。採点后にそれぞれコメントを付けて返却します。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えません。

《備考》

公務員試験を目指す学生は「行政学Ⅰ」と「行政学Ⅱ」を同年科目とみなして受講するとよい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明など
2	組織の理論（1）	ギューリックの行政理論
3	組織の理論（2）	バーナードの組織理論
4	国家行政組織	行政機関の構造
5	ラインとスタッフ	我が国独特のスタッフ組織
6	小テスト	1～5週までの学習範囲について小テストを行う予定
7	内閣制度の沿革	内閣制度の歴史
8	議院内閣制	首相権限の強化、内閣委員会制度、法案成立率
9	大統領制	米国における大統領と議会との関係
10	行政改革と行政管理	国家公務員制度改革基本法
11	小テスト	7～10週までの学習範囲について小テストを行う予定
12	日本の政府間関係	国と地方との関係の姿
13	諸外国の政府間関係	米国の連邦制度
14	住民による行政統制	直接請求制度、住民投票
15	自治とNPO	コミュニティ・ビジネス

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	比較文化論	科目ナンバリング	ECSL22010
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

本授業においては、いくつかの国または地域における文化を、主として映画観賞によって感じ取り、それらを比較考察する。

《テキスト》

とくには指定しない。

《参考図書》

とくには指定しない。

《授業の到達目標》

本授業では、さまざまな文化の中で生活した人々の声に耳を傾け、それをふまえたうえで日本文化や「日本のかたち」などについて、みなさんが自力で思索を深められ、それを文章で表現できるようにしたい。

《授業時間外学習》

各国、各文化圏の文学や映像の作品に親しむこと。

《成績評価の方法》

各映画を観て考察したことを書いてもらう複数回の小テストの合計点数（100%）で評価する。不合格者には再挑戦の機会を与えることがある（詳細は授業中に案内する）。小テストはコメントを付して返却し、意見は可能な限り随時受け付ける。担当者連絡先はokamoto@hyogo-dai.ac.jpである。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	米国映画鑑賞(1)	「顔のない天使」(前)
3	米国映画鑑賞(2)	「顔のない天使」(後)
4	米国映画鑑賞(3)	小テスト(考察を書く)
5	中国映画鑑賞(1)	「芙蓉鎮」(前)
6	中国映画鑑賞(2)	「芙蓉鎮」(中)
7	中国映画鑑賞(3)	「芙蓉鎮」(後)
8	中国映画鑑賞(4)	小テスト(考察を書く)
9	韓国映画鑑賞(1)	「われらの歪んだ英雄」(前)
10	韓国映画鑑賞(2)	「われらの歪んだ英雄」(後)
11	韓国映画鑑賞(3)	小テスト(考察を書く)
12	日本映画鑑賞(1)	「希望の国」(前)
13	日本映画鑑賞(2)	「希望の国」(後)
14	日本映画鑑賞(3)	小テスト(考察を書く)
15	本授業の総括	文化を相対化してとらえることの重要性

科目名	情報社会論	科目ナンバリング	ECSL23013
担当者氏名	木下 準一郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

テレビや新聞やラジオ、パソコンや携帯電話など、私たちの生活は数多くのメディアに囲まれ、それらを介して私たちは膨大な量の情報に接している。こうした社会はしばしば「情報社会」と呼ばれ、それは現代社会を特徴付ける大きな要因の一つとなっている。本講義ではメディアが発展してきた歴史、社会や個人の生活におけるメディアの役割について考え、情報社会を生き抜くためのリテラシーを身に付ける。

《授業の到達目標》

- ・様々なメディアが発展してきた歴史と社会のかかわりについて説明できる。
- ・「情報」という視点からグローバリズムとローカリズムをめぐる問題について理解する。
- ・広い意味でのメディアリテラシーを高めることによって、メディアを介した情報を批判的に読み解くことができる。

《成績評価の方法》

平常点（授業内討論等への参加とその成果）40%、定期試験60%とする。定期試験は論述形式の試験を予定している。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明を行う
2	情報社会の歴史	メディア（テクノロジー）の歴史について概観する
3	情報社会論の系譜	欧米における情報社会論の系譜について説明する
4	日本における情報社会	日本における情報社会に対する認識とその問題の捉え方について説明する
5	電話	電話の発明からスマートフォンの普及までの技術史と双方向の電子メディアの社会的・文化的影響について考える
6	映画	映画産業の市場と流通の発展とその社会的・文化的影響について考える
7	テレビ	テレビ産業の発展とその社会的・文化的影響について考える
8	知的財産権	著作権、クリエイティブコモンズなど、メディアと表現の自由の問題について説明する
9	コンピュータ犯罪	コンピュータウイルス、不正アクセス、情報リークの問題について説明する
10	個人情報の保護	プライバシー侵害、名誉棄損、個人情報保護について法律について説明する
11	電子商取引	インターネットと広告、オンライン通販などインターネットビジネスについて考える
12	情報都市論（1）	ヴァーチャルな都市とリアルな都市について考える
13	情報都市論（2）	情報社会におけるグローバリズムとローカリズムについて考える
14	情報都市論（3）	ITは私たちの都市をどのように変化させるのかについて考える
15	学習のまとめ	この授業の総括と今後学ぶべきことについて話し合う

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

授業時間内に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- （予習）授業中に次回の予習について指示する。
- （復習）配布したプリントの中の重要な用語や議論について説明できるよう復習する。

《備考》

第1回目の授業においてより詳細な授業計画および成績評価方法等について説明を行うので必ず出席すること。授業はアクティブラーニングゾーンにて実施する。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	いなみ野ため池学		科目ナンバリング	ECRL23005	
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 				

《授業の概要》

日本一を誇るいなみ野ため池群。今ため池は、米づくりだけでなく、地域みんなのため池として重宝され始めた。兵庫大学は、いなみ野台地に立地し、借景に寺田池がある。授業は、身近にあるため池を教材としながら、いなみ野台地の歴史・文化・伝統、そしてため池の築造技術や水生動植物の生態にまで及ぶ。なぜ、いなみ野台地に日本一のため池灌漑ができたのかを問いかけながら「ため池発見」をテーマに授業する。

《授業の到達目標》

①地域の特色を理解すること。②ため池を必要とした歴史的・経済的背景を理解し、ため池の存在理由を理解すること。③いなみ野台地で生きてきた先人の苦勞と叡智を学び、問題の発見能力・分析能力・解決能力を身につけること。

《成績評価の方法》

授業中の提出物 30% 課題発表 70%
レポートにはコメントをつけて返却する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

池本廣希著『地産地消の経済学』新泉社 2008年

《授業時間外学習》

地元から立ち上げる学＝地元学の学習体験として、自分の住む地域の特色といなみ野台地の特色を比較検討し、たんけん・はっけん・ほっとけんの視座で時間外学習を重ねること。

《備考》

★授業はオムニバス形式で展開する。（学内講師2名、学外講師4名）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス	授業の概要についてガイドする。
2	いなみ野ため池学入門	ため池の役割や価値とは何か？ため池ができた歴史的背景は何か？について考える。
3	はりまのため池	全国で最もため池が発達した播磨。その気候的・地形的・歴史的・経済的背景は何かについて考える。
4	寺田池のフィールドワーク	兵庫大学の借景としてある寺田池を散策する。自分の目と感性で問題を地場から発見し、いなみ野ため池学を学んだ学として意義づける。
5	ため池とダムの違い	ダムとため池の違いを考察し、ため池の存在理由とその価値の再発見をする。ため池の構造やため池に水をどのように溜め、どのように配水するのかについても学ぶ。
6	ため池の歴史	スリランカを源流として東南アジア・中国を経て渡来したため池伝播のルートと留学生空海が築造したといわれている香川県の満濃池について話題提供する。
7	共有地（コモンズ）としてのため池の存在価値	社会的共通資本としてのため池の存在価値を確認し、地域コミュニティの場として新たなため池の価値について話題提供する。
8	ため池と日本中世	現代社会の起点が日本中世史にあると指摘する中世史研究者からいなみ野ため池について話題提供する。
9	ため池と土木技術	ため池の技術について水工土木の研究者から話題提供する。
10	ため池と生き物（1）フィールドワーク	水生動植物の専門家と寺田池を散策し、ため池の生き物と環境について体験学習する。
11	ため池と生き物（2）座学	寺田池のアオコ発生のメカニズムとその対策、寺田池と地域の活性化について考える。
12	いなみ野ため池ミュージアムについて	東播磨県民局担当者から兵庫大学とかかわってきたいなみ野ため池ミュージアムについて話題提供する。地域行政の在り方や、地域自治の在り方について考える。
13	めだかのコタローといなみ野ため池ミュージアム	めだかのコタロー劇団の関係者から子供たちとため池について話題提供する。
14	いなみ野ため池灌漑と淡山疏水について	いなみ野台地のため池灌漑の意義について淡山疏水を中心に考え、いなみ野台地に住む先人の苦勞と叡智に学ぶ。
15	まとめ	いなみ野ため池学講義からテーマを見つけ、それをまとめて各自発表と意見交換する。

科目名	いなみ野まちおこし学		科目ナンバリング	ECRL23006	
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力			

《授業の概要》

「まちおこし・まちづくり」は地域にとって重要な課題であると同時に固有の歴史や文化を背景としたものでなければなりません。現場で起きていることを直視し、他地域の動向を把握することも必要です。現状と課題について、様々な分野での実績を学び、これからの地域のあり方について考えます。

《授業の到達目標》

地域の現状を把握し、問題点を発見し、他地域との比較をふまえた分析を行い、解決策や展望を提示できる力を高めることを目標とします。

《成績評価の方法》

受講した講義の中から関心を持ったテーマについてのレポート(100%)、または、講義から各自が触発されたテーマについてのレポート(100%)で評価します。
 レポートにはコメントをつけて返却する。

《テキスト》

使用しません。必要に応じてプリントや資料を配布します。

《参考図書》

「農山村は消滅しない」小田切徳美著
 「地域の力」-食・農・街づくり- 大江正章著
 「里山資本主義」藻谷浩介著
 他

《授業時間外学習》

日常的に接する事柄から、地域の問題・課題・解決策・展望を読み取ってください。さらに、地域問題に関する知識も深めてください。

《備考》

授業は、学内および学外から講師を招き、オムニバス形式で行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	「いなみ野まちおこし学」の目的と課題と方法 (池本)
2	座学1	いなみ野台地の特色(1) 自然的環境 (池本)
3	座学2	いなみ野台地の特色(2) 社会的環境 (池本)
4	地元学1	いなみ野台地の田んぼとため池をつなぐ水路(みずのみち) (池本)
5	地元学2	地域ビジョンとまちおこし (瀧本)
6	地元学3	地産地消とまちおこし (池本)
7	地元学4	市(いち)とまちおこし (金子)
8	地元学5	文化・歴史遺産とまちおこし (宮本)
9	地元学6	地域教育とまちおこし (岡本)
10	地元学7	地域メディアとまちおこし (木下準)
11	地元学8	NPOとまちおこし (福原)
12	地元学9	地域ブランドとまちおこし (金子)
13	地元学10	地域観光とまちおこし (李)
14	教室からの報告1	「いなみ野まちおこし学」で発見したこと (受講生)
15	教室からの報告2	これからの「いなみ野まちおこし」に何が必要か? (受講生)

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	メディアと政治	科目ナンバリング	ECSL23014
担当者氏名	木下 準一郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

メディアの進歩が民主政治の発展とどのような関わりを持ってきたかについて解説します。また、インターネットの普及が政治と行政の在り方にどのような変革を与えるかを考えます。

《テキスト》

テキストは指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

『大統領とメディア』石澤靖治、文春新書、2001
 『コミュニケーションの政治学』鶴木眞、慶應義塾大学出版会、2003

《授業の到達目標》

政治過程においてメディアが演じている役割を理解し、国内外の政治を批判的に見る力を身に付けることができます。

《授業時間外学習》

適宜、宿題を指示します。

《成績評価の方法》

小テストを1回（30%）と定期試験（70%）を実施します。採点後にそれぞれコメントを付けて返却します。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えません。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明など
2	メディアと民主政の歴史	政治的コミュニケーションの種類と性格
3	メディアの機能 (1)	情報の収集と分析
4	メディアの機能 (2)	情報の発信と説得
5	記者クラブ制度	日米記者クラブの比較
6	演説と広告	政治演説と政治広告
7	情報公開	我が国の情報公開制度
8	小テスト	1～7週までの学習範囲について小テストを行う予定
9	大統領選挙とディベート	アメリカ大統領選挙の仕組み
10	選挙とインターネット	選挙運動とインターネット
11	日本の選挙とメディア	公職選挙法と政治広告
12	ネット時代の市民運動	中東におけるジャスミン革命
13	報道官の仕事	情報幕僚の日米比較
14	世論と現代民主主義	電子民主主義の可能性
15	学習のまとめ	これから学ぶべきこと

科目名	インターンシップ		科目ナンバリング	ECSL22012	
担当者氏名	榎木 浩、李 良姫、土方 直子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-1 キャリア形成力			

《授業の概要》

企業等の一員として、組織で働くことの苦労や喜びを体験することを通じて、社会を知る。8月～9月に企業等で5日間（40時間）以上の実習を行う。実習の前後に事前事後指導を行う。受入先により、期間・日数・時間は異なる。受入先企業等は、実習生の希望は聞くが、原則として大学が調整して決定する。実習後は、実習成果をレポートとして提出する。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

必要に応じて事前指導時に指示する。

《授業の到達目標》

- ・企業等で実際に作業ができる。
- ・報告書が正しく書ける。
- ・社会人として行動できる。

《授業時間外学習》

実習中毎日の作業日誌を書き、その日の作業報告、翌日の作業計画を示すこと。

《成績評価の方法》

受入先企業等からの報告(50%)と、実習後のレポート(50%)により評価する。実習での遅刻、欠勤があった場合は、単位認定は行わない。分からないことは、オフィスアワー等で受け付ける。

《備考》

受入先企業等の人達に兵庫大学生の良さをアピールしよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	インターンシップの目的、キャリア開発、スケジュールの説明
2	事前研修	インターンシップの目的・意義、大学での学びを社会でどのように役立たせるか等を考え、業界研究や企業研究を行う。
3	事前指導	インターンシップ参加にあたってのビジネスマナー等の事前指導
4	実習	受入先での実習（受入先により、期間・日数・時間は異なる）
5	実習	受入先での実習
6	実習	受入先での実習
7	実習	受入先での実習
8	実習	受入先での実習
9	実習	受入先での実習
10	実習	受入先での実習
11	実習	受入先での実習
12	実習	受入先での実習
13	実習	受入先での実習
14	実習	受入先での実習
15	事後研修・報告会	報告書、作業日誌の提出。振り返りと報告会。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	フィールドワーク		科目ナンバリング	ECRL22002
担当者氏名	池本 廣希、木下 準一郎、岡本 洋之、金子 哲			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 			

《授業の概要》

1. 授業の最初と最後は、全員を対象にガイダンスとまとめをおこないます。
2. 五人の担当者によるローテーションシステムで授業を展開します。

《テキスト》

使用しません。必要に応じてプリント・資料を配布します。

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

地域デザインコースの入門演習。地域の事象を自分の足と目で直視し、自分の頭で考え、何かを発見する。五感を研ぎ澄まし、発見する力を養います。

《授業時間外学習》

特に指定はしませんが、日常的に接することから地域の問題や課題を発見する努力を重ねてください。

《成績評価の方法》

事前学習・現地調査・事後学習の成果で評価します。各担当者20点を満点として評価し、五人の担当者評価点の合計を最終評価とします。

《備考》

授業の性質上、2コマ連続で授業を実施します。雨天の場合は現地調査を中止する場合があります。担当五人の現地調査の詳細は初回の授業時間にプリントで配布します。

※最終回の発表に対し、講評を行いフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	フィールドワーク実施についての全体ガイダンス スケジュールの詳細はこの時間に配布する
2	講義と事前学習	前半：フィールドワークとは 後半：一回目担当者によるグループごとの事前学習
3	フィールドワーク	一回目担当者によるグループごとの現地調査
4	事後学習と事前学習	前半：一回目担当者によるグループごとの事後学習 後半：二回目担当者によるグループごとの事前学習
5	フィールドワーク	二回目担当者によるグループごとの現地調査
6	事後学習と事前学習	前半：二回目担当者によるグループごとの事後学習 後半：三回目担当者によるグループごとの事前学習
7	フィールドワーク	三回目担当者によるグループごとの現地調査
8	事後学習と事前学習	前半：三回目担当者によるグループごとの事後学習 後半：四回目担当者によるグループごとの事前学習
9	フィールドワーク	四回目担当者によるグループごとの現地調査
10	事後学習と事前学習	前半：四回目担当者によるグループごとの事後学習 後半：五回目担当者によるグループごとの事前学習
11	フィールドワーク	五回目担当者による現地調査
12	事後学習と講義	前半：五回目担当者によるグループごとの事後学習 後半：全体のまとめ
13	予備日	雨天に備えた予備日
14	予備日	雨天に備えた予備日
15	口頭発表会	フィールドワーク全五回を終了して諸君たちが感じたこと・発見したことについて発表をおこないます。

科目名	経済情報特論G		科目ナンバリング	ECPL23007
担当者氏名	橋本 尚史			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-3 経済学の知識の応用		

《授業の概要》

近年、年金問題や預金利子率の低下のため人々は株式投資や投資信託に注目しています。また、最近では経済成長が著しい中国やブラジル、そして南アフリカなどグローバルに株式投資を行う個人投資家もあらわれています。本講義の受講生には、株式投資について興味を持っていることを期待します。

《授業の到達目標》

さまざまな資産、特に株式や債券のしくみと株式投資をおこなうときに役立つ指標の見方を習得することを目標としています。したがって、本講義を受講することで株式投資をおこなうときに役立つツールを身に付けられます。また、機会があれば企業が提供している「株式投資ゲーム」に参加する予定です。

《成績評価の方法》

定期試験50パーセント、中間テストもしくはレポート30パーセント、そして平常点20パーセント。ただし、平常点（講義中の発言、受講態度）は点数の加点・減点で評価します。また、4回以上無断欠席した受講生には単位を与えません。また、わからないことはオフィスアワーなどで質問を受付けます。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

1. 竹内弘樹 (2009) 『はじめての株1年生 新・儲かるしくみ損する理由がわかる本』 明日香出版社。
2. 石野雄一 (2007) 『ざっくりわかる ファイナンス』 光文社。
3. 石野雄一 (2006) 『道具としてのファイナンス』 日本実業出版社。

《授業時間外学習》

新聞を読み経済に興味を持つこと、そして参考図書・講義資料を用いて復習することが大事です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	本講義を学ぶ意義について具体的な例を用いて説明します。
2	貯蓄と投資	貯蓄と投資の違いについて学びます。
3	株式について	株式の成り立ちと会社、そして投資家から見た株式のメリットについて学びます。
4	リスクとリターン (1)	投資理論の基本的な考え方である「リターン」について学びます。
5	リスクとリターン (2)	投資理論の基本的な考え方である「リスク」について学びます。
6	ポートフォリオ理論	ポートフォリオ理論のメリットについて学びます。
7	ポートフォリオ理論の実践	ポートフォリオ理論のメリットについて実際のデータを用いて考えます。
8	さまざまな投資指標 (1)	投資分析の一つであるファンダメンタル分析で用いられるさまざまな指標について学びます。
9	さまざまな投資指標 (2)	投資分析の一つであるファンダメンタル分析で用いられるさまざまな指標について学びます。
10	さまざまな投資指標 (3)	投資分析の一つであるファンダメンタル分析で用いられるさまざまな指標について学びます。
11	株式投資シミュレーション (1)	株式取引のルールについて学び、実際にそのルール上で株式投資を体験します。
12	株式投資シミュレーション (2)	株式取引のルール上でいくつかのミッションを体験します。
13	株式投資シミュレーション (3)	実際にそのルール上で株式投資をおこないます。
14	株式投資シミュレーション (4)	実際にそのルール上で株式投資をおこないます。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふり返ります。

科目名	経済情報特論H		科目ナンバリング	ECPL23008
担当者氏名	橋本 尚史			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用		

《授業の概要》

資産（たとえば、土地、マンション、そして株式など）を購入するとき、提示された価格が適正であるか重要です。なぜなら購入した資産の価格が適正価格以上だった場合、資産の価格は下落して損失を被る可能性が高いためです。それでは、その適正な価格はどのように求めればよいのでしょうか？本講義ではファイナンス理論の視点からさまざまな資産の適正価格の求め方について学びます。

《授業の到達目標》

さまざまな資産、特に株式や債券の適正価格を自分で求めることができるようになることを目標としています。したがって、本講義を受講することで証券投資をおこなうときに役立つツールを身に付けられます。また、機会があれば日本経済新聞社が主催している「日経STOCKリーグ」に参加する予定です。

《成績評価の方法》

定期試験50パーセント、中間テストもしくはレポート30パーセント、そして平常点20パーセント。ただし、平常点（講義中の発言、受講態度）は点数の加点・減点で評価します。また、4回以上無断欠席した受講生には単位を与えません。また、わからないことはオフィスアワーなどで質問を受付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	本講義を学ぶ意義について具体的な例を用いて説明します。
2	証券市場とは	実物経済における証券市場の役割について考えます。
3	証券とは	証券市場で取引されている証券の役割について考えます。
4	将来価値とは(1)	将来価値の考え方について学びます。
5	将来価値とは(2)	さまざまな問題に対して将来価値の考え方をを用いて考えます。
6	現在価値とは(1)	現在価値の考え方について学びます。
7	現在価値とは(2)	さまざまな問題に対して現在価値の考え方をを用いて考えます。
8	証券の適正価格(1)	株式の理論価格の求め方について学びます。
9	証券の適正価格(2)	債券の理論価格の求め方について学びます。
10	投資に役立つ理論(1)	ポートフォリオ理論の考え方について学びます。
11	投資に役立つ理論(2)	現実のデータを用いてポートフォリオ理論を実践します。
12	加重資本コスト(1)	加重資本コストの考え方について学びます。
13	加重資本コスト(2)	現実のデータを用いてさまざまな企業の加重資本コストを求めます。
14	企業価値	企業価値の求め方について学びます。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふり返ります。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

1. 榊原茂樹 ほか (2010) 『入門証券論[新版]』有斐閣.
2. 石野雄一(2007)『ざっくりわかる ファイナンス』光文社.
3. 石野雄一(2006)『道具としてのファイナンス』日本実業出版社.

《授業時間外学習》

新聞を読み経済に興味を持つこと、そして参考図書・講義資料を用いて復習することが大事です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

科目名	経営学総論		科目ナンバリング	EEBL32002	
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ○ 3-4 経営学の知識の応用			

《授業の概要》

企業活動の本質を理解するために経営管理の理論、組織構造、経営戦略の基礎的な問題、企業の国際化、環境に配慮した経営、NPOをはじめとする非営利組織の経営について解説する。

なお、企業にかかわる大きなニュースについては、随時テキストの範囲を超えてトピックスとして取り上げる。

《テキスト》

周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔『経営学2』実教出版、2009年

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- 代表的な経営学説について理解できるようになる。
- 社会の変化と企業の対応（国際化、社会的責任、環境への配慮、非営利組織の経営）について理解できるようになる。
- これからの企業のあり方や組織における自らの働き方について考えられるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：テキストの該当箇所を読んでくること（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。
- (2) 復習の方法：授業のノートを見返して疑問点を考えてくることとする。

《成績評価の方法》

(1) 定期試験70%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）、(2) 小テストおよびレポートなどの提出物を30%として評価する。授業期間中2回程度、授業の前に小テストを行い、その場で自己採点し、自らの理解度を確認する。

《備考》

連絡用のメールアドレスは第1回講義の際に伝える。当該科目を履修する上であらかじめ履修しておくのが望ましい科目は「経営学入門」である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	シラバスを参照しながら授業の概要を理解し、経営学の学習意義や他の科目とのかかわりについて理解する。
2	経営管理①	組織の管理の重要性、マネジメントのプロセス、組織図について理解する。
3	経営管理②	ライン・スタッフ関係、管理階層について理解する。
4	経営戦略①	経営戦略の概念、多角化、企業ドメインについて理解する。
5	経営戦略②	経営戦略と組織の関係、競争戦略について理解する。
6	グローバル化と企業	グローバル化の意味、国際化した企業活動の実態について理解する。
7	多国籍企業の経営戦略	現地適応とグローバル標準化について理解する。
8	異文化マネジメント	異文化を理解し、そのマネジメントについて理解する。
9	事例研究	企業活動の具体的な活動を学ぶため、1つ企業を決めてその企業概要をレポートにまとめる。
10	企業の社会的責任	企業による社会貢献活動、コーポレートガバナンスの概念について理解する。
11	環境マネジメント	環境経営の概念と具体的な取り組み事例について理解する。
12	エコビジネス	エコビジネス市場、事業戦略について理解する。
13	多様化する組織と企業	NPO法人、非営利組織のマネジメントについて理解する。
14	情報と企業経営	情報化社会と企業の戦略について理解する。
15	まとめ	学習内容の復習と確認を行う。

科目名	簿記演習Ⅱ		科目ナンバリング	EEAS22003	
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

前半は商業簿記の基本原則を習得し、日商簿記検定3級に向けた基礎を学習します。後半は問題演習を中心に貸借対照表と損益計算書の作成方法を習得します。2月に行われる日商簿記検定3級合格を目指しましょう。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

簿記演習Ⅰ・Ⅱを通じて簿記の基本を身につけます。この科目を学んだ後、会計学入門・会計学・工業簿記・財務諸表論・簿記論へと学習を進めることで、会計学の総合的な専門知識を習得することができます。

《授業時間外学習》

宿題を出しますので、次回授業時に提出してください。

《成績評価の方法》

授業中に行う小テスト（3回程度）で評価します。

《備考》

12桁の電卓が必要です。日商簿記検定の取得は就職にも有利です。是非合格を目指しましょう。

※次々回授業時に小テストの解答を示します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	簿記学習の目的
2	簿記の目的	貸借対照表・損益計算書・仕訳
3	商品売買（1）	仕入と売上
4	商品売買（2）	売上原価の算定（決算整理仕訳）
5	固定資産（1）	固定資産の取得・減価償却（決算整理仕訳）
6	固定資産（2）	固定資産の売却
7	手形取引（1）	手形取引の決済と貸倒
8	貸倒引当金	貸倒損失と貸倒引当金
9	復習と確認（1）	簿記の基本的処理の確認と総合演習
10	費用の見越しと繰り延べ	費用の見越しと繰り延べ（決算整理仕訳）
11	手形取引（2）	手形の裏書と割引・為替手形
12	未払金と未収金	仕入と売上以外の取引
13	仮払金と仮受金	仮払時・仮受時の処理方法と確定時の処理方法
14	有価証券	有価証券の購入・売却・評価替（決算整理仕訳）
15	復習と確認（2）	簿記の基本的処理の確認と総合演習

科目名	工業簿記		科目ナンバリング	EEAL22005	
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

前半は工業簿記の基本原理を習得し、日商簿記検定に向けた基礎を学習します。後半は問題演習を中心に原価計算と原価管理の方法を習得します。2月に行われる日商簿記検定合格を目指しましょう。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

原価の計算方法と原価の管理方法を体系的に身につけます。個別原価計算・総合原価計算・標準原価計算・直接原価計算と学んだ後、会社の収益と費用に注目し、問題点を発見し、分析する力を習得することができます。

《授業時間外学習》

期末レポートを作成して頂きます。

《成績評価の方法》

出席（20%）、中間テスト（40%）、期末レポート（40%）で評価します。

《備考》

電卓が必要です。商業簿記の知識は必要ありません。

確認テストについては、次回授業時に解答を示します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	簿記学習の目的
2	工業簿記の目的	商業簿記と工業簿記の流れ
3	工業簿記の種類	原価計算と原価管理
4	総合原価計算（1）	総合原価計算の流れ
5	総合原価計算（2）	平均法と先入先出法
6	総合原価計算（3）	仕損と減損・副産物
7	個別原価計算（1）	個別原価計算の流れ
8	個別原価計算（2）	仕掛品勘定・製品勘定・売上原価勘定
9	復習と確認（1）	工業簿記の基本的処理の確認と総合演習
10	標準原価計算（1）	標準原価計算の流れ
11	標準原価計算（2）	材料費と労務費の分析
12	標準原価計算（3）	製造間接費の分析
13	直接原価計算（1）	直接原価計算の流れ
14	直接原価計算（2）	損益計算書の分析
15	復習と確認（2）	工業簿記の基本的処理の確認と総合演習

科目名	簿記論		科目ナンバリング	EEAS23008	
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力			

《授業の概要》

簿記演習Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象に、中級簿記（日商簿記検定3級～2級の商業簿記）レベルの能力を養います。簿記は、厳密な理論に基づいて構築されています（かつては数学の一分野でした）。積み木を一つ一つ積み上げるように進んでいきますので、しっかりついて来てください。途中を飛ばすと後が分からなくなりますので、欠席しないようにして下さい。特に、最初が重要です。

《授業の到達目標》

企業会計の基礎となる簿記の知識と技術の習得を図り、税理士、公認会計士試験に合格するための基礎学力を身に付けます。

《成績評価の方法》

到達度確認テスト（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。確認テストについては、次回授業時に解答を示します。

《テキスト》

使用しませんが、『合格テキスト日商簿記3級』、『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）に準拠して授業を行います。持っていれば役に立ちます。

《参考図書》

『合格トレーニング日商簿記3級』『合格トレーニング日商簿記2級』（TAC出版）

《授業時間外学習》

その日の授業に係る内容の宿題を出しますので、次回授業時に提出してください。提出時に宿題の解答を示します。

《備考》

日商簿記検定3級の基本（精算表の仕組みまで）を理解していることが前提です。経済情報学部の授業としては高度な内容の授業となります。単位取得のみが目的の人はご遠慮ください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現金と当座預金の処理	小切手、現金過不足、当座借越
2	手形の処理	約束手形の処理
3	その他の処理1	借入金と利息計算、前受・前払金、未収・未払金、有価証券
4	その他の処処理2	引出金と資本金、訂正処理
5	試算表	試算表作成の総合演習
6	決算手続き1	有価証券の評価、現金過不足、消耗品、売上原価の計算
7	決算手続き2	貸倒引当金、減価償却、固定資産の売却、前受・前払金、未収・未払金と再振替処理
8	決算手続き3	精算表作成の総合演習
9	商品売買	売上原価の計算と棚卸減耗損、商品評価損
10	固定資産	買換え、除却、消失
11	有価証券	購入、売却、評価替、社債の取得と利息の計上、社債の償還
12	引当金	引当金の設定と決算整理
13	株式	株式発行時の処理、無形固定資産・繰延資産の決算処理
14	社債	社債の発行と償却
15	剰余金の処分	株式会社の税金、剰余金の配当と処分

科目名	会計学入門		科目ナンバリング	EEAL22002	
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

会計の技術基盤は簿記 (Book-Keeping) ですから、まず、会計はなぜ必要なのか、我々の社会とどう関係があるのかについて学びます。続いて、初級簿記の仕組み (簿記原理) を学習した上で、資産会計、負債会計、資本金会計、損益会計の概要へと進みます。そして、通常の会計学の学びとは逆に、最後に会計原則、一般原則の意義を理解することとします。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

企業は、仕入先、販売先、銀行、政府、従業員、投資家などの様々な主体と利害関係を持ちながら活動をしています。会計とは、こうした利害関係者に企業の財務情報を提供するものです。この授業では、財務情報を作成するルールと、財務情報がいったい何を示しているのか、財務情報から何を読み取り、いかにして企業の今を知るのかについて学びます。

《授業時間外学習》

時々、宿題を出します。次回授業時に解答を示します。

《成績評価の方法》

到達度確認テスト (3回) の状況 (90%) と宿題 (10%) で評価します。確認テストの解答は、次回授業時に行います。

《備考》

会計は「ビジネス言語」と言われるように、ビジネス社会での必須知識です。「税理士」「公認会計士」「国税専門官 (国家公務員)」など職業会計人を目指すにも必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	会計学とは	会計学とは何か。授業方針、成績評価の方法などのオリエンテーション
2	企業と利害関係者	会社とは何か。会社の意義と会計学の関係
3	簿記と会計学 1	簿記と会計学の違い 仕訳から試算表まで
4	簿記と会計学 2	複式簿記の仕組み 精算表と決算
5	財務諸表	財務諸表の体系
6	貸借対照表	貸借対照表の構成 資産・負債の分類基準 (流動と固定)
7	資産会計 1	流動資産の処理 有価証券、売上債権、棚卸資産
8	資産会計 2	固定資産の処理 固定資産の範囲と区分。固定資産の取得原価、減価償却
9	負債会計	負債の認識 引当金
10	純資産の会計	資本と利益の基礎概念 資本準備金と利益準備金
11	損益計算書	損益計算書の形式と作成方法 5つの利益とその意義
12	企業結合	企業結合とのれん会計
13	会計原則 1	会計原則の意義と必要性
14	会計原則 2	一般原則、費用収益対応の原則の概要と意義
15	復習と確認	総合演習を通じた復習と到達度の確認

科目名	会計学		科目ナンバリング	EEAL22006	
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ◎ 3-4 経営学の知識の応用			

《授業の概要》

会計はビジネス言語と言われるが、誰に何をどのように伝えるのか。それは、会社の利害関係者（株主、投資家、金融機関、取引先など）に会社の情報を財務諸表により伝えることにあります。この会計学の授業では、財務諸表（主に貸借対照表と損益計算書）の構造、作成方法などについて学ぶとともに、会計学が社会にとってなぜ必要なのかについても考えます。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

広瀬義州「会計学スタンダード」中央経済社
 その他は、授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

ビジネスの言語と言われる会計学について、基礎的諸概念を理解すると共に、財務諸表が読めるようになることをねらいとします。その過程で、折に触れ、キャッシュフロー計算書、税効果会計など新しい会計概念についても説明します。

《授業時間外学習》

その日の授業に係る内容の宿題を出しますので、次回の授業時に提出してください。宿題の解答は、次回授業時に行います。

《成績評価の方法》

到達度確認テスト（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。確認テストの解答は次回授業時に行います。

《備考》

簿記を修めたら次にマスターすべき科目です。税理士、公認会計士、国税専門官（国家公務員）などの職業会計人を目指すためには、かならずクリアしなければならない基本科目です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	企業会計の意義と必要性	企業会計とは何か。簿記と会計学の関係
2	企業会計の基本理念	1) 一般原則 2) 企業会計の仕組み
3	損益会計	1) 収益の認識と測定 2) 貸倒引当金
4	資産会計 1	1) 資産の概念 2) 資産の評価
5	資産会計 2	棚卸資産の原価配分と利益計算
6	資産会計 3	1) 有価証券 2) 固定資産
7	資産会計 4	1) 固定資産の減価償却 2) 圧縮記帳
8	資産会計 5	1) のれん 2) ソフトウェア
9	減損会計	導入の背景と処理
10	繰延資産	繰延資産の種類と処理
11	負債会計	1) 引当金の意義 2) 退職給付会計
12	純資産会計 1	1) 純資産の意義と内容 2) 資本金、資本剰余金、利益剰余金
13	純資産会計 2	1) 合併 2) 会社分割
14	連結財務諸表	連結決算の意義と必要性、子会社、関連会社
15	復習と確認	総合演習を通じた復習と到達度の確認

科目名	会社法	科目ナンバリング	EEAL22004
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

会社法の基礎を身につけるため、会社制度の法的枠組みと会社統治の仕組みを体系的に学習します。できるだけ直近の経済ニュースを通じて会社法の解説を行うつもりです。会社法は、形は法律ですが、内容は、会社制度のありようを示したものです。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

会社法の基本を身につけます。会社関係者の利害調整の方法を学んだ後、実際の経済ニュースに注目し、会社法を通じて問題を発見し、分析する力を習得することができます。

《授業時間外学習》

宿題レポートを作成して頂きます。レポートは評価をして返却するとともに、授業中に解答例を示します。

《成績評価の方法》

授業中に到達度確認テスト又は宿題レポートを合計3回実施します。その内容により評価を行います。確認テストの解答は次回授業時間に行います。

《備考》

最初に説明を行うため、法律の知識は必要ありません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	法律の基礎知識と会社法学習の目的
2	株式会社の設立	設立の法的規制、発起人の義務
3	株式Ⅰ	株式の法的性質、株券の意義
4	株式Ⅱ	株式の種類
5	株式会社の機関総論	株主総会・取締役会・代表取締役・監査役等の意義
6	株主総会	株主総会の意義、議事、株主総会の瑕疵
7	取締役および取締役会	取締役の責任および義務
8	代表取締役	代表取締役会の意義・責任
9	監査役および監査役会	監査役会の意義および責任・義務
10	会社従業員の損害賠償責任Ⅰ	対会社責任
11	会社従業員の損害賠償責任Ⅱ	対第三者責任
12	組織変更、解散、清算	意義および形態
13	資金調達Ⅰ	方法
14	資金調達Ⅱ	資金調達と支配権
15	近時の諸問題	近時の諸問題のトピック

科目名	金融論		科目ナンバリング	EEEL22004	
担当者氏名	橋本 尚史				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用			

《授業の概要》

みなさんは「金融」と聞いて何をイメージするのでしょうか?また、なぜ「金融」は経済システムに存在するのでしょうか?たとえば、リーマン・ショックのような金融市場の混乱が实体经济に与える影響を考えれば、その必要性に疑問を持ちます。本講義では「金融」について基本的な考えから学び、経済システムにおける「金融」の重要性について学びます。

《授業の到達目標》

金融のしくみ、特に日本銀行の金融市場における役割を理解することで、日本経済の将来の動向について自分なりの考えが述べられるようになることを目標としています。

《成績評価の方法》

定期試験50パーセント、中間テストもしくはレポート30パーセント、そして平常点20パーセント。ただし、平常点（講義中の発言、受講態度）は点数の加点・減点で評価します。また、4回以上無断欠席した受講生には単位を与えません。また、わからないことはオフィスアワーなどで質問を受付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	「金融論」を学ぶ意義について具体的な例を用いて説明します。
2	貨幣とは (1)	物々交換から貨幣誕生までの歴史、貨幣の役割について学びます。
3	貨幣とは (2)	物々交換から貨幣誕生までのシミュレーションをおこないます。
4	金融システムの役割	直接金融と間接金融、それぞれのメリットとデメリットについて学びます。
5	金融仲介機関の役割 (1)	市中銀行の役割について学びます。
6	金融仲介機関の役割 (2)	証券会社、投資信託会社の役割について学びます。
7	金融仲介機関の役割 (3)	日本銀行の役割について学びます。
8	金融政策 (1)	金融政策の目的について学びます。
9	金融政策 (2)	マクロ金融政策の政策手段について学びます。
10	債券について	債券（特に国債）の特徴、債券価格と債券利回りの関係について学びます。
11	金融政策 (3)	最近おこなわれている金融政策であるゼロ金利政策と量的緩和政策のしくみについて学びます。
12	金融政策 (4)	ゼロ金利政策解除と量的緩和政策解除が経済に与える影響について考えます。
13	さまざまな金融商品 (1)	さまざまな資産の理論価格の決定メカニズムについて学びます。
14	さまざまな金融商品 (2)	さまざまな派生的証券のしくみについて学びます。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふり返ります。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

- 池上彰 (2009) 『日銀を知られば経済がわかる』平凡社。
- 岩田槻久男 (2011) 『テキストブック 金融入門』東洋経済新報社。
- 池尾和人 (2011) 『現代の金融入門 (新版)』ちくま新書。

《授業時間外学習》

新聞を読み経済に興味を持つこと、そして参考図書・講義資料を用いて復習することが大事です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

科目名	財政学 I		科目ナンバリング	EEEL23008	
担当者氏名	中本 淳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-2 経済的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用			

《授業の概要》

日本の財政制度(予算制度・税制・社会保障制度・地方財政制度など)について、基本的な概念・制度・論点を解説する。毎回、講義で学んだことを簡単なテストで確認する。

《テキスト》

なし(HPを通じて講義資料を配布する)

《参考図書》

井堀利宏(2011)『要説：日本の財政・税制 4訂版』税務経理協会

《授業の到達目標》

税制や社会保障制度についてのニュースや新聞記事を理解し、それを批判的に検討できる基本的知識を身につける。

《授業時間外学習》

- ・配布レジュメを使用して、予習・復習を行うこと。
- ・税・社会保障関連のニュースに意識して接すること。

《成績評価の方法》

平常点(30%)＋期末テスト(70%)

分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この講義の狙い・方針について話し、日本の財政が直面している課題を簡単に解説する。
2	財政の定義	財政=政府による経済活動がなぜ必要なのかを解説し、25年度予算から日本の財政の特徴を解説する。
3	財政の国際比較	先進国との比較を通じて、再度日本の財政の特徴をつかむ。また、予算編成の背景にある予算原則について解説する。
4	予算の編成過程	予算がどのように決まるのか、その過程を解説する。
5	税制①租税原則・租税体系	租税のあるべき姿としての「租税原則」と、租税がどのように分類されるかを解説する。
6	税制②所得税	日本の所得税について、仕組み・特徴・論点を整理する。
7	税制③消費税	消費税について、仕組み・特徴・論点を整理する。
8	税制④法人税	法人税について、仕組み・特徴・論点を整理する。
9	社会保障①概要・公的年金	社会保障制度の意義や財源・給付のあり方について整理する。公的年金制度の概要と論点を解説する。
10	社会保障②医療保険・介護保険	公的医療保険と介護制度について、概要と論点を整理する。
11	その他の歳出	公共事業など社会保障以外の歳出項目について説明する。
12	地方財政①概要	国と地方の役割分担について整理し、地方財政の概要を解説する。
13	地方財政②歳入・歳出	地方交付税をはじめとする地方財政の主な歳入・歳出項目について説明する。
14	公債	国債の特徴・考え方、および制度の枠組みを説明する。
15	学習のまとめ	今までの学習内容を整理する。

科目名	財政学Ⅱ		科目ナンバリング	EEEL23013	
担当者氏名	中本 淳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用				

《授業の概要》

財政問題を理論的に考えるために必要となる基本的な考え方を講義する。具体的には、ミクロ経済学の応用として市場の失敗・課税の効果・所得再分配のあり方を、マクロ経済学の応用としての財政・金融政策の効果について解説する。

《テキスト》

なし(HPを通じて講義資料を配布する)

《参考図書》

小塩隆士(2003)『コア・テキスト 財政学』新世社
 その他、適宜講義で指示する。

《授業の到達目標》

政府の行う様々な経済活動について、標準的な経済学の枠組みを使って考察・説明ができる。

《授業時間外学習》

- ・配布レジュメを使用して、予習・復習を行うこと(特に計算問題)。
- ・税・社会保障関連のニュースに意識して接すること。

《成績評価の方法》

平常点(30%)＋期末テスト(70%)

分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

制度理解が中心の財政学Iと比べ、より理論的な側面を中心に講義を進める。現実的な課題に対する理論の応用については「財政政策」などを受講されたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この講義の狙いと方針について話し、前半の基本的ツールとなるミクロ経済学の余剰析について簡単に解説・復習する。
2	市場の失敗① 概要	どのようなときに市場メカニズムがうまくいかないか=政府の経済活動が必要かを解説する。また、政府の失敗についても説明する。
3	市場の失敗② 公共財1	市場の失敗の要因の1つである公共財について、理論的な分析の方法を学ぶ。
4	市場の失敗③ 公共財2	公共財の最適供給について、計算問題を通じて確認する。
5	租税の効果① 基礎概念	租税の影響を分析する上で必要となる基礎的な概念について説明する。
6	租税の効果② 消費税1	消費税が市場に与える影響を分析し、望ましい課税のあり方としてラムゼイ・ルールについて理解する。
7	租税の効果③ 消費税2	消費税の効果を、計算問題を通じて確認する。
8	租税の効果④ 所得税	所得税が市場に与える影響を分析する。
9	所得再分配政策①「公平性」	所得再分配政策について考える上で基本となる概念を説明する。
10	所得再分配政策②政策	生活保護や「負の所得税」など、所得再分配をめぐる政策について理論的に説明する。
11	マクロ経済と財政①45度線分析	45度線モデルを用いて、財政政策の効果を分析する。
12	マクロ経済と財政②IS-LM分析	財市場と貨幣市場を同時に考えたときに、財政政策の効果がどのように変わるかを講義する(IS-LMモデル)
13	マクロ経済と財政③新古典派総合	新古典派とケインジアンの方眼図の考え方の違いを説明する。
14	国債の負担	公債の中立性について、それが成立するための条件も含めて説明する。また、公債発行の維持可能性についての条件を導出する。
15	学習のまとめ	今までの学習内容を整理する。

科目名	産業組織論 I		科目ナンバリング	EEEL23010	
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ◎ 3-3 経済学の知識の応用			

《授業の概要》

産業組織論 (Industrial Organization) は、ミクロ経済学の応用領域であり、我々の身近にある現実の諸産業を研究対象とするものである。ここでは単に現状を分析するにとどまらず、さらに進んで、政策のあり方を論じることが多い。事実、この領域での研究成果は、現実の競争政策や規制改革に理論的基礎を提供している。この授業では、主として政策論的視点に立つて、産業組織論の基礎理論を中心に解説する。

《授業の到達目標》

- ・我々が暮らしている自由主義経済の基本的特徴、市場の働きとその限界について理解する。
- ・産業組織分析の基本的概念や基礎理論について理解する。
- ・競争政策や規制改革など、現実産業に対する政策のあり方について考察するための基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点 (授業時に取り組む課題など) および学期末の筆記試験をもって評価する。評価の割合は、平常点30%、期末テスト70%とする。授業時に取り組む課題については、解答例を解説し、理解度を確認する。

《テキスト》

伊藤元重著『ミクロ経済学 (第2版)』日本評論社、2003年。
 (2年次の「ミクロ経済学」で使用したテキスト。第3~5、8、10週に使用する) その他、毎時間プリントを配布する。

《参考図書》

泉田成美・柳川隆著『プラクティカル産業組織論』有斐閣、2008年。
 井手秀樹他著『入門・産業組織』有斐閣、2010年。
 土井教之編著『産業組織論入門』ミネルヴァ書房、2008年。
 石原敬子著『競争政策の原理と現実』晃洋書房、1997年。
 その他、適宜授業時に紹介する。

《授業時間外学習》

- ・毎時間、プリントを配布して授業を進める。次の時間までに授業内容をしっかりと復習しておくこと。
- ・学期末には、復習のための勉強会を開催する予定である。積極的に参加しよう。

《備考》

・授業内容を理解するには基礎からの積み重ねが重要である。毎回必ず出席し、わからないことをそのままにせず、理解に努めていただきたい。質問は随時受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	産業組織論とは	産業組織論とはどのようなものかをその歴史も紹介しながら解説するとともに、この講義の特徴について説明する。
2	自由主義経済の基本的特徴	自由主義社会とのかかわり、市場の働きについて考察し、理解を深める。
3	価格理論による分析(1)	完全競争市場の長期均衡について考察する。
4	価格理論による分析(2)	供給独占の理論について学ぶ。
5	価格理論による分析(3)	独占的価格設定の問題点について考察する。
6	自由主義経済と競争の役割(1)	経済的自由の保障、競争の情報伝達機能について考える。
7	自由主義経済と競争の役割(2)	企業間競争が資源配分効率、生産効率、技術革新に与える効果について考察する。
8	「市場の失敗」と政府の役割	市場メカニズムの働きでは解決できない問題について考察する。
9	産業組織分析(1)	市場構造に関する分析視点について解説する。
10	産業組織分析(2)	企業間協調のメカニズムや参入阻止行動についてゲーム理論を用いて考察する。
11	産業組織分析(3)	望ましい市場成果を実現するための分析視点について解説する。
12	産業組織分析(4)	国内航空市場、電力市場などでの規制改革をとりあげ、産業組織分析がどのように活用されているかを解説する。
13	競争政策の基礎理論(1)	ハーバード学派の競争政策論について解説する。
14	競争政策の基礎理論(2)	シカゴ学派の競争政策論について解説し、ハーバード学派との違いについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認する。

科目名	産業組織論Ⅱ		科目ナンバリング	EEEL23012	
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

競争政策は、自由主義経済において根本的に重要な経済政策と位置づけられており、世界各国で施行されている。産業組織論は、競争政策の基礎理論として発展してきた経緯があり、ここでの研究成果は、現実の政策施行に経済学的根拠を提供している。この講義では、経済学的視点に立って、競争政策の役割とそのあり方について勉強する。

《授業の到達目標》

- ・我々が暮らしている自由主義経済の基本的特徴と競争政策の役割について理解を深める。
- ・現実の産業に対する政策のあり方について考察するための知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題、レポート課題）および学期末の筆記試験をもって評価する。評価の割合は、平常点40%、期末テスト60%とする。レポート課題についてはコメントを付して返却する。

《テキスト》

泉田成美・柳川隆著『プラクティカル産業組織論』有斐閣、2008年。
 その他、毎時間プリントを配布する。

《参考図書》

小田切宏之著『競争政策論 独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論』日本評論社、2008年。
 岸井大太郎他著『経済法 独占禁止法と競争政策（第7版補訂）』有斐閣、2015年。
 R. ビトフスキー編・石原敬子・宮田由紀夫訳『アメリカ反トラスト政策論』晃洋書房、2010年。

《授業時間外学習》

- ・毎時間、プリントを配布して授業を進める。次の時間までに授業内容をしっかりと復習しておくこと。
- ・学期中に授業内容を復習し理解度を確保するためにレポート課題を2～3回課す予定である。
- ・学期末には復習のための勉強会を開催する予定である。積極的に参加しよう。

《備考》

この授業を受講するには「産業組織論Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と受講上の注意	競争政策とはどのようなものかを簡単に解説し、この授業の概要を説明する。
2	アメリカの反トラスト政策 (1)	シャーマン法制定の背景と第2次世界大戦前までの反トラスト政策について解説する。
3	アメリカの反トラスト政策 (2)	1980年代までの政策路線の変遷について、独占に対する政策を中心に解説する。
4	アメリカの反トラスト政策 (3)	1990年代以降の反トラスト政策の動向について解説する。
5	日本の独占禁止政策と産業政策 (1)	独占禁止法制定から1970年代までの政策について、戦後日本の産業政策も取り上げながら解説する。日本での「競争に関する考え方」について考察しよう。
6	日本の独占禁止政策と産業政策 (2)	1980年代以降の規制改革の動向や競争政策強化の動きについて解説する。産業の領域において、競争原理が重視されるようになった背景について考察しよう。
7	自然独占と規制 (1)	自然独占とは何か、どのような問題があるかを解説し、自然独占分野に対する従来の規制の問題点について考察する。
8	自然独占と規制 (2)	自然独占分野での政策のあり方について考察する。
9	参入の経済効果 (1)	コンテストブル市場理論と参入の経済効果について考察する。
10	参入の経済効果 (2)	参入規制の問題点と規制緩和の経済効果について考察する。
11	カルテル・談合	カルテル・談合の問題点について考察し、理解を深める。カルテル・談合に対する具体的政策について解説する。
12	合併	合併の経済効果、合併に対する政策のあり方について考察する。
13	不公正な取引方法について (1)	略奪的価格設定、再販価格維持行為をとりあげ、その問題点について経済学的視点から考察する。
14	不公正な取引方法について (2)	抱き合わせ販売、優越的地位の濫用をとりあげ、その問題点について経済学的視点から考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容について振り返り、理解度を確認する。

科目名	国際経済事情		科目ナンバリング	EEEL23006	
担当者氏名	澤山 明宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-2 経済学的思考力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力 ○ 3-3 経済学の知識の応用			

《授業の概要》

グローバル経済を多面的に理解し、受講生がグローバル化に関わっていくかを考えるための指針となる授業を目指します。前半ではグローバル化の経済、政治の側面からの理解を目指し、後半では具体的な地域・問題を中心にグローバル化の現状を理解することを狙います。映画など幅広く資料を使用し、具体的なイメージをもってグローバル経済を考える機会を提供したいと思います。

《授業の到達目標》

- (1) グローバル経済について多面的な理解を得る。
- (2) 社会科学的研究に必要な論理的思考ができる。
- (3) 地域研究の基本を身につける。
- (4) 時事問題について興味を持ち理解できる。

《成績評価の方法》

- (1) 毎回提出するコメントシート：20%
- (2) ショートテスト（1～2回）：40%
- (3) 定期試験またはレポート：40%

上記についての評価を都度受講生に個別に伝え、以後の学習の指針を提供する予定。

《テキスト》

指定テキストはありません。必要な教材は適宜授業で配布します。

《参考図書》

- ・伊藤元重「ゼミナール国際経済入門」（日本経済新聞社）
 - ・浦田秀次郎「国際経済学入門」（日本経済新聞社）
- この他の参考図書は授業で紹介していきます。

《授業時間外学習》

・第2回から第6回の講義は国際経済学を前提にしています。授業でも丁寧に解説しますが、着実に理解するために参考図書などの関係書を熟読して復習してください。
 ・第7回から第13回は事例が中心になります。授業で取り上げた時事問題について、新聞、雑誌などでさらに情報を増やしてください。

《備考》

・受講生の関心、理解度、開講中の世界情勢の進展を考慮しながら授業計画を修正することもあり得ます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	グローバル化の諸相	グローバル経済への入門として、その多面性について学ぶ。
2	国際貿易の基本	国際経済理解の基本である貿易理論とその有効性を学ぶ。
3	国際マクロ経済学（1）	国際経済をマクロ的に理解するための基本を学ぶ。
4	国際マクロ経済学（2）	国際経済をマクロ的に理解するための基本を学び、特に各国経済にとっての輸出の必要を確かめる。
5	通貨問題	国際経済の理解に不可欠の為替レートの問題に焦点を合わせて学ぶ。
6	通商システム	現在の通商システム（WTO、FTA、EPA、TPPなど）に至るまでの変遷とその内容について学ぶ。
7	地域研究（1）EU①	EU（ヨーロッパ連合）の成立の背景、発展の過程を学び、20世紀の国際経済への理解を深める。
8	地域研究（2）EU②	EUのユーロ導入、拡大に伴う成果と問題を学び、EUの将来を展望する。
9	地域研究（3）中国	中国経済が目覚ましい発展を遂げた背景を学び、さらにその現状から将来を展望する。
10	地域研究（4）アメリカ	アメリカ合衆国、中南米諸国の経済の現状を学び、将来を考える。
11	地域研究（5）アフリカ	これから期待されるアフリカについて、その歴史と現状を学び、その発展の可能性を探る。
12	地域研究（6）イスラム	紛争、テロが頻発するイスラム諸国に焦点を合わせ、イスラム教の基本を理解し、その歴史と今後を展望する。
13	地域研究（7）アジア	地理的にも経済政治の面でも日本との関係が深いアジア地域について、その多様性を学び将来を展望する。
14	地域リスクについて	各地域に潜在する固有のビジネスチャンスと同時にリスクを展望し、グローバル経済でのリスク管理に必要な知識を学ぶ。
15	グローバル経済の未来	総括として世界経済の今後を展望する。

科目名	環境経済論A		科目ナンバリング	EEEL23007
担当者氏名	池本 廣希			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力			

《授業の概要》

環境経済論Aは、地球環境問題の入門と経済学のおゆみの関係について学習した。環境経済論Bは、環境経済の基礎理論と日本の経済と環境問題に重点をおいて学習する。特に、日本は1960年代の高度経済成長期にエコノミックアニマルと非難され公害列島化し、そのツケがその後の日本経済に多大な影響を及ぼした。「前向きの大敗走」ともいえる急成長の功罪を説きながらわが国の環境と経済の問題について学習する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

池本廣希著『地産地消の経済学』新泉社 2008年

《授業の到達目標》

①身近な地域の環境問題を意識し発見する。 ②発見した地域の環境問題を解決することによって、住みよい地域づくりに参画する能力が鍛えられる。③日本経済論として、また地域環境論として環境経済が生かせるようになる。

《授業時間外学習》

身近な環境問題とその対策について調査・学習し、その成果をレポートする。

《成績評価の方法》

授業中の提出物 30% 試験 70%
レポートにはコメントをつけて返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	環境経済論Aから環境経済論Bへ
2	環境経済の基礎Ⅰ	食と農と環境
3	環境経済の基礎Ⅱ	TPPと環境問題
4	環境経済の基礎Ⅲ	社会的共通資本と共有地（コモンズ）を持たない悲劇について
5	環境経済の基礎Ⅳ	脱市場経済から環境経済へ
6	環境経済の基礎Ⅴ	エントロピー論としての環境政策
7	日本経済と環境問題一	戦後復興経済と学校給食（1950年代～）
8	日本経済と環境問題二	高度経済成長と農村問題（1960年代～）
9	日本経済と環境問題三	高度経済成長と都市問題（1960年代～）
10	日本経済と環境問題四	低成長経済と公害問題（1970年代～）
11	日本経済と環境問題五	安定成長経済と農産物輸入拡大に伴うポストハーベスト問題（1980年代～）
12	日本経済と環境問題六	経済の国際化と地域の衰退（1990年代～）
13	日本経済と環境問題七	地産地消の経済と地域創生（2000年代～）
14	現代文明と環境問題	地下資源型文明社会から地上資源型文明社会へ（2010年代～）
15	まとめ	新たな課題提起

科目名	環境経済論B		科目ナンバリング	EEEL23016	
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力			

《授業の概要》

環境経済論Aは、地球環境問題の入門と経済学のおゆみの関係について学習した。環境経済論Bは、環境経済の基礎理論と日本の経済と環境問題に重点をおいて学習する。特に、日本は1960年代の高度経済成長期にエコノミックアニマルと非難され公害列島化し、そのツケがその後の日本経済に多大な影響を及ぼした。「前向きの大敗走」ともいえる急成長の功罪を説きながらわが国の環境と経済の問題について学習する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

池本廣希著『地産地消の経済学』新泉社 2008年

《授業の到達目標》

①身近な地域の環境問題を意識し発見する。②発見した地域の環境問題を解決することによって、住みよい地域づくりに参画する能力が鍛えられる。③日本経済論として、また地域環境論として環境経済が生かせるようになる。

《授業時間外学習》

身近な環境問題とその対策について調査・学習し、その成果をレポートする。

《成績評価の方法》

授業中の提出物 30% 試験 70%
レポートにはコメントをつけて返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	環境経済論Aから環境経済論Bへ
2	環境経済の基礎Ⅰ	食と農と環境
3	環境経済の基礎Ⅱ	TPPと環境問題
4	環境経済の基礎Ⅲ	社会的共通資本と共有地（コモンズ）を持たない悲劇について
5	環境経済の基礎Ⅳ	脱市場経済から環境経済へ
6	環境経済の基礎Ⅴ	エントロピー論としての環境政策
7	日本経済と環境問題一	戦後復興経済と学校給食（1950年代～）
8	日本経済と環境問題二	高度経済成長と農村問題（1960年代～）
9	日本経済と環境問題三	高度経済成長と都市問題（1960年代～）
10	日本経済と環境問題四	低成長経済と公害問題（1970年代～）
11	日本経済と環境問題五	安定成長経済と農産物輸入拡大に伴うポストハーベスト問題（1980年代～）
12	日本経済と環境問題六	経済の国際化と地域の衰退（1990年代～）
13	日本経済と環境問題七	地産地消の経済と地域創生（2000年代～）
14	現代文明と環境問題	地下資源型文明社会から地上資源型文明社会へ（2010年代～）
15	まとめ	新たな課題提起

科目名	地域経済論 I		科目ナンバリング	EEEL23011
担当者氏名	大宮 登			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力		

《授業の概要》

元気な地域づくりの現場には、魅力的な地域リーダーがいる。だから「地域づくりは人づくり」という言葉が生まれる。本講では、地域リーダーは、どのような能力が求められるのか、どのようにすれば地域の人材は育つのか、という問題意識を持って、観光や地域連携による地域活性化の実際を様々な角度から学んでいく。また、私が実践してきた国内外のPBL活動を学び、グローバルな地域社会の担い手としての課題を理解する。

《授業の到達目標》

日本における地域づくりの成功事例を学ぶことを通じて、現代の地域社会の課題を発見し、分析し、地域課題を解決するための方法について、理論と実践の双方から学ぶ。また、大学と地域が連携した国内外のPBLの実践について、具体的に知ることによって、国際感覚・異文化理解力を高め、地域社会の担い手となることの必要性や可能性、その方向性などを学んでいく。

《成績評価の方法》

毎回の講義の振り返りペーパーの内容20%、事前課題の提出状況20%、講義への積極的な取り組み姿勢20%、試験40%の割合で評価する。小テストや振り返りペーパーに対して、必ず、フィードバックを行うとともに、必要に応じては、コメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義のねらい、概要、スケジュール、評価方法等をガイダンスする。地域づくりとは何かについても問題提起する。
2	参加と協働のまちづくり 1	地域活性化には住民主体の参加と協働のまちづくりが基本となる。住民自治と団体自治、参加と協働のまちづくりをめぐって学ぶ。
3	参加と協働のまちづくり 2	2000年くらいからの地方分権の流れを学び、現在の人口減少社会の到来と地方創生の動きを学ぶ。
4	参加と協働のまちづくり 3	人口1万の小さな町に年間100万人の観光客が訪れる、長野県小布施町のまちづくりを学ぶ。また、IT環境の整備による徳島県神山町のまちづくりについても学ぶ。
5	参加と協働のまちづくり 4	高校の魅力化やI・Uターンを実現している島根県海士町のまちづくりを学ぶ。群馬県の高崎市や富岡市のまちづくりの実際も学ぶ。
6	地域社会の共通問題 1	地域社会の共通課題として表れている、地域コミュニティの衰退、少子高齢化、家庭や地域の教育力の衰退の問題を掴む。
7	地域社会の共通問題 2	地域社会の共通課題としての、治安の悪化の問題、環境保全の問題、地域経済や雇用問題について理解を進める。
8	プロジェクト型学習 (PBL) の実践 1	学生NPO法人DNAの活動の実際を知り、地域活性化における、自分たちの可能性について意見交換をする。
9	プロジェクト型学習 (PBL) の実践 2	食品リサイクルの活動の実際を知り、地域活性化に向けた、企業と大学の連携の可能性について意見交換を行う。
10	プロジェクト型学習 (PBL) の実践 3	留学生と市民協働の植樹プロジェクトの実際を知り、地域活性化と国際交流PBLの可能性について意見交換を行う。
11	観光によるまちづくり	これからの観光による地域活性化はどのようにすれば可能なのか。消費動向等を踏まえ、経済的な観点も含めて、考えてみる。
12	地域づくりリーダーに求められる能力	地域づくりリーダーに求められる能力の調査結果に基づき、行動力、コミュニケーション能力、意見調整力について意見交換する。
13	地域づくりリーダーに求められる能力	分権時代の自治体職員に求められる能力として、政策立案能力、法務能力、財務能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などについて、考えていく。
14	個人化社会における地域づくり	現代の個人化する社会における地域づくりや生き方について、同時に、また、経済的な視点から家族ごとの生涯賃金、職種別の生涯賃金について考える。
15	振り返り	全体を振り返り、ワークショップを行う。

《テキスト》

なし

《参考図書》

『イノベーションによる地域活性化』大宮他、日本経済評論社、2013/『地域政策学事典』地域政策研究センター、勁草書房、2011/『コミュニティデザイン』山崎亮、学芸出版社、2011/『観光政策へのアプローチ』津久井・原田編、鷹書房弓プレス、2008/『大学と連携した地域再生戦略』大宮・増田編、ぎょうせい、2007

《授業時間外学習》

事前課題のワークシートを出す。また、必要に応じて資料も配布するので、読んでくる。

《備考》

集中講義になるが、アクティブラーニングを取り入れ、参加型の形式で実施するので、コミュニケーション能力を高めることができる。意欲的に学んでほしい。

科目名	地域経済論Ⅱ		科目ナンバリング	EEEL23017	
担当者氏名	李 良姫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力			

《授業の概要》

現在、人口減少、高齢化、経済格差、景気低迷など、地域社会は様々な問題を抱えている。この授業では、地域社会が直面している問題を地域経済活性化の視点から考える。また、地域産業の現状と課題を把握した上で、その解決策について考察し、国および地域が取るべき政策について考えることを講義の目的とする。

《テキスト》

特に、使用しない。授業の進行に合わせて、必要な資料を配布する。

《参考図書》

授業中に適宜参考文献を紹介する。

《授業の到達目標》

- 1) 地域経済理論について説明することができる。
- 2) 地域経済が抱えている問題を把握することができる。
- 3) 地域経済活性化について説明することができる。
- 4) 有効な地域経済活性化手法について理解できる。
- 5) 地域経済の発展のための国および地域が取るべき政策について理解できる。

《授業時間外学習》

- (1) 常に、現在居住地域または、出身地域が抱えている課題について関心を持ち、メモを取り、授業の討論材料とする。
- (2) 事前に配布した資料について目を通し、出された課題について調べ提出する。

《成績評価の方法》

(1) 授業内討論等への参加とその成果20% (参加意欲および討論内容によって評価する)、(2) レポート課題等の提出物20%、(3) 定期試験60%
 地域が抱えている課題について提出されたレポートにコメントを付けフィードバックする。

《備考》

居住地域または、出身地域に関連するニュースなどの新聞記事や雑誌を多く集めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域経済活性化方法	観光開発を通じた地域経済活性化方法について提示する
2	地域人材確保政策①	有効的なIターンUターン政策について提示する
3	地域人材確保政策②	地域の若者が地元で働ける効果的な政策について提示する
4	交流人口の拡大	人口増加が困難な地域に交流人口を拡大させ地域活性化につなげる方法について考える
5	地域経済活性化政策①	インバウンド観光を通じた地域活性化政策について考察する
6	地域経済活性化政策②	国内観光促進による地域活性化政策について考える
7	地域経済活性化のための国が取るべき政策	人口減少・高齢化対策について考える
8	地域経済活性化のための国が取るべき政策	地域産業振興のための政策について考える
9	経済活性化のための自治体を取るべき政策	自治体を取るべき政策について考える
10	地域活性化と地域団体が取るべき対策	地域団体が取るべき対策について考える
11	韓国の取り組みから考察①	地域経済の活性化のために韓国政府が行っている政策について分析する
12	韓国の取り組みから考察②	地域経済の活性化のために韓国の自治体が行っている政策について分析する
13	韓国の取り組みから考察③	地域経済の活性化のための韓国地域団体から行っている取り組みについて分析する
14	地域経済の今後の在り方	地域経済が安定して発展できるための課題と解決策について考える
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、地域経済促進について意見を述べる

科目名	社会政策Ⅱ		科目ナンバリング	EEEL23018	
担当者氏名	未定				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 			

《授業の概要》

社会保障制度(所得保障, 医療・保健, 社会福祉サービス)や雇用・住宅・教育政策などを内実とする社会政策は, 様々な社会問題に対応することで市民の生活困難や生活不安を解消し, 人々の社会的な繋がりを強めることを目指してきた。現在すべての主要先進国では, その役割と守備範囲を大きく広げ, 公共支出の面でも重要な地位を占めている。本講義では社会政策の現状や近年の動向, 歴史的展開過程を中心に解説する。

《授業の到達目標》

社会政策が対応する今日的課題(格差問題, 少子化問題, 高齢化問題)について, それらの本質や動向について理解する。社会サービスをめぐる公私の役割分担について理論的に学ぶことで, 公共サービスの民営化や市場化, 再国営化を推し進める政策意図がより深く理解できるようになる。社会政策の発展プロセスの学習を通して, 社会政策の本質や制度形成のメカニズムを理解する。

《成績評価の方法》

定期試験80%, 授業への参加とその成果20%

※分からないことは随時質問を受け付ける。

《テキスト》

市販の教科書は使用しない。プリントを配布する。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については, 新聞や書籍, ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し, 疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《備考》

従来日本では経済的繁栄を追うあまり, 社会政策の改善はなおざりにされてきたが, そうした政策運営には見直しが迫られている。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会政策の新しい課題	オリエンテーション: 講義の課題と対象
2	格差問題(1)	日本及び世界の所得格差の状況
3	格差問題(2)	格差問題の諸相, 格差問題の背景と社会保障制度
4	少子化をめぐる諸問題(1)	少子化の状況
5	少子化をめぐる諸問題(2)	少子化が進む理由, 問題点
6	少子化をめぐる諸問題(3)	少子化対策の動向(日本及び先進諸国)
7	高齢社会をめぐる諸問題(1)	高齢化の状況
8	高齢社会をめぐる諸問題(2)	高齢化の背景, 問題点
9	高齢社会をめぐる諸問題(3)	日本における高齢化対策の動向
10	公私の役割分担(福祉多元主義)(1)	福祉多元主義の理論
11	公私の役割分担(福祉多元主義)(2)	公的部門, 民間(営利・非営利)部門, インフォーマル部門の長所・短所
12	公私の役割分担(福祉多元主義)(3)	福祉改革をめぐる近年の動向(新自由主義, 社会民主主義, 第三の道)
13	社会政策発達史(1)	英国社会政策発達史(1) 第2次世界大戦終了まで
14	社会政策発達史(2)	英国社会政策発達史(2) 戦後～現代
15	社会政策発達史(3)	日本社会政策発達史

科目名	証券市場論		科目ナンバリング	EEL23005	
担当者氏名	橋本 尚史				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input checked="" type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

野村証券、野村総合研究所から講師を招いて「証券市場の役割と証券投資」について実践的に学ぶ。各講師とも野村証券等で豊富な実務経験をつんだ資産運用のプロである。授業は単なる株式講座ではなく、ダイナミックな経済の動きの中で身近な資産（お金）をめぐる問題を具体的にわかりやすく説明する。

《テキスト》

『証券投資の基礎』野村証券投資情報部編 丸善、2002年

《参考図書》

『日本の資本市場』氏家純一編、東洋経済新報社

《授業の到達目標》

資本主義社会である日本においては、お金がすべてではないにしろお金と無関係に暮らすことは不可能である。それどころか、少子高齢化社会を迎えて、年金・保険などお金をめぐる知識はますます不可欠になっている。この授業では、これからの経済社会において当然必要とされるお金（資産）との付き合い方に関する知識を身近な問題として実践的に学ぶ方法を修得する。

《授業時間外学習》

金融資本市場、経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。

《成績評価の方法》

期末試験での成績（100点満点）で評価する。また、4回以上無断欠席した受講生には単位を与えません。また、わからないことはオフィスアワーなどで質問を受付けます。

《備考》

就活に役立つ情報が満載です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の概要と計画
2	経済関係の情報とは	経済情報の捉え方
3	金融資本市場とは	金融資本市場の役割とその変化
4	債券市場とは	債券市場の役割と投資の考え方Ⅰ
5	債券市場とは	債券市場の役割と投資の考え方Ⅱ
6	株式市場とは	株式市場の役割と投資の考え方Ⅰ
7	株式投資の話	株式市場の役割と投資の考え方Ⅱ
8	投資信託とは	投資信託の役割とその仕組み
9	リスクの負担	リスク・リターンとポートフォリオ分析
10	外国為替とは何か	外国為替市場とその変動要因について
11	日本の株式	日本の株式市場
12	今後の産業	産業の展望と投資の考え方
13	投資の理論と心理	資本市場における投資家の心理
14	人生設計と資産運用	資産運用とライフプランニング
15	まとめ	一連のオムニバス講座の総括

科目名	経営戦略論 I		科目ナンバリング	EEBL23003	
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input checked="" type="radio"/> 3-4 経営学の知識の応用			

《授業の概要》

消費者の意識の変化、技術の高度化、国際化の進展は、企業環境を大きく変化させている。このような環境変化のもとで企業活動を行い、成長させていくためには経営戦略が不可欠である。この授業では、基本的な経営戦略の考え方と理論を学ぶ。

《テキスト》

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎『1からの戦略論』中央経済社、2009年

《参考図書》

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年

《授業の到達目標》

- 経営戦略の本質を理解することができるようになる。
- 基本的な戦略の理論を理解することができるようになる。
- 社会や競争環境の変化に応じて戦略を考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：テキストの該当箇所を読んでくる（該当箇所は第1回目の授業時に提示する）。
- (2) 復習の方法：授業のノートを見返して分からない点を確認する。

《成績評価の方法》

(1) 定期試験90%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）、(2) 課題レポート作成を10%として評価する。レポートは別紙でコメントを返却する。

《備考》

連絡用のメールアドレスは第1回講義の際に伝える。当該科目を履修する上で履修しておくことが望ましい科目は「経営学入門」「経営学総論」である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	シラバスを参照しながら授業の概要を理解し、経営戦略の学習意義について学ぶ。
2	戦略策定と分析単位	戦略策定に必要な概念（3C分析、SWOT分析、SBU）について理解する。
3	業界の構造分析	業界の収益性を決める5つの要因について理解する。
4	戦略グループ①	戦略グループの事例について理解する。
5	戦略グループ②	戦略グループと移動障壁について理解する。
6	基本戦略①	コストリーダーシップ戦略、経験曲線、規模の経済性について理解する。
7	基本戦略②	差異化（差別化）戦略、集中戦略について理解する。
8	事例研究	企業戦略の事例を学び、関連するテーマでレポートを作成する。
9	製品ライフサイクル別戦略①	製品ライフサイクル理論について理解する。
10	製品ライフサイクル別戦略②	製品ライフサイクル別の戦略について理解する。
11	市場地位別戦略	市場リーダー、チャレンジャ、フォロワー、ニッチャーについて理解する。
12	能力基盤の競争①	資源アプローチについて理解する。
13	能力基盤の競争②	コア・コンピタンスについて理解する。
14	事業システムの構築	事業間の連携について理解する。
15	まとめ	学習内容の振り返りを行う。

科目名	経営戦略論Ⅱ		科目ナンバリング	EEBL23004	
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input checked="" type="radio"/> 3-4 経営学の知識の応用			

《授業の概要》

消費者の意識の変化、技術の高度化、国際化の進展は、企業環境を大きく変化させている。このような環境変化のもとで企業活動を行い、成長させていくためには経営戦略が不可欠である。この授業では、基本的な経営戦略の考え方と理論を学ぶ。

《テキスト》

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎(2009)『1からの戦略論』中央経済社

《参考図書》

浅羽茂・牛島辰男(2010)『経営戦略をつかむ』有斐閣

《授業の到達目標》

- 経営戦略の本質を理解することができるようになる。
- 基本的な戦略の理論を理解することができるようになる。
- 社会や競争環境の変化に応じて戦略を考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：テキストの該当箇所を読んでくる（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。
- (2) 復習の方法：授業のノートを見返して分からない点を調べる。

《成績評価の方法》

毎回出席することを前提として（1）定期試験90%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）
 （2）課題レポート作成を10%として評価する。レポートは別紙でコメントを返却する。

《備考》

連絡用のメールアドレスは第1回講義の際に伝える。当該科目を履修する上で履修しておくことが望ましい科目は「経営学入門」「経営学総論」「経営戦略論Ⅰ」である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	経営戦略の必要性	講義の概要と進め方について 経営戦略の必要性について学ぶ
2	事業ドメイン	事業ドメインの定義について学ぶ
3	成長戦略①	アンゾフのマトリックスについて学ぶ
4	成長戦略②	多角化とシナジー効果について学ぶ
5	経営資源①	経営資源と能力（ケイパビリティ）について学ぶ
6	経営資源②	経営資源の分類基準について学ぶ
7	資源展開①	P P Mの枠組みについて学ぶ
8	資源展開②	P P Mの戦略的意義と限界について学ぶ
9	事例研究	V T Rを視聴し、企業戦略の具体的な事例を学び、関連するテーマでレポートを作成する
10	組織構造①	官僚制組織、職能別（部門制）組織、事業部制組織について学ぶ
11	組織構造②	マトリックス組織、プロジェクト・チーム、環境と組織のコンティンジェンシー理論について学ぶ
12	組織文化①	組織文化の分類、組織文化の機能について学ぶ
13	組織文化②	組織文化と戦略の関係について学ぶ
14	企業変革	組織変革の必要性和プロセスについて学ぶ
15	まとめ	講義内容の復習と確認

科目名	財務諸表論 I		科目ナンバリング	EEAL23009	
担当者氏名	沖野 光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-4 経営学の知識の応用			

《授業の概要》

財務諸表は、株主（事業の元手[資本]を出資する者）や債権者（事業の運転資金[負債]を融資する者）等の各種利害関係者に対し、経営者が作成し提供する説明資料であり、企業の財政状態、経営成績、現金及び現金等価物の変動状態、資本構成の変動状態の会計情報に関する資料をいう。本科目は、企業の日々の経済的取引事象を、如何に認識し、測定し、記録し、集計し、財務諸表として作成するのか、その理論を対象とする。

《授業の到達目標》

財務諸表論の基礎を取扱い、(1)flowとstockの概念、(2)収益・費用・資産・負債・資本・純資産の概念、(3)利益の概念、これら3つの大きな概念（定義と具体的適用例）をまず説明できる力をつける。さらに、複数の概念間のリンケージ（関係性）をきちんと説明できる複合的体系的な概念理解の力をつける。特に、(1)を用いて(2)に関する異同比較や(2)から(3)を導く2つの思考方法を記述説明できる力をつける。

《成績評価の方法》

出席態度を前提として「論述式」の試験の結果（100点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。授業の内容について解らないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

後ほど案内する。

《参考図書》

中央経済社編『新版会計法規集(第8版)』中央経済社／武田隆二『会計学一般教程(第7版)』中央経済社／古賀智敏『日本語と英語で学ぶ企業分析入門』千倉書房／PwC編『IFRS「収益認識」プラクティス・ガイド』中央経済社／友岡賛『会計学の基本問題』慶応義塾大学出版会／田中弘『GDPも純利益も悪徳で栄える』税務経理協会

《授業時間外学習》

財務諸表論の理論を体系的に学ぶためには、会計実務に適用されている様々なルールを同時に理解する必要がある。上記参考図書の『新版会計法規集』の最新版を手元に置きながら効果的に学習することを希望する。用語や概念の定義は、法規集の規定文に記載してあればまずそれを押さえることが基本である。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。
2	会計の認識対象と財務会計の位置付け	簿記と会計と監査の関係性、財務会計と管理会計、制度会計と情報会計、内部報告会計と外部報告会計、各国会計制度と国際財務報告基準（IFRS, 国際会計基準）
3	産業構造の変化と会計モデル	もの作りの製造業[有形財]重視のプロダクト型、資金調達市場の金融財重視のファイナンス型、知的所有権、ブランド、のれん等の無形財重視のナレッジ型の会計理論モデル
4	法規範（ハードローとソフトロー）と会計	ビジネスの基本ルールである会社法、株式会社の上場会社に適用される金融商品取引法、納税申告書を作成するべく全ての会社に適用される法人税法、これら制定法と会計
5	会計公準と一般原則	会計理論の前提となる公準、会計基準の核となる一般原則
6	フローとストックの概念	2つの視点の観測方法：ある一定期間の状況(flow)とある時点の状態(stock)の関係性。時間と時刻、損益計算書(包括利益計算書)と貸借対照表(財政状態変動表)
7	利益概念と資本維持概念	利益を導出する2つの思考方法：資産負債アプローチ（ストック重視）と費用収益アプローチ（フロー重視）
8	収益会計	現金の流入（cash-in-flow）を意味する収入、収入と収益の関係性、収益の認識（現金主義、発生主義）
9	費用会計	現金の流出（cash-out-flow）を意味する支出、支出と費用の関係性、費用の測定（取得原価主義会計の意義と限界）
10	費用収益対応の原則	全体損益計算と期間損益計算、個別対応と期間的対応
11	損益計算の構造	損益計算書の5つの利益、包括利益概念と包括利益計算書
12	資本会計	会社設立、増資、減資、
13	計算書類の範囲と業績報告	株主資本等変動計算書
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

科目名	財務諸表論Ⅱ		科目ナンバリング	EEAL23010
担当者氏名	沖野 光二			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-4 経営学の知識の応用		

《授業の概要》

本科目は、財務諸表論Ⅰの後継上位科目としての性格を有している。したがって、本科目を受講する場合、財務諸表論Ⅰの単位を修得（合格）しておくことが望ましい。（財務諸表論Ⅰの該当箇所参照）

《授業の到達目標》

資産・負債の概念（定義と具体的適用例）を説明できる力をつける。さらに、複数の概念間のリンケージ（関係性）をきちんと説明できる複合的体系的な概念理解の力をつける。そして、知識のアウトプット・トレーニングを意識した知識のインプット方法の力を養う。（財務諸表論Ⅰの該当箇所参照）

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、「論述式」試験の結果（100点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。授業の内容について解らないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

財務諸表論Ⅰと同一。（財務諸表論Ⅰの該当箇所参照）

《参考図書》

D. Alexander=C. Nobes, Financial Accounting: An International Introduction(6ed.), (978-1292102993)/
 S. Collings, UK Financial Statements, (978-1784515362)/
 S. Collings, Small Company Financial Reporting, (978-1780438740)/J. Law, A Dictionary of Accounting (5ed.), (978-0198743514)/

《授業時間外学習》

専門用語（ビジネス用語）の英単語（特に名詞）を少しでも増やすために、日本語の文献資料以外に英語の文献にも目を通す習慣をつけてもらいたい。例えば、日本企業のAnnual Reportやディスクロージャー誌や各種報告書の英語版と日本語版をまず入手し、同時に見比べながら、自学自習することから始めてもらいたい。企業に問い合わせると無料で入手できる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。
2	純資産会計	資本概念と純資産概念、資本維持概念と利益計算構造（さまざまな利益概念）、純資産と負債との関係性
3	資産会計（その1）	資産概念（調達資金の具体的使途としての資産、将来費用の固まりとしての資産、将来の収益源泉の割引現在価値としての資産）、資産の分類基準
4	資産会計（その2）	棚卸資産、商品有高帳、棚卸計算法と継続的記録法、先入先出し法・平均法・後入れ先出し法による払出単価算定の比較
5	資産会計（その3）	固定資産と減価償却（[1]計算方法：定額法、定率法、生産高比例法、級数法ほか、[2]仕訳法方法：直説法、間接法、[3]表示方法）、取り替え法
6	資産会計（その4）	固定資産の減損会計と時価評価
7	資産会計（その5）	株式や社債などの有価証券
8	資産会計（その6）	無形固定資産、期間損益計算と繰延資産
9	負債会計（その1）	負債概念
10	負債会計（その2）	社債、引当金（負債か収益か）
11	貸借対照表論	貸借対照表と財政状態変動計算書
12	キャッシュフロー計算書	現金及び現金等価物の変動状態の意義、直説法と間接法
13	連結会計	連結企業集団と個別企業、連結の範囲（親会社・子会社・少数株主持分・関連会社）、連結財務諸表と個別財務諸表、本支店合併財務諸表と連結財務諸表、
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

科目名	情報会計論 I		科目ナンバリング	EEAL23007
担当者氏名	沖野 光二			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-4 経営学の知識の応用		

《授業の概要》

情報会計論は、制度会計論に対峙する研究分野で非制度会計論とも呼ばれ、企業情報利用者側の立場から会計理論を考え、企業等の情報作成提供者は、如何なる基準で会計情報を作成し、如何なる媒体で発信すべきかを理論付ける学問である。本講義では、企業情報のディスクロージャー制度を検討し、実際の企業情報（登記簿、決算公告、有価証券報告書、年次報告書、統合報告書）を入手し、分析し、読解することを内容とする。

《授業の到達目標》

企業情報のディスクロージャー制度を理解し、獲得できた企業情報には信頼性がどれほど担保されているのかを判断できる能力を養う。具体的には、会計情報の質的特性（意思決定有用性・目的適合性・信頼性・適時性・比較可能性など）と作成根拠（法定開示・任意開示）さらに開示手段（従来の紙媒体開示・電子開示）の意義を理解する力をつける。

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、数回にわたる課題の提出内容の結果（100点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。授業の内容について解らないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。
2	情報会計論の位置付け	会計情報と情報会計、制度会計と情報会計、内部報告情報会計と外部報告情報会計
3	産業構造の変化と会計モデル	もの作りの製造業[有形財]重視のプロダクト型、資金調達市場の金融財重視のファイナンス型、知的所有権、ブランド、のれん等の無形財重視のナレッジ型の会計理論モデル
4	ディスクロージャー制度（その1）	会社法に基づく法定開示（登記簿と決算報告）、株式会社の上場会社に適用される金融商品取引法に基づく法定開示（有価証券報告書）、外国の法定開示（Annual Report）
5	ディスクロージャー制度（その2）	任意開示（年次報告書、統合報告書、CSR報告書、環境報告書） インサイダー取引と利害関係者、利害関係者と利害内容（情報ニーズ）
6	財務情報の入手方法	法定開示情報と任意開示情報の開示手段
7	入手可能情報の信頼性の検証	入手経路（開示提供手段）の確認
8	会計コミュニケーションの基礎概念	コミュニケーション理論
9	会社定款の分析	登記簿の定款の入手と解読
10	有価証券報告書の分析（その1）	有価証券報告書の意義と構成内容
11	有価証券報告書の分析（その2）	有価証券報告書の解読
12	アニュアルレポートと統合報告書の分析	財務的資本（資本と負債）、人的資本（取締役と従業員）、製造資本（建物や設備）、知的資本、社会的関係資本、自然資本（空気や水や生物多様性）の価値創造プロセス
13	企業データの分析	財務情報を中心とした企業データに関する客観的分析と主観的解釈 非財務情報から財務情報（利益）が生み出される関係性の分析
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

《テキスト》

古賀智敏ほか『統合報告革命：ベストプラクティス企業の事例分析』税務経理協会。

《参考図書》

日本経済新聞社編『日経業界地図(2017年版)』日本経済新聞出版社／武内和彦ほか『国連大学 包括的「富」報告書：自然資本・人工資本・人的資本の国際比較』明石書店／上林憲雄編著『人的資源管理』中央経済社／関口倫紀ほか編『国際人的資源管理』中央経済社／池上惇『文化資本入門』京都大学学術出版会／ポール・ホーケン他『自然資本の経済』日本経済新聞社。

《授業時間外学習》

就職希望先の企業の現状と将来の成長性をしっかりと調べるためにも、産業界全体の種類とその特徴、希望企業がどの業界に属しどの企業と取引を行っているのか、事業戦略や売上高の構成要素（セグメント別）はどのようになっているのか、資本の規模と出資者（株主）の構成はどうなっているのか、これらのことは学習時間外に最低でも分析しておくこと。

《備考》

従来の財務諸表を中心とした財務情報の報告では、企業の実態を写像するには限界がある。企業の中期的長期的な持続成長可能性の視点からの新たな報告形態が求められている。

科目名	情報会計論Ⅱ		科目ナンバリング	EEAL23011
担当者氏名	沖野 光二			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-4 経営学の知識の応用			

《授業の概要》

本科目は、情報会計論Ⅰの後継上位科目としての性格を有している。したがって、本科目を受講する場合、情報会計論Ⅰの単位を修得（合格）しておくことが望ましい。（情報会計論Ⅰの該当箇所参照）

《授業の到達目標》

従来の紙面ベースの開示書類とインターネット関連技術を利用した電子ベースの開示情報を異同比較し、その特質を判断できる能力と財務情報そのものを分析し、読解できる能力を養う。（情報会計論Ⅰの該当箇所参照）

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、数回にわたる課題の提出内容の結果（100点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加減点）する場合もある。授業の内容について解らないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。
2	財務情報の入手方法（その1）	法人格取得のための設立登記のために作成された登記簿（法務省）
3	財務情報の入手方法（その2）	会社法決算による決算公告
4	財務情報の入手方法（その3）	株式会社の上場会社に適用される金融商品取引法に基づいて作成された有価証券届出書と有価証券報告書
5	財務情報の入手方法（その4）	任意開示情報とシンクタンク調査会社が提供する有料調査資料
6	業界地図の確認	業界の全体の種類とその特徴
7	事業モデルの確認	売上高の構成要素を地域別や製品サービス別にセグメント分類し、当該企業の「儲けのからくり」（事象戦略や事業モデル）を確認し、競争優位性を見出す。
8	電子情報開示システム	金融庁の XBRL
9	電子情報開示の長所	インターネット関連技術に基づく電子開示の長所（発信者である企業側と受け手である利用者側）
10	電子情報開示の短所	インターネット関連技術に基づく電子開示の短所（発信者である企業側と受け手である利用者側）
11	財務情報の分析（その1）	時系列分析（フロー分析）と企業間比較分析（ストック分析）、複合分析
12	財務情報の分析（その2）	経営分析（フロー情報のみの比率分析、ストック情報のみの比率分析、ストック情報を元にしたフロー情報の比率分析）
13	財務情報の分析（その3）	その他の分析手法
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

《テキスト》

情報会計論Ⅰと同一。（情報会計論Ⅰの該当箇所参照）

《参考図書》

S. Smith, The Effect Of Integrated Reporting On Financial Performance, (9783659947599) / E. Kaisikas, Towards Integrated Reporting, (9783319472348) / C. Mio, Integrated Reporting, (9781137551481) / 東京財団CSR研究プロジェクト『CSR白書2016』『CSR白書2015』『CSR白書2014』東京財団

《授業時間外学習》

就職希望先の企業の現状と将来の成長性をしっかりと調べるためにも、産業界全体の種類とその特徴、希望企業がどの業界に属しどの企業と取引を行っているのか、売上高の構成要素（セグメント別）はどのようになっているのか、資本の規模と出資者（株主）の構成はどうなっているのか、これらのことは学習時間外に最低でも分析しておくこと。

《備考》

科目名	労働経済論		科目ナンバリング	EEEL23015
担当者氏名	石原 敬子、中本 淳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ◎ 3-3 経済学の知識の応用			

《授業の概要》

現実の経済・社会は、多くの人々の様々な働きにより支えられており、人々の生活もまた「働くこと」によって成り立っている。つまり、「働くこと」は私たちの暮らしは社会を豊かにするうえで重要な意味をもつ。「労働経済学」は、労働市場の働きを経済学の視点から分析し、人々の暮らしをより豊かにするにはどうすればよいかを研究するものである。この授業では、雇用・労働に関する諸問題について考察する。

《授業の到達目標》

- ・「働くこと」の意味について考え、理解する。
- ・経済学の基礎理論を用いて、賃金や雇用の決まり方について分析できるようになる。
- ・正規雇用・非正規雇用、失業、女性・高齢者雇用など、現実の雇用・労働に関する問題について考察できる力を身につける。

《成績評価の方法》

- ・平常点（授業時の課題、事前・事後学習、ワークショップへの取り組みなど）と学期末のテストをもって評価する。
- ・評価の割合は、平常点50%、学期末のテスト50%とする。
- ・提出物については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

太田聡一・橋木俊昭著『労働経済学入門〔新版〕』有斐閣、2012年。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

【事前学習】

テキストの該当箇所について読み、理解できた点、疑問点を把握する。

【事後学習】

授業内容について振り返り、理解を深める。学期末には復習用教材を配布するので理解度を確認すること。

《備考》

授業では、労働に関する問題をより身近にとらえられるように、ワークショップを行う。事前準備をしっかりと行い、積極的に参加しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 労働経済学とは	授業の概要、進め方について解説する。 「働くこと」の意味について考えよう。
2	日本の労働市場の現状	就業率、分野別の就業者数、非正規雇用の割合など、さまざまなデータを基に、日本の労働市場の現状について考察する。
3	賃金と雇用の決まり方	ミクロ経済学の基礎理論を用いて、労働市場の競争均衡について分析する。 なぜ失業問題が発生するのかを考察する。
4	賃金に関する問題(1)	なぜ人によって賃金が異なるのか、賃金格差の存在には合理性があるのかを考察する。
5	賃金に関する問題(2)	学歴による賃金格差とその妥当性、企業内訓練と賃金格差に関する問題について考察する。
6	離職・転職	離職・転職の現状とその原因について考察する。 離職・転職は悪いことか、離職率ゼロが理想的かについても考察しよう。
7	ワークショップ(1)	これまでの授業を踏まえて、労働市場に関する問題の中から、課題を選び、現状分析と課題解決のための方策について考察する。
8	ワークショップ(2)	前回の考察をもとに、グループごとに報告資料を作成し、発表する。
9	失業問題	古典派経済学、ケインズ経済学、ニューケインジアン経済学に基づいて、失業のメカニズムについて考察する。
10	失業問題とその解消策	ワークショップで、失業率を下げるための方策について考察する。
11	少子高齢化社会と雇用問題(1)	少子高齢化、人口減少社会が経済に及ぼす影響について考察する。 女性の就業状況と女性の就業を促進するための課題について考察する。
12	少子高齢化社会と雇用問題(2)	若者の就業状況について確認し、若者の雇用機会を確保するための諸課題について考察する。
13	少子高齢化社会と雇用問題(3)	高齢者雇用をめぐる問題について考察する。
14	ワークショップ	これまでの授業内容を踏まえて、経済成長を支えるための雇用促進策について考察しよう。
15	学習のまとめ	授業内容の理解度について確認しよう。

科目名	経済政策		科目ナンバリング	EEEL23014	
担当者氏名	中本 淳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用			

《授業の概要》

この講義では、戦後の日本経済の推移と日本経済の現状や課題についてデータや新聞記事等を用いながら説明を行い、ミクロ経済学やマクロ経済学で学んだ標準的な経済分析の応用も交えながら、これまでの経済政策を評価するとともに、あるべき経済政策を考えていくことを目的とする。複雑な経済現象を理解・評価する上で、必修で学んだ経済理論が有用であることを実感してもらいたい。

《授業の到達目標》

- ・日本経済の過去・現在・未来における課題について理解し、今後必要とされる経済政策について標準的な経済理論を使って説明できるようになる。
- ・時事的な経済ニュースや経済関連の論説について、歴史的・理論的な知識や考え方にもとづいて、批判的に検討することができるようになる。

《成績評価の方法》

平常点(30%)＋期末テスト(70%)

分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

なし(HPを通じて講義資料を配布する)

《参考図書》

浅子和美・篠原総一編(2015)『入門・日本経済 第5版』有斐閣
 井堀利宏(2003)『経済政策』新世社
 岩田規久男・飯田泰之(2006)『ゼミナール 経済政策入門』日本経済新聞社

《授業時間外学習》

各テーマ毎に出題される問題を、自分でまとめていくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の概要と方針について説明し、経済政策の考え方について講義する。
2	政策評価の視点	経済政策を評価するための視点や、評価基準間のトレードオフについて理解する。
3	日本経済の軌跡①	高度成長期から安定成長期に至る軌跡とその過程における政策課題について理解する。
4	日本経済の軌跡②	バブル期の経済状況と政策課題について理解する。
5	日本経済の軌跡③	バブル崩壊後から90年代後半における経済状況と政策課題について理解する。
6	日本経済の軌跡④	2000年前後の構造改革から現在に至る軌跡と、その過程における政策課題について理解する。
7	日本経済の軌跡⑤	アベノミクスの中身と、現状における評価について、経済指標を確認しながら講義する。
8	日本経済の課題①	日本の財政の概要と課題について理解する。
9	日本経済の課題②	日本の社会保障制度の概要と課題について講義する。
10	日本経済の課題③	日本の農業の現状について説明し、農業政策の課題・展開について講義する。
11	日本経済の課題④	日本型の企業システムの特徴と、それを取り巻く環境の変化について講義する。
12	日本経済の課題⑤	日本的雇用システムの特徴と、それを取り巻く環境の変化について講義する。
13	日本経済の課題⑥	日本の所得格差の現状と、それに伴う経済的な課題について講義する。
14	日本経済の課題⑦	地域間格差の現状と要因について説明し、地域経済活性化に関する今後の動向について講義する。
15	まとめ	いままでの学習内容を整理する。

科目名	職業指導	科目ナンバリング	EEAL23012
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 		

《授業の概要》

この授業では、高等学校商業科教員になった場合に、生徒が職業についての基礎となる知識・技術及び勤労を重んずる態度と個性に応じた適切な進路を選択できる能力を養えるよう、社会のさまざまな仕組み、職業の実際などの知識・技術を修得する。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に指示します。

《授業の到達目標》

高等学校の生徒が将来の進路を適切に選択し、自己実現が図れるための適切な指導・援助の在り方やその指導法を修得する。

《授業時間外学習》

職業に関する新聞記事等を配布するので、読んでおくこと。到達度確認試験の範囲に含まれます。

《成績評価の方法》

到達度確認テスト（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。確認テストの解答は授業中に示します。宿題は、解答例を授業中に示します。

《備考》

教職（「商業」）免許の必修科目です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教科「職業指導」とは	免許法上の位置づけ。カリキュラム上の位置づけ。学校社会と仕事社会
2	学校社会と仕事社会	学校の意義と社会における位置づけ学校と社会の連関
3	学校教育における職業指導の位置づけ	学校社会と仕事社会
4	職業とは	職業の意義と歴史
5	日本における雇用の現状 1	若年雇用の現状。失業率の推移。自発的失業の増加
6	日本における雇用の現状 2	学卒無業者とフリーター(フリーターと正規雇用者の比較)
7	非正規雇用の増加 1	非正規雇用増加の背景(新自由主義の台頭と社会的・思想的背景)
8	非正規雇用の増加 2	世界経済のボーダレス化と企業を取り巻く環境変化
9	企業と教育	企業が求める学校教育と新自由主義的学校教育(自由と自己責任)
10	雇用の流動化	新自由主義的労働観の浸透と多様な働き方の選択
11	職業指導の意義と必要性 1	職業(進路)指導の歴史。職業(進路)指導の不在
12	職業指導の意義と必要性 2	1人1社制の意義と崩壊
13	職業社会の実際	企業・団体の類型と職業の種類(公務員を含む)
14	企業と従業員	法的関係と雇用関係法規
15	復習と到達度確認	総合演習に基づく復習と到達度の確認

科目名	経済ビジネス特論 A		科目ナンバリング	EETL23001
担当者氏名	澤山 明宏			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-4 経営学の知識の応用			

《授業の概要》

テーマ：「業界研究・企業研究」
 就職活動で求められながら、企業、業界の情報は限られており、分析の方法はさまざまです。この授業では、マーケティングなど経営学の基礎概念を応用し、容易に入手できる資料を使いながら、学生として最大限に企業、業界の実態にアプローチする方法を学ぶ場にしたいと思います。

《テキスト》

・テキストはありません。教材は授業で適宜配布します。
 ・授業では毎回直近の日本経済新聞を題材にする時間も設けます。

《参考図書》

必要な参考書は授業で紹介します。

《授業の到達目標》

- (1) 身近な資料から基本的かつ深い業界・企業の分析ができる。
- (2) 多くの問題に戦略的思考を応用できる。
- (3) 論理的に意見を構成し発表できる。

《授業時間外学習》

関心のある業界、企業について、どのような問題に直面し、どのようなアピールをしているか、新聞（特に日本経済新聞）、インターネット、パンフレットなど入手可能な資料を材料にして考えるようにしてください。授業内でのプレゼンテーションに使って頂きます。

《成績評価の方法》

- (1) 研究発表：50%
 - (2) 授業中での問題への取組み：30%
 - (3) 定期試験またはレポート：20%
- 上記についての評価を都度受講生に個別に伝え、以後の学習の指針を提供する予定。

《備考》

受講生の関心を考慮して授業計画の順序や内容を変更する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	業界と企業	業界と企業の区分、業界のトレンドと企業のそれとの違いを学ぶ。
2	業界天気図	さまざまな業界の現状を概観するための手法を学ぶ。
3	業界分析の基本（1）	業界の「特性」を理解するための手法を学ぶ。
4	業界分析の基本（2）	各業界の「動向」を捉えるための手法を学ぶ。
5	企業分析の基本（1）	企業の理念、文化など企業の根幹を学ぶ。
6	企業分析の基本（2）	収益構造から企業を理解する方法を学ぶ。
7	企業分析の基本（3）	マーケティングの視点から戦略の成否を見る。
8	投資家の視点（1）	市場がどのように業界、企業を見ているかを考える。
9	投資家の視点（2）	市場がどのように業界、企業を見ているかを考える。
10	応用演習（1）	受講生が選んだ業界、企業を例題にこれまで学んだことを応用する。
11	応用演習（2）	受講生が選んだ業界、企業を例題にこれまで学んだことを応用する。
12	就業先としての業界・企業	業界、企業の分析を就業者の視点から考える。
13	研究発表準備	研究発表のための指導。
14	受講者の発表	受講生による研究発表および質疑応答。
15	総括	これまでの内容を総括し、今後の経済動向を考える。

科目名	情報数理		科目ナンバリング	EIPL33007
担当者氏名	穂積 隆広			
授業方法	講義	単位・必修	4・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

情報を整理し、分析するためには物事を論理的に考える必要がある。この授業では与えられた状況から結論を導くための論理的な思考の数学的な表現について学ぶ。すなわち、与えられた状況を命題として表現してその真偽を判定したり、複数の命題の組合せから結論を導いたりする論理演算などについて学習を行う。

《テキスト》

テキストは指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

必要に応じて授業中に指示する。

《授業の到達目標》

この授業ではまず集合の概念とその演算について説明する。その上で命題とはどのようなものか学び、命題の作り方と判定について学習する。そしてそれらの命題をもとにした論理演算について学習し、与えられた状況を分析して正しい結論を導く論理的な考え方を身に付けることを目標とする。

《授業時間外学習》

毎回の授業内容を復習し、次の授業に備えること。また、レポートなどを確実に完成させ期日を守って提出すること。

《成績評価の方法》

小テストやレポートなどの点数を30%、中間、期末などの試験の点数を70%で評価する。

なお、実施した小テストや試験は返却し、解説を行う。また、オフィスアワーなどでも質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	命題	命題と述語、 \forall や \exists といった記号について
2	否定	命題の否定
3	論理積と論理和	命題の結合、論理積と論理和
4	含意演算	簡単な推論
5	論理式	論理式
6	論理式	論理式の性質と主加法標準形
7	論理式の簡単化	論理式の簡単化とカルノー図
8	論理式の簡単化	論理式の簡単化とドントケア
9	論理式の簡単化	論理式の簡単化とQM法
10	まとめと復習	まとめと復習
11	集合	集合の記法
12	部分集合	部分集合、集合の演算
13	関係	同値関係、順序関係
14	集合演算	集合演算の性質と簡単化
15	まとめと復習	応用課題

科目名	プログラミング I		科目ナンバリング	EI PL33005	
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

プログラミング言語の特徴・歴史などプログラミングの基礎知識を学ぶとともに、課されている問題の解決手段としての処理や制御など技法(前半部分)の獲得と論理的な思考方法の養成を行いながらプログラミング能力の基礎の確立を目指します。授業は基礎知識や論理・方法を説明する講義とC言語を使った演習を併せて行い『プログラミングII』への接続を行います。

《授業の到達目標》

課されている問題解決の一手段として、プログラミング言語の活用のための基礎(前半部分)を対象とします。

- ・プログラミング言語での処理を行う命令等の理解。
- ・記述規則に従い処理手順や手続きが記述できること
- ・処理手順を論理的に分析し応用する力を獲得することを到達目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出および内容点(30%)、筆記による試験(中間試験と定期試験)(60%)、平常点(10%)を評価対象とします。提出課題は提示された課題のすべてとします。

Eラーニングシステムのコメント欄で修正点等をフィードバックします。

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は適宜配付します。

《参考図書》

- ・B.W.Kernighan, D.M.Ritchie著, 石田晴久訳, 『プログラミング言語C 第2版 -ANSI規格準拠-』, 共立出版
 - ・鈴木正人著, 『実践Cプログラミング -基礎から設計/実装/テストまで-』, サイエンス社 など。
- その他参考文献については必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配布する資料を熟読し理解を深めて下さい。また、計算機実習室が空いている時間帯では計算機は自由に利用できますから、各自で記述したプログラムの動作など確認を行って下さい。

《備考》

『プログラミング入門』の既履修が望ましいです。履修者のより深い理解を促すために授業計画の順序等を変更/修正する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要・プログラミング環境の整備	プログラミングサーバへのアクセス サーバへの接続の初期設定
2	C言語を基礎知識 基本的操作の練習	サーバでのツール操作方法 プログラミングの基本
3	標準出力の概念 文字・文字列・数字	printf関数での書式, 書式変換の解説 定数の用語定義
4	定数と変数 標準入力	変数の概念, 記述方法 標準入力からの入力方法と応用
5	式・演算子 処理の単位	式と演算子の記述 処理のまとめ
6	制御文(1) 条件分岐	条件式による条件分岐 条件式の作成方法
7	制御文(2) 多岐にわたる条件分岐	多岐分岐の考え方 条件式と処理ブロックの対応
8	中間試験	試験の実施 答案返却および解答
9	制御文(3) 繰り返し制御	ループの概念と有効性
10	制御文(4) 繰り返し制御の入れ子	多重ループの概念と有効性
11	制御文(5) その他の制御文	その他制御文の解説と例の解説
12	制御文(6) その他の制御文の応用	条件式を使わない条件分岐, 多重ループからの脱出方法
13	配列	配列の概念と記述方法
14	関数	関数の概念と記述方法
15	まとめ	その他補足とまとめ プログラミングIIへの接続のための理解

科目名	情報システム学		科目ナンバリング	EIGL33005
担当者氏名	榎木 浩			
授業方法	講義	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-3 システム的思考力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

高度化する情報社会に欠かせない情報システムを、情報技術の側面からだけでなく、情報技術を利用するという側面からも理解する。前半は、情報システムとは何かという一般論や、様々な社会活動における情報システム利用についての基礎を学習する。後半は、複雑で大規模な情報システムの開発で重要となるソフトウェア開発について学ぶ。

《テキスト》

毎回プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

(1) 情報システムの役割、(2) 社会・生活基盤としての情報システム、(3) 行政・ビジネスと情報システムの関係、(4) 顧客、商取引、組織と情報システムの関係、(5) 情報の共有、(6) 情報システムの倫理、(7) 情報システムの活用方法、(8) システム開発とは、(9) 開発の技法、(10) 要求工学、(11) ソフトウェア設計、(12) ソフトウェア実装、(13) ソフトウェア品質、(14) プロジェクト管理について説明できる。

《授業時間外学習》

事前学習
 ・授業のプリントを事前に公開するので、授業までに読んでおくこと。
 事後学習
 ・授業中の演習を復習すること。

《成績評価の方法》

演習評価(20%)、前半理解度評価(40%)、後半理解度評価(40%)
 理解度確認後、確認内容について解説する。分からないことは、オフィスアワー等で受け付ける。

《備考》

授業方法は、週2コマのうち、1つを講義中心、もう1つを演習中心とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報システム学とは	授業内容の説明、情報システムとは、情報システムとコンピュータ
2	情報システムの利活用	社会基盤・生活基盤としての情報システム
3	情報システムの利活用	行政・ビジネスと情報システム
4	情報システムの利活用	ネットビジネス・電子商取引と情報システム
5	情報システムの利活用	顧客情報・組織と情報システム
6	情報システムの利活用	情報の共有と検索、情報システムと倫理
7	総括、評価	前半のまとめ、理解度確認
8	情報システムの開発	情報システムの開発
9	情報システムの開発	システム開発モデル、開発手順
10	情報システムの開発	基本計画と外部設計
11	情報システムの開発	内部設計・プログラム設計・プログラミング
12	情報システムの開発	ソフトウェアテスト・運用保守
13	情報システムの開発	ソフトウェア品質
14	情報システムの開発	プロジェクト管理
15	総括、評価	後半のまとめ、理解度確認

科目名	経済ビジネス特論B		科目ナンバリング	EETL23002
担当者氏名	橋本 尚史			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用			

《授業の概要》

経済学は人生をより良くする学問ですが、どのように経済学の考え方を用いれば良いか難しいです。本講義では、身近にあるさまざまな現象から国際金融まで経済学のツールを用いて分析をおこないます。たとえば、経済学で重要なキーワードのひとつである「機会費用」について学び、なぜ人々は協力するのか考えます。本講義を学ぶことで新たなビジネスモデルが思いつくかもしれません。

《授業の到達目標》

私たちの身のまわりで起きているさまざまな現象から国際金融の問題まで「経済学」のツールを用いて論理的に述べられるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

定期試験50パーセント、中間テストもしくはレポート30パーセント、そして平常点20パーセント。ただし、平常点（講義中の発言、受講態度）は点数の加点・減点で評価します。また、4回以上無断欠席した受講生には単位を与えません。また、わからないことはオフィスアワーなどで質問を受付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	「経済学」を学ぶ意義について具体的な例を用いて説明します。
2	新たなコスト	経済学で用いられる「機会費用」について学びます。
3	自由貿易をおこなうワケ	自由貿易をおこなう基本的な考えとなっている「比較優位」について学びます。
4	為替レートの見方	為替レートの見方とそのレートの変動が国内・外国産業や株式価格に与える影響について学びます。
5	為替レートの予測 (1)	長期の為替レート決定メカニズムについて学びます。
6	為替レートの予測 (2)	短期の為替レート決定メカニズムについて学びます。
7	総需要と総供給 (1)	生産物市場の短期的な分析方法について学びます。
8	総需要と総供給 (2)	為替レートの変化が生産物市場の短期的な分析に与える影響について学びます。
9	総貨幣需要と総貨幣供給 (1)	資産としての貨幣とその特徴について学びます。
10	総貨幣需要と総貨幣供給 (2)	貨幣市場の均衡について学びます。
11	IS-LMモデル (1)	生産物市場と資産市場の同時均衡（閉鎖経済のケース）について学びます。
12	IS-LMモデル (2)	閉鎖経済における金融・財政政策の効果について分析をおこないます。
13	マンデル・フレミング・モデル (1)	生産物市場と資産市場の同時均衡（開放経済のケース）について学びます。
14	マンデル・フレミング・モデル (2)	変動相場制度における金融・財政政策の効果について分析をおこないます。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふり返ります。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

1. 藤井英次 (2013) 『コア・テキスト 国際金融論 第2版』新世社。
2. 岩田槻久男 (2009) 『国際金融入門 新版』岩波新書。

《授業時間外学習》

新聞を読み経済に興味を持つこと、そして参考図書・講義資料を用いて復習することが大事です。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

科目名	プログラミングⅡ		科目ナンバリング	EI PL23009	
担当者氏名	森下 博				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

プログラミングをおこなうことの意義を明確にし、解決手段の一つとしてプログラミング言語を自由に扱うことができるように学習していきます。プログラミングⅠを踏まえて、C言語の出力、演算、入力、条件分岐、繰り返しといった文法を確認し、そして配列、関数、ポインタ、構造体、ファイルの入出力といったあらたな文法を習得していきます。その理論を理解するとともに、コンピュータを活用した演習を進めます。

《授業の到達目標》

- プログラミング言語の文法を理解し、役割を説明することができる。
- 問題解決するための手順を考え、整理して説明することができる。
- プログラミング言語を活用して、実行したい内容を記述することができる。

《成績評価の方法》

提出課題40%
 筆記試験60%
 分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかつた課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

プログラミングで大切なのは実行したい内容を手順にそって組み立て、決められた文法にしたがって正確に記すことです。土台を固めながら着実に習得されることを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	01：授業の概要の説明 02：入出力処理の確認	01：科目の位置付けや目標を示すとともに、授業展開方法や概要について説明する。 02：実行までの流れを再確認し、入力出力文を用いたプログラムの作成をおこなう。
2	03：条件判断処理の確認 04：繰り返し処理の確認	03：入力出力文の使い方を再確認し、条件文を加えたプログラムの作成をおこなう。 04：条件文の使い方を再確認し、繰り返し文を加えたプログラムの作成をおこなう。
3	05：入出力と制御の処理 06：一次元配列とは	05：順次構造、選択構造、繰返構造を組み込んだ構造化プログラミングをおこなう。 06：一次元配列の概念を説明し、データ中の最大値を求める考え方について学ぶ。
4	07：データの集計と配列 08：データの合計と配列	07：条件を満たすデータ数を数える考え方と一次元配列の活用の仕方について学ぶ。 08：データの合計値を求めるための考え方と一次元配列の活用の仕方について学ぶ。
5	09：データの並替と配列 10：一次元配列の視覚化	09：データの並び替えの一方法として、比較を繰り返すバブルソートについて学ぶ。 10：一次元配列データの視覚化を説明し、数値データの取扱いの方法について学ぶ。
6	11：文字の配列への格納 12：二次元配列の視覚化	11：一文字と文字列の格納の区別を明確にし、文字配列への格納方法について学ぶ。 12：二次元配列データの視覚化を説明し、数値データの取扱いの方法について学ぶ。
7	13：関数とは 14：関数の引数と戻り値	13：関数の概念を説明し、プログラムにおける関数の定義と記述方法について学ぶ。 14：関数の引数と戻り値の型を説明し、関数間の情報の受け渡し方法について学ぶ。
8	15：関数の呼び出し 16：関数と一次元配列	15：定義した関数の引数の値を変えて何度でも呼び出しができる利点について学ぶ。 16：関数間における一次元配列のデータの受け渡しの概念とその方法について学ぶ。
9	17：関数と二次元配列 18：再帰関数の呼び出し	17：関数間における二次元配列のデータの受け渡しの概念とその方法について学ぶ。 18：定義した関数の中で再度自身を呼び出す再帰関数の仕組みと働きについて学ぶ。
10	19：ポインタとは 20：さまざまな変数宣言	19：変数のアドレスとそれが指している値を取り出すポインタの概念について学ぶ。 20：ローカル変数とグローバル変数の宣言およびアドレスの取り扱いについて学ぶ。
11	21：関数とポインタ 22：配列とポインタ	21：関数へのアドレスの引き渡しと指している値の取り出しの仕組みについて学ぶ。 22：配列データを関数へ引き渡す際のアドレスの役割とポインタ変数について学ぶ。
12	23：ファイルの入出力 24：構造体とは	23：データのファイルへの書き込みとファイルからの読み込みの方法について学ぶ。 24：いくつかの異なる型のデータをまとめて扱うための構造体の概念について学ぶ。
13	25：構造体の演算子 26：配列とファイル処理	25：構造体に関してドット演算子とアロー演算子の2つの記述の仕方について学ぶ。 26：配列データをファイルに書き込んだり読み込んだりする集計方法について学ぶ。
14	27：辞書単語検索(1) 28：辞書単語検索(2)	27：これまで学習してきた文法をもとにして、辞書単語検索プログラムを制作する。 28：1回の実行で何度でも辞書単語検索ができるようにプログラムの修正を加える。
15	29：辞書単語検索(3) 30：データ処理と総括	29：辞書に登録された単語の一覧の表示や単語検索および終了のメニューを加える。 30：目標の達成度をみきわめるため、プログラミングⅡ授業全体について総括する。

科目名	組合せ理論		科目ナンバリング	EI PL22004	
担当者氏名	森下 博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力			

《授業の概要》

与えられた問題に対して、考えられるすべてのパターンを数え上げるための数学的手法を学びます。その組合せがどれだけ存在するかを知ることは社会や日常でも重要とされています。対象の数が少ない場合は、地道に一つ一つ拾い上げれば済みますが、対象の数が多くなれば時間もかかり、誤りも生じかねません。本授業では、組合せが複雑かつ膨大な場合であっても、確実に数え上げることができることを目指します。

《授業の到達目標》

- 問題の内容を把握し、それを図を用いて表現しながら説明することができる。
- 与えられた問題の順列と組合せの数を効率かつ正確に計算することができる。
- 規模の小さい問題からパターンを見出し、その一般化を図ることができる。

《成績評価の方法》

提出課題40%
 筆記試験60%
 分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業で学んだ内容については、確実に身に付くようしっかり復習して下さい。また、より理解を深め、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みにも期待します。

《備考》

組合せ理論で大切なことは、問題を正確に把握し、パターンを誤りなく示すことです。一旦コンパクトにした問題に置き換えてみると一般的に成り立つ法則が見えてきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明	授業計画を説明するとともに、組合せ理論に関する具体的な事例の紹介をおこなう。
2	組合せ理論とは	問題の提示から解答に至るまでの途中過程の展開の仕方および一般化について学ぶ。
3	順列と組合せ(1)	和の法則と積の法則を用いて、ものの数や場合を数えるための考え方について学ぶ。
4	順列と組合せ(2)	並び順を問う順列の数の数え方をもとにもれなく数えるための考え方について学ぶ。
5	順列と組合せ(3)	並び順を問わない組合せの数の数え方をもとに、順列の数との関係性について学ぶ。
6	数列と漸化式(1)	問題解決のための漸化式の作り方とその中に現れる等差数列とその和について学ぶ。
7	数列と漸化式(2)	数列の中で、等差数列と等比数列の漸化式および一般項の概念と性質について学ぶ。
8	数列と漸化式(3)	数え上げ問題解決の過程を通して、ベキ乗和の求め方と公式の導き方について学ぶ。
9	集合の表記法(1)	包除原理の準備段階として、集合の概念とその表記および図示の方法について学ぶ。
10	集合の表記法(2)	包除原理を理解するために必要な集合の演算と図示をおこない、性質について学ぶ。
11	集合の表記法(3)	包除原理の基本的な考え方とその関係式を、図を用いて理解する方法について学ぶ。
12	数え上げ技法(1)	集合の包除原理を活用して、与えられた情報から必要な情報の求め方について学ぶ。
13	数え上げ技法(2)	組合せ計算による数え上げの手法の活用および整数の分割問題と性質について学ぶ。
14	数え上げ技法(3)	すべての並び順のうち、制約を設けたときの並び順の数とその規則性について学ぶ。
15	総括と振り返り	授業内容を総括し、問題を解決するためのアプローチとその手法について振り返る。

科目名	コンピュータ基礎論		科目ナンバリング	EIGL22001
担当者氏名	堀池 聡			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

コンピュータが行う情報処理の基本動作の理解を目的とします。まず、コンピュータを構成する要素である中央演算処理装置、ディスク、メモリなどの基本的な要素の動作について説明します。次に、コンピュータ内部でそれらの要素がどのように連携するかについて説明します。

《テキスト》

毎回、プリントを配布する。

《参考図書》

『コンピュータシステム』 志村正道著 (コロナ社)
 その他は適宜紹介します。

《授業の到達目標》

コンピュータの基本的な動作が理解できます。例えば、パソコンでプログラムを実行させたとき、パソコンの中で各部品が連携してデータを処理する過程の具体的な動きがわかるようになります。

《授業時間外学習》

教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通してください。

《成績評価の方法》

毎回行う確認テストを25%、最後に行う総合テストを75%の割合で評価します。翌週の授業で、確認テストの解説をします。受講マナーが悪い場合は確認テストの点数を減点します。

《備考》

周辺にあるパーソナルコンピュータに関心を持ちながら、本講義を受講して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	本講義の狙い、受講上の注意点、成績評価の方法 コンピュータハードウェアの概要
2	コンピュータの概要	コンピュータの歴史、コンピュータの種類、コンピュータの構成
3	情報とデータ	ビット、文字コード、画像情報、2進数
4	コンピュータの仕組み	コンピュータの基本動作、高信頼性技術、インタフェース、ディスプレイ
5	論理回路(1)	基本的な論理回路(NOT、OR、AND、NOR)
6	論理回路(2)	論理回路による加算器の構成、組み合わせ回路
7	中央処理装置(1)	中央演算装置の基本構成、中央処理装置の動作
8	中央処理装置(2)	中央演算装置の処理高速化の手法、キャッシュメモリ、パイプライン
9	記憶装置(1)	半導体メモリ、RAM、ROM
10	記憶装置(2)	ハードディスク、RAID、DVD、CD
11	アセンブリ言語(1)	機械語、アセンブラ、アドレス指定
12	アセンブリ言語(2)	CASL IIによるプログラム例
13	オペレーティングシステム	オペレーティングシステムの種類、位置づけ、役割
14	習得事項の整理	コンピュータハードウェアに関し、最低限習得すべき事項を整理し、全体に関する理解を深める。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達レベルを確認する。

科目名	プログラミング入門		科目ナンバリング	EI PL22003
担当者氏名	穂積 隆広			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input checked="" type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

この授業ではスクイークe-toysというマウス操作を基本としたグラフィカルなプログラミング環境を使用し、プログラムがどのようなか、自分のやりたいことをコンピュータに実行させるためにはどのようなことを考えないといけないのか等を学びます。

《テキスト》

テキストは使用しません。
資料をe-Learningシステムや学内ネットワークを通じて適宜配布します。

《参考図書》

『スクイークであそぼう』とーるやまもと（翔泳社）
『Squeak入門』Mark J. Guzdial他（エスアイビーアクセス）
<http://squeakland.org/>

《授業の到達目標》

次の事柄を理解し活用できるようになることを目標とします。
 ・プログラムが記述されたその順番通りに動作することを理解する。
 ・自分がやりたいことをいくつかの場合に分けて記述する。
 ・自分がやりたいことを複数回の繰り返しとして記述する。

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
 普段の行動においても物事を手順として考えるよう心がけること。

《成績評価の方法》

毎回課題提出があり、その評価の合計を成績評価(100%)とします。
 それぞれの課題の出来具合についてはコメントをつけて通知します。

《備考》

e-Learningシステムを使って授業を行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	授業の進め方、e-Learningシステムの使い方について
2	etoys基礎	etoysの基本的な使い方やスクリプトの作成について
3	条件分岐	条件に応じた処理の切り替えについて
4	繰り返し処理	繰り返し処理を使った作図について
5	繰り返し処理	複数の繰り返し処理の組み合わせについて
6	変数	変数の説明と繰り返し処理の組み合わせについて
7	再帰	スクリプトの引数の説明と再帰プログラムの作成
8	オブジェクトの座標	座標変数を使ったオブジェクトの移動について
9	スクリプティング	スクリプトの起動や停止命令について
10	乱数	乱数を使ったゲームの作成
11	ボタン	ボタンを使ったゲームの作成
12	オブジェクトイメージ	オブジェクトの絵柄の変更について
13	応用	応用課題1
14	応用	応用課題2
15	応用	応用課題3

科目名	オペレーティングシステム		科目ナンバリング	EIGL22003	
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

オペレーティングシステムは、計算機ハードウェアとその使用者の間で、便利で有効な計算機環境を提供するシステムです。現在では、携帯電話、パソコンをはじめ、大規模なシステムのために、数多くのオペレーティングシステムが構築されています。しかし、それらのオペレーティングシステムにおける基本的な概念はみな共通しています。この授業では、オペレーティングシステムの基本的な概念や技法を学習します。

《テキスト》

『オペレーティングシステムの基礎』 大久保英嗣著（サイエンス社）1997年

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

(1) オペレーティングシステムとはなにか、(2) オペレーティングシステムの構成要素、(3) プロセスの概念と管理方法、(4) プロセスが並行して動作するためのプロセスの同期とプロセス間通信の方法、(5) メモリや仮想メモリの管理技法、(6) ファイルの構造やアクセス方法、ディレクトリの管理方法、(7) 割り込み、入出力、タイマの管理方法について説明できる。

《授業時間外学習》

事前学習
 ・授業のプリントを事前に公開するので、授業までに読んでおくこと。
 事後学習
 ・授業開始時に前回の確認を問題形式で行うので、授業内容の復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

レポート課題 2回(30%)、理解度評価(70%)
 レポートはコメントをつけて写しを返却する。
 理解度確認後、確認内容を解説する。
 分からないことは、オフィスアワー等で受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オペレーティングシステムとは	授業の内容とオペレーティングシステムの説明
2	カーネル	オペレーティングシステムの歴史、オペレーティングシステムの構成要素と構成法
3	プロセス管理	プロセスの概念、マルチプログラミング
4	プロセス管理	スケジューリング
5	プロセス管理	並行プロセス
6	プロセス管理	プロセス間通信、デッドロック
7	メモリ管理	メモリ割り付け方法
8	メモリ管理	仮想メモリ、ページング、セグメンテーション
9	メモリ管理	仮想メモリ割り付け方法
10	ファイル管理	ファイルシステム、ファイル操作、ファイル構造、アクセス方法
11	ファイル管理	ディレクトリ構造、ファイル保護、2次記憶の割付方法
12	割り込み処理	割り込み、タイマ管理
13	入出力制御	入出力装置の制御
14	総括	オペレーティングシステムのまとめ
15	評価	理解度の確認

科目名	情報ネットワーク		科目ナンバリング	EIGL22002
担当者氏名	堀池 聡			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

インターネットに見られるように、ネットワークなくしては情報処理は成り立ちません。この講義ではネットワーク技術の基本を学ぶことにより、計算機とネットワークがどのように関わっているかを理解し、ネットワークの今後の発展にも対応できる知識を習得します。

《テキスト》

『ネットワーク利用の基礎 [新訂版]』 野口健一郎 (サイエンス社)

《参考図書》

その他は適宜紹介します。

《授業の到達目標》

情報ネットワークの基本的な動作が理解できます。例えば、自宅のパソコンからインターネットを通じて外部のサイトにアクセスしたとき、パケットがどの経路をたどるか、どのプロトコルが用いられるか等の具体的な動きがわかるようになります。

《授業時間外学習》

教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通して下さい。

《成績評価の方法》

毎回行う確認テストを25%、最後に行う総合テストを75%の割合で評価します。翌週の授業で、確認テストの解説をします。受講マナーが悪い場合は確認テストの点数を減点します。

《備考》

家庭や大学で利用しているコンピュータがどのようなネットワーク環境にあるか関心を持ちながら、本講義を受講して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	本講義の狙い、受講上の注意点、成績評価の方法情報ネットワークの概要
2	ネットワークとデジタル通信	ネットワークとは、コンピュータネットワークの利点、ビットの伝送
3	ネットワークの構成	伝送媒体、通信機器、ネットワークの形状、ネットワークの種類
4	プロトコル	プロトコルの必要性、プロトコルの階層構造、プロトコルの体系
5	コンピュータ間の通信接続	通信回線の実現方法、データ伝送の実現
6	ローカルエリアネットワーク	LANプロトコルで考慮すべき事項、LANプロトコルの位置づけ、主要なLANプロトコル、無線LAN
7	インターネットワーク	広域ネットワークの成り立ち、インターネットワーク通信のプロトコル、IP、経路制御
8	トランスポートサービス	トランスポートサービスの位置づけ、トランスポートプロトコル、TCP
9	インターネットワーク	インターネットの構成方法、インターネットへの接続、IPアドレス、ドメイン名、名前解決
10	電子メール	電子メールの基本形式、電子メールの配達仕組み、電子メールの利用
11	ワールドワイドウェブ	WWWの基本構成、ハイパーリンクとハイパーテキスト、URI、ブラウザ、WWWのプロトコル
12	ネットワークプログラミング	FTP、TELNET、クライアントサーバ方式、Webサービス
13	ネットワークセキュリティ	ネットワーク上の脅威、通信路の安全性、暗号技術、不正プログラム
14	習得事項の整理	情報ネットワークに関し、最低限習得すべき事項を整理し、全体に関する理解を深める。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達レベルを確認する。

科目名	アルゴリズム		科目ナンバリング	EIPL22006
担当者氏名	高野 敦子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

現在私たちの生活は、コンピュータ科学によって生まれた様々なアイデアによって支えられています。そのアイデアを実現するための手順を正確にレシピとしてまとめたものが「アルゴリズム」です。アルゴリズムを学ぶことにより、社会を支える技術の仕組みを理解し、自分自身でも簡単な仕組みを実現できるための基礎力を養います。簡易言語を用いた実習も取り入れます。

《授業の到達目標》

私たちの暮らしや社会を支えている「アイデア」をその「アルゴリズム」を使って理解し説明することができる。さらに、アルゴリズムの要素を学び、自分自身でも簡単なアルゴリズムを作ることができる。

《成績評価の方法》

毎回の授業で行う確認テストと課題及び学期末に行う試験で評価します。評価点は、平常点（毎回の課題）を20%、期末試験を80%の割合とします。確認テストはその場で採点し、期末試験に関しては、必要に応じてコメントを返却します。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

毎回、授業内容の理解を助けるための事後学習を指示します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	アルゴリズムとは	アルゴリズムとは何か、またその歴史を理解する。
2	アルゴリズムの体験	「手順」の実行を実際に体験する。
3	ページランク	グーグルが検索結果のランキングのために使った革新的なアルゴリズムを理解する。
4	公開鍵暗号法	インターネット上で情報を安全に送るための独創的なアイデアを理解する。
5	誤り訂正符号	データの送信を支える、「自分で誤りを訂正する」アルゴリズムを理解する。
6	パターン認識	分類におけるアルゴリズムを理解する。
7	データ圧縮	日常多くの場面で恩恵を被っているデータ圧縮のアルゴリズムを理解する。
8	データベース	オンライン取引に欠かせないデータベース技術を支えるアルゴリズムを理解する。
9	デジタル署名	デジタル署名を構成しているアルゴリズムを理解する。
10	人工知能	学習のアルゴリズムを理解する。
11	経路探索	経路探索のアルゴリズムを理解する。
12	アルゴリズムを表記するための要素	処理、分岐、ループ、ルーチンを理解する。
13	アルゴリズムを表記するための要素	ハイパーリンク、ハッシュテーブル、計算テーブルを理解する。
14	プログラミング実習	処理、分岐、ループ、ルーチンを使ったプログラミング実習
15	プログラミング実習	ハイパーリンク、ハッシュテーブル、計算テーブルを使ったプログラミング実習

科目名	情報デザイン		科目ナンバリング	EI PL22008
担当者氏名	西田 悦雄			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力			

《授業の概要》

情報の特性や特徴を捉え、より良いコミュニケーションがはかれるように概念、技術、表現、思考など情報伝達のための情報の設計を学びます。授業では基礎的な概念や知識を説明する講義を主としますが、それらの理解度をはかる課題も併せて行います。

考え方やその表現方法は主観的な要素を多く含みますが、この科目では客観的な視点での情報を扱います。

《授業の到達目標》

伝えたい情報を分かりやすくかつ正確に適切な情報量を伝えるために

1. 情報の整理ができること。
 2. 表現の意味と方法が理解ができること。
 3. それら意味と表現を活用し、適切な表現ができること。
- を到達目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出点および内容点(40%)、試験に代わる課題(50%)、平常点(10%)とし総合的に判定し評価します。課題提出は授業内で提示された課題のすべてを対象とします。

Eラーニングシステムのコメント欄で修正点をフィードバックします。

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は適宜配付します。

《参考図書》

Sinan Si Albir著, 原 隆文 訳, 『入門UML』, オライリージャパン
 Russ Miles, Kim Hamilton著, 原 隆文 訳, 『入門UML2.0』, オライリージャパン
 など。
 その他参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配付する資料を熟読し理解して下さい。
 また、身の回りの良いと思われるデザインに関心を持ち、優れている点を観察して下さい。

《備考》

『アプリケーションソフト』の既修得が望ましいです。
 また、より深い理解を促すために授業計画の順序等変更・修正する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要・導入	情報とは？ 情報をデザインするとは？
2	意味と形式	意味と形式の違い
3	整理	情報を整理するためのアイデアや方法
4	形	形が有する情報の活用
5	色	色彩が有する情報の活用
6	図・表・グラフ	図や表とグラフの違いと有用性
7	モデリングの基礎(1)	「もの」の特性：インスタンスとクラス
8	モデリングの基礎(2)	「もの」の特性：関連 集約の概念とその応用
9	モデリングの基礎(3)	「もの」の特性：関連 汎化と継承の概念とその応用
10	モデリングの基礎(4)	「手続きと制御」：事象の時系列, シナリオ, 事象トレース図
11	モデリングの基礎(5)	「手続きと制御」：並行・同期動作, アクティビティ図
12	モデリングの基礎(6)	「手続きと制御」：事象, 状態, 動作, 状態遷移図の概念
13	モデリングの基礎(7)	「手続きと制御」：事象, 状態, 動作, 状態遷移図の適応
14	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの定義と有用性
15	まとめ	その他補足とまとめ

科目名	オートマトン	科目ナンバリング	EI PL23010
担当者氏名	西田 悦雄		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

コンピュータや機械の自動実行を司る数学的モデル理論のオートマトンの基礎知識と正則(正規)表現を学び、情報の根幹となる理論の獲得を目指します。授業は理論や動作などの説明を行う講義を主としますが、理解度の向上のためのレポートも実施します。また、E-ラーニングシステムを活用します。

《授業の到達目標》

1. 状態遷移図での表現が理解でき、活用できること。
 2. 数式モデルで表現が理解でき、活用できること。
 3. 自然言語での表現が理解でき、活用できること。
 4. それら表現方法による「機械」を正確に理解できること。
 5. 論理的な思考とその正確な表現ができること。
- を目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出および内容点(30%)、筆記による定期試験の点数(60%)、平常点(10%)とし、総合的に判定・評価します。課題は提示したすべてを対象とします。レポートや練習問題の解答例の際にフィードバックします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 基礎的知識(1)	文字集合、文字列、言語など、理解のための準備としての基礎知識
2	基礎的知識(2)	集合、関係、グラフなど、理解のための準備としての基礎知識
3	決定性有限オートマトン(1)	決定性有限オートマトンの基礎である数的モデル、遷移関数表、状態図の解説
4	決定性有限オートマトン(2)	決定性有限オートマトンの遷移関数の拡張
5	非決定性有限オートマトン(1)	決定性有限オートマトンとの相違点と有用性 非決定性有限オートマトンの数的モデル、遷移関数表、状態図の解説
6	非決定性有限オートマトン(2)	非決定性有限オートマトンの遷移関数の拡張 非決定性有限オートマトンから決定性有限オートマトンへの変換
7	ϵ 動作の非決定性有限オートマトン(1)	ϵ 動作の直観的説明、 ϵ 閉包 ϵ 動作の非決定性有限オートマトンの数的モデル、遷移関数表、状態図の解説
8	ϵ 動作の非決定性有限オートマトン(2)	ϵ 動作の非決定性有限オートマトンの遷移関数の拡張 非決定性有限オートマトンへの変換
9	有限オートマトンのまとめ	有限オートマトンのそれぞれの特徴と適応を総括
10	正則表現(1)	正則表現の基礎と有用性などの解説
11	正則表現(2)	正則表現での演算
12	正則表現(3)	定義を使った正則表現から ϵ 動作の非決定性有限オートマトンへの変換
13	正則表現(4)	状態消去法を使った正則表現から ϵ 動作の非決定性有限オートマトンへの変換
14	正則表現のまとめ	正則表現のまとめ、および計算機での応用例の理解
15	総括と補足	授業全体のまとめ、およびその他補足

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は必要に応じて適宜配布します。

《参考図書》

1. J. Hopcroft :et 著, 野崎, 高橋, 町田, 山崎共訳, 『オートマトン言語理論 計算機論I 第2版』, サイエンス社. 2. A. V. Aho :et 著, 原田賢一訳, 『コンパイラ[第2版]』, サイエンス社など。
 その他参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配布する資料を熟読し、予習・復習を行って理解を深めて下さい。
 レポート課題は時間外で行って下さい。

《備考》

「組合せ理論」、「情報数理」、「コンピュータ基礎論」の既修得が望ましいです。履修者のより深い理解を促すために状況に応じて授業計画の順序等を変更/修正する場合があります。

科目名	情報セキュリティ		科目ナンバリング	EIGL23004
担当者氏名	堀池 聡			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

インターネットにより様々なサービスがネットワークを通じて手軽に利用できるようになっています。一方、個人情報流出の問題やネット犯罪の危険に遭遇する可能性も高くなっています。この講義では、情報セキュリティに関するしっかりとした基本知識を身につけることを目標としています。情報セキュリティの考え方から始まり、ウイルス、暗号などの基本技術、さらにはシステムの監査や診断といった課題も学びます。

《授業の到達目標》

情報セキュリティ技術の基本について理解します。例えば、Webで入力したパスワードはどの程度安全か、自宅のパソコンに対してどのような脅威が存在し、その脅威から守るにはどうすれば良いかがわかります。

《成績評価の方法》

毎回行う確認テストを25%、最後に行う総合テストを75%の割合で評価します。翌週の授業で、確認テストの解説をします。受講マナーが悪い場合は確認テストの点数を減点します。

《テキスト》

『情報セキュリティ 標準テキスト』 情報セキュリティ標準テキスト編集委員会編（オーム社）

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通して下さい。

《備考》

「情報ネットワーク」を必ず受講しておいて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の進め方と概要	情報のセキュリティの概要
2	情報セキュリティの考え方	情報セキュリティの定義、情報セキュリティの必要性
3	不正攻撃 (1)	情報システムの脆弱性
4	不正攻撃 (2)	不正攻撃の定義、種類
5	ウイルス	不正プログラムの種類、ウイルスの種類とその対策
6	ファイアーウォール	ファイアーウォールの役割、機能、構成
7	暗号 (1)	暗号技術とその応用
8	暗号 (2)	公開鍵暗号方式の詳細
9	認証	利用者認証、第三者認証、認証応用技術
10	監査	セキュリティ監査と診断、各種ツール
11	情報セキュリティポリシー	考え方と対策
12	標準化	国際標準、国内標準、関連法規
13	セキュリティ管理者	不正アクセス基準から見たセキュリティ管理者の業務
14	習得事項の整理	情報セキュリティに関し、最低限習得すべき事項を整理し、全体に関する理解を深める。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達レベルを確認する。

科目名	データベース I	科目ナンバリング	EIGL23007
担当者氏名	穂積 隆広		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

この授業では表形式でデータを蓄積するリレーショナルデータベースについて学びます。その中で実際にデータを蓄積するリレーションについて説明し、そのリレーションに効率よくデータを蓄積するためのデータの分解や整理方法（正規化）について説明します。なお、可能な範囲でコンピュータを利用した演習も行います。

《テキスト》

「データベース入門」増永良文著（サイエンス社）
 （このテキストはⅡ期のデータベースⅡでも使用します）

《参考図書》

授業中に適宜指示します。

《授業の到達目標》

リレーションに効率よくデータを登録し、そのデータを的確に取り扱うために必要な次の知識を身に付ける。

- ・データを個々に識別して取り扱うために必要な候補キーの概念
- ・リレーション内の重複データを排除し、データの保守性を高める関数従属性の概念とそれを基にしたリレーションの分割法
- ・これらの知識を基にしたデータベースソフトの利用法

《授業時間外学習》

毎回授業前に教科書を読んで予習しておくこと。また、授業後はその日の授業とプリントの内容を振り返り復習しておくこと。また、自分の身の回りのデータをどうすれば効率よく蓄積し、活用できるかを常に考えるよう心がけること。

《成績評価の方法》

毎回の小テストやレポート（20%）や、中間試験と期末試験（80%）をもとに評価します。

なお、実施した小テストや試験は返却し、解説を行う。また、オフィスアワーなどでも質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	データベースとは何か	データベースとはどのようなもので、どのようにデータを蓄積し、どのように活用できるかといったデータベースの概要について説明する。
2	データモデルについて	データベースに登録しようとする情報について、実際にデータベースに登録可能な形式の「データ」に変換する方法や考え方について説明する。
3	リレーショナルデータモデル	データベースの形式のひとつであるリレーショナルデータベースについてそのデータモデルを説明する。
4	リレーションと第1正規形	リレーショナルデータベースのデータ保存形式であるリレーション（表）とその個々のデータについての制限について説明する。
5	候補キーと主キー	データを個々に識別して取り扱うための主キーとその選定のもとになる候補キーについて説明する。
6	リレーショナル代数	リレーションに蓄積されたデータの中から特定のデータを取り出すためのデータベース演算について説明する。
7	リレーショナル代数	リレーションに蓄積されたデータを組み合わせ新しいデータを構成するためのデータベース演算について説明する。
8	更新時異状	リレーションに蓄積されたデータに対して様々な操作を行った時に発生する問題と、そのような問題を発生させないために必要な注意点について説明する。
9	第2正規形	更新時異状を発生させないデータ形式のひとつである第2正規形について説明する。
10	第3正規形	更新時異状を発生させないデータ形式のひとつである第3正規形について説明する。
11	関数従属性	更新時異状発生の原因となる関数従属性について説明する。
12	情報無損失分解	更新時異状が発生するリレーションを第2正規形や第3正規形になおすための情報無損失分解について説明する。
13	SQLについて	データベースを操作するために使用するデータベース操作言語について説明する。
14	SQLについて	データベースを操作するために使用するデータベース操作言語について説明する。
15	応用課題	今までのまとめと応用課題に取り組む。

科目名	データベースⅡ	科目ナンバリング	EIGL23009
担当者氏名	穂積 隆広		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力 ◎ 3-5 情報処理の知識の応用		

《授業の概要》

この授業ではⅠ期に学んだリレーショナルデータベースについて、そのデータベース操作・記述言語であるSQLについて説明します。そしてその上でデータベースに対して起こるさまざまな障害やその対処のための仕組みについて学び、データベースを高度に活用する技術を身に付けます。なお、コンピュータを利用した演習も行います。

《テキスト》

『データベース入門』 増永良文 著 (サイエンス社)
 (このテキストはⅠ期のデータベースⅠで使用したものと同一ものです)

《参考図書》

授業中に適宜指示します。

《授業の到達目標》

データベースをサービスとして提供するデータベースサーバーを取り扱うために必要なデータベース操作言語SQLのうち、データの取得に使用するSELECT文の使い方を身につけます。その上でそのようなデータベースサーバーを大勢が同時に利用した場合に想定される問題点について説明し、それを回避するトランザクションの概念とそれを使った障害時回復の考え方を身につけます。

《授業時間外学習》

毎回授業前に教科書を読んで予習しておくこと。また、授業後はその日の授業とプリントの内容を振り返り復習しておくこと。また、自分の身の回りのデータをどうすれば効率よく蓄積し、活用できるかを常に考えるよう心がけること。

《成績評価の方法》

毎回の小テストやレポート(20%)や、中間試験と期末試験(80%)をもとに評価します。
 なお、実施した小テストや試験は返却し、解説を行う。また、オフィスアワーなどでも質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習	授業の概要とデータベースⅠの範囲の復習を行う。
2	SQL(単純質問)	データベース操作言語SQLのSELECT文の基本形を説明する。
3	SQL(条件指定)	データベース操作言語SQLのSELECT文において条件を指定してデータを絞り込む方法を説明する。
4	SQL(グループ化と集約関数)	データベース操作言語SQLのSELECT文において同じ値を持つデータをグループにまとめ、集計を行う方法を説明する。
5	SQL(その他)	データベース操作言語SQLのSELECT文において複数のテーブルを結合してデータを取り出す方法を説明する。
6	データベース管理システムについて	データベースをサービスとして提供するデータベースサーバーの仕組みや構造について説明する。
7	データベースの設計について	データベースサーバーにデータを登録するためのテーブル設計などについて説明する。
8	トランザクション	データベースサーバー上のひとつのデータベースを大勢が同時に利用した時に発生する問題などについて説明する。
9	トランザクション	前回説明した問題点を回避するための仕組みであるトランザクションについて説明する。
10	同時実行制御について	トランザクションの同時実行について説明する。
11	同時実行制御について	複数のトランザクションの同時実行を可能にする同時実行制御について説明する。
12	同時実行制御について	同時実行制御のひとつである2相ロック法について説明する。
13	障害時回復について	トランザクションを基本としたデータベースの障害時回復について説明する。
14	応用課題	今までの復習と応用課題に取り組む
15	応用課題	今までのまとめと応用課題に取り組む

科目名	オペレーションズ・リサーチ		科目ナンバリング	EIGL23006
担当者氏名	高野 敦子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力			

《授業の概要》

表計算ソフト（Excel）を使って、企業経営を中心とする様々な問題を効率的に解くOR手法を実践的に学びます。特に従来表計算ソフトとして使ってきたExcelの問題解決のための意思決定サポートツールとしての機能を学びます。ORは問題を科学的に解決するための「問題解決学」です。誰もがORを学ぶことによって問題解決能力を高めることができます。

《テキスト》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

(1) 問題解決能力を高めることができます。さらに、(2) 従来表計算ソフトとして使ってきたExcelの問題解決のための意思決定サポートツールとしての機能を使いこなすことができるようになります。

《授業時間外学習》

毎回、授業内容を定着させるための事後学習を指示します。

《成績評価の方法》

到達目標(1)については、試験によって見ます。(2)については、毎回提出してもらった課題を見ます。平常点（毎回の課題）を30%、期末試験を70%の割合で評価します。確認テストはその場で採点し、期末テストについては、必要に応じてコメントを返します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ORの歴史と手法の例	ORの歴史と代表的な活用例を学び、概要を理解する。
2	日程管理	手法の理解と Excelを使った実習。
3	PERT計算	手法の理解と Excelを使った実習。
4	PERTを使った日程管理	手法の理解と Excelを使った実習。
5	線形計画法とは	手法の理解と Excelを使った実習。
6	線形計画法の代表例	手法の理解と Excelを使った実習。
7	輸送問題	手法の理解と Excelを使った実習。
8	在庫管理	手法の理解と Excelを使った実習。
9	在庫管理手法のシミュレーションによる検討	手法の理解と Excelを使った実習。
10	待ち行列とモンテカルロシミュレーション	手法の理解と Excelを使った実習。
11	待ち行列のシミュレーションによる検討	手法の理解と Excelを使った実習。
12	現在価値と期待値	手法の理解と Excelを使った実習。
13	動的計画法	手法の理解と Excelを使った実習。
14	意思決定	手法の理解と Excelを使った実習。
15	学習のまとめ	各手法の理解確認。

科目名	情報数学A		科目ナンバリング	EITL23001
担当者氏名	森下 博			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力			

《授業の概要》

授業では問題の数理モデル化と関数の視覚化に着目して展開します。数理モデルは現象を数式で表したものです。数式にすることで、その性質や本質を深く知ることができるようになります。そのための手段として、指数関数や対数関数や三角関数などのグラフ描画および微分について扱います。経済や社会の問題を具体的に示し、将来予測に役立てることを目指します。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業の到達目標》

- 経済や社会の問題と数理モデルとの関連性について説明することができる。
- さまざまな関数の特徴を捉え、正確にそのグラフを描画することができる。
- 関数を微分することの意味を捉え、正確に微分の計算をすることができる。

《授業時間外学習》

授業で学んだ内容については、確実に身に付くようしっかり復習して下さい。また、より理解を深め、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みにも期待します。

《成績評価の方法》

提出課題40%
 筆記試験60%
 分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《備考》

情報数学を学ぶ上で大切なことは、公式を暗記していることではなく、考え方を理解していることです。問題に対する解答の速さではなく、理解の深さを大切にしたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業展開と概要説明	授業の計画と概要を説明するとともに、情報数学の具体的な事例の紹介をおこなう。
2	n 次関数とその特徴(1)	直線や曲線の式であらわされる数理モデルを示し、現象の振る舞いについて考える。
3	n 次関数とその特徴(2)	一次関数や二次関数の特徴を知り、正しくグラフを描画して現象の予測につなげる。
4	n 次関数とその特徴(3)	n 次関数の傾きに着目して微分をおこない、最大値問題と最小値問題について学ぶ。
5	指数関数のモデル化(1)	指数関数であらわされる数理モデルを取り上げ、増加と減少の現象について考える。
6	指数関数のモデル化(2)	指数関数の性質や法則を知り、正しくグラフを描画して現象の将来予測につなげる。
7	指数関数のモデル化(3)	指数関数の傾きに着目して微分をおこない、増加や減少の変化の感覚を身に付ける。
8	対数目盛による表現(1)	対数目盛を用いて指数関数のグラフを描画し、挙動を明確に表示する方法をつかむ。
9	対数目盛による表現(2)	対数と指数の関連を捉え、対数の性質をもとにして指数方程式を解けるようにする。
10	対数目盛による表現(3)	指数関数と対数関数との関係性をもとに微分をおこない、数理モデルを取り上げる。
11	周期的な変化の現象(1)	三角関数であらわされる数理モデルを取り上げ、周期的な振る舞いについて考える。
12	周期的な変化の現象(2)	三角関数の特徴や性質を知り、正しくグラフを描画して変動の様子について考える。
13	周期的な変化の現象(3)	三角関数の傾きに着目して微分をおこない、グラフを描画して変化の様子を捉える。
14	多変数関数の視覚化	多変数で構成される数式モデルを取り上げ、その本質を視覚的に捉える方法を学ぶ。
15	授業総括と振り返り	授業内容を総括し、数式モデルの組み立てとその解決アプローチについて振り返る。

科目名	情報数学B		科目ナンバリング	EITL23002
担当者氏名	森下 博			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力			

《授業の概要》

授業では線形代数の基礎を取り上げ、行列の表現を中心に数理解モデルと解決アプローチについて学習します。例えば、連立方程式の行列表現から、方程式が多くなっても解があるのかなのか、または無数にあるのかを判定する考え方を学びます。そして、解がある場合に確実に解を求める手順について取り上げます。経済や社会の問題を具体的に示し、将来予測に役立てることを目指します。

《授業の到達目標》

- 経済や社会の問題をもとに、行列表現を用いた数理解モデルを組み立てることができる。
- 行列や行列式の演算をもとにして、複数のアプローチにより連立方程式を解くことができる。
- 行列の固有値と固有ベクトルを用いて、行列の対角化とベキ計算をすることができる。

《成績評価の方法》

提出課題40%
 筆記試験60%
 分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業で学んだ内容については、確実に身に付くようしっかり復習して下さい。また、より理解を深め、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みにも期待します。

《備考》

情報数学を学ぶ上で大切なことは、公式を暗記していることではなく、考え方を理解していることです。問題に対する解答の速さではなく、理解の深さを大切にしたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業展開と概要説明	授業の計画を概要を説明するとともに、情報数学の具体的な事例の紹介をおこなう。
2	行列演算とその性質(1)	行列の行と列の概念を理解し、和や差やスカラー倍や積の演算をできるようにする。
3	行列演算とその性質(2)	行列の交換法則、結合法則、分配法則が成立するかどうかの演算の確認をおこなう。
4	行列演算とその性質(3)	接続行列と行列演算を用いた数理解モデルについてその解決アプローチを取り上げる。
5	n元連立方程式の解(1)	掃き出し法を用いた行列の変形をおこない、連立方程式を解くための準備を進める。
6	n元連立方程式の解(2)	行列を変形した結果から行列の階数を求め、連立方程式の解の存在有無を判別する。
7	n元連立方程式の解(3)	与えられた行列の逆行列を求めて、それを利用した連立方程式の解の求め方を知る。
8	行列式の余因子展開(1)	連立方程式の解の公式を導き、行列および行列式を用いた表現と解法について学ぶ。
9	行列式と余因子展開(2)	行列式の定義およびその性質を踏まえながら余因子展開による行列式の値を求める。
10	行列式と余因子展開(3)	行列式の効率的な計算方法とクラメルの公式による連立方程式の解法について学ぶ。
11	モデルと現象の推移(1)	現象の時系列変化をみることのできる推移行列を取り上げ未来予測の事例を挙げる。
12	モデルと現象の推移(2)	行列の固有値と固有ベクトルを理解し、その計算をもとに行列の対角化をおこなう。
13	モデルと現象の推移(3)	行列の対角化を利用して行列のベキ計算を求め、さらに漸化式から一般項を求める。
14	最適化問題への応用	社会科学の問題の行列による数式モデルを取り上げて、その連立方程式の解を導く。
15	授業総括と振り返り	授業内容を総括し、数理解モデルの組み立てとその解決アプローチについて振り返る。

科目名	応用プログラミングA		科目ナンバリング	EI PL23012
担当者氏名	西田 悦雄			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

JavaScript言語を使ったプログラミングの演習を行います。オブジェクト指向、イベントドリブン、DOMについて学んだ後、ウェブブラウザ上で動作するクライアントサイドプログラミングに取り組みます。また、E-ラーニングシステムを活用した授業です。

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は適宜配布します。

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介します。

《授業の到達目標》

次のことがらを理解し活用することができる。

1. JavaScriptによるプログラミングが行えること。
 2. オブジェクト指向の考え方 自ら考え、思考と表現の幅を広げることができること。
 3. Webページへの連携ができること。
- を目標にします。

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
 作成しようとする作品に必要な資料を集めること。
 プログラムの入力やデバッグの作業。
 など自発的な学習をして下さい。

《成績評価の方法》

毎回課題提出を設けます。提出点および内容点(初級60%, 上級30%), 平常点(10%)を成績評価とします。
 E-ラーニングシステムのコメント欄で修正点等をフィードバックします。

《備考》

「ウェブデザイン」、「情報デザイン」、「プログラミングI」、「プログラミングII」、「ソフトウェア設計論」の既修得が望ましいです。C言語、HTML、CSSの基礎の理解は必須です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	言語概要	JavaScriptとECMAScript
2	処理系の使い方	対話的に用いる処理系の使い方、C言語との比較
3	変数、制御文	変数、スコープ、Cと異なる制御文
4	関数	関数の定義と呼び出し、関数の引数
5	配列	配列の定義、配列のメソッド
6	オブジェクト(1)	オブジェクト、プロパティ
7	オブジェクト(2)	処理系で用意されているオブジェクト
8	DOM	HTMLとブラウザ上のオブジェクト
9	イベント	HTMLとイベント
10	CSS	CSSを扱うスクリプト
11	グラフィックス	スクリプトによる描画
12	正規表現	正規表現によるパターンマッチング
13	応用(1)	動的なウェブページを設計する
14	応用(2)	動的なウェブページを作成する
15	応用(3)	予期せぬ使い方に対応する

科目名	ソフトウェア設計論		科目ナンバリング	EI PL23011
担当者氏名	西田 悦雄			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

ソフトウェア開発で用いられる「オブジェクト指向」の基礎知識や思考方法など、その表現方法としてのモデル化を学び、計算機上の空間だけでなく現実世界に存在するシステム設計や評価のための方法論の確立を目指します。

モデリングの記述にはUML(Unified Modeling Language:統一モデリング言語)を使用し、UMLの記述規則の修得も目指します。

《授業の到達目標》

1. オブジェクトのもつ特性や特徴や関連を表現する静的モデリングの理解ができること. 2. 処理の手続きや制御(時系列, 事象・状態)を表現する動的モデリングの理解ができること. 3. システムの入出力アクセスを表現する機能モデリングが理解できること. 4. 具象化と抽象化の概念, 記述規則に対して正確な記述方法と思考力の獲得. を目標とします.

《成績評価の方法》

課題の提出点および内容点(35%), 試験に代わる課題(55%)平常点(10%)を基本として総合的に判定し評価します. 課題については提示する課題すべてを対象とします.

Eラーニングシステムのコメント欄で修正点等をフィードバックします.

《テキスト》

教科書は使用しません. 授業に必要な資料は適宜配付します.

《参考図書》

Sinan Si Albir著, 原 隆文 訳, 『入門UML』, オライリージャパン
 Russ Miles, Kim Hamilton著, 原 隆文 訳, 『入門UML2.0』, オライリージャパン
 など.
 その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介します.

《授業時間外学習》

授業内で配布する資料を熟読し理解を深めて下さい. 試験に代わる課題作成は授業時間外で行って下さい.

《備考》

『情報デザイン』, 『オートマトン』の既履修が望ましいです. より深い理解を促すために授業計画の順序等を変更・修正するときがあります. Eラーニングシステムを活用します.

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要と導入 モデリングの基礎	モデリングの概要と基礎, UMLの利便性
2	静的モデル(1): オブジェクト図(1)	静的モデルの記述内容と優位性 インスタンスとクラス
3	静的モデル(2): オブジェクト図(2)	関連, リンクの概念の理解
4	静的モデル(3): オブジェクト図(3)	集約, 汎化, 継承の概念の理解
5	動的モデル(1)	動的モデルの記述内容と優位性 並行動作, 同期, アクティビティ図
6	動的モデル(2)	シナリオと事象トレース図
7	動的モデル(3)	事象, 状態, 活動の違い 状態図の概要
8	動的モデル(4)	状態図の実践
9	機能モデル(1)	入出力, データ変換, データフロー図
10	機能モデル(2)	データストア, 更新
11	総合的な演習・課題(1)	静的モデルの演習
12	総合的な演習・課題(2)	動的モデルの演習
13	総合的な演習・課題(3)	機能モデルの演習
14	総合的な演習・課題(4)	具体的なシステムの設計
15	まとめ	モデリングのまとめおよびその他補足

科目名	情報検索論		科目ナンバリング	EIGL23010
担当者氏名	高野 敦子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 2-5 情報処理能力		

《授業の概要》

高度情報化社会においては、単なる検索技術の習得だけでなく、情報の構造、世の中の情報の流れ、インターネットをはじめとする情報システムの仕組みを理解し、さらに情報を見る目を養う必要があります。そのような情報スキルを身につけるための基礎となる知識や技術を学びます。授業の中では、パソコンを使った実習も多く取り入れていきます。

《テキスト》

特に使用しません。その都度、資料を提示します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

検索エンジンの仕組みを説明することができる。そのうえで、日常生活の中での問題解決に必要な情報、他の授業におけるレポート作成や研究に必要な情報、ビジネスにおける問題解決に必要な情報検索のスキルを身につけることができる。

《授業時間外学習》

毎回授業の復習をし、確認テストに備えてください。

《成績評価の方法》

平常点（毎回の課題）を20%、復習テスト（毎回授業の最初に行います）を80%の割合で評価します。復習テストの結果については、適宜連絡します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	検索エンジンが目指すこと	検索エンジンの概要を図書館システムと対比させながら理解する。
2	Googleを使いこなす	Googleの様々な機能を使ってみる。
3	検索エンジンの仕組み（情報の集め方）	図書館システムについて理解する。
4	検索エンジンの仕組み（情報の集め方）	クローラの Web ページ収集方法について理解する。
5	検索エンジンの仕組み（情報の整理）	分類について学ぶ。
6	検索エンジンの仕組み（情報の整理）	全文検索のアルゴリズムを学ぶ。
7	検索エンジンの仕組み（情報の整理）	索引付けについて理解する。
8	検索エンジンの仕組み（情報の整理）	索引付けについて理解する。
9	検索エンジンの仕組み（情報の整理）	検索エンジンを評価する。
10	検索エンジンの仕組み（情報の検索）	情報要求について理解する。
11	検索エンジンの仕組み（情報の検索）	図書館員の仕事について理解する。
12	検索エンジンの仕組み（情報の検索）	検索モデルについて理解する。
13	検索エンジンの仕組み（情報の検索）	検索システムの将来について学ぶ。
14	キーワードの見つけ方	体系的に検索キーワードを見つける方法を取得する。
15	検索エンジンの問題点	検索エンジンに係わるインターネット上の問題点について考察する。

科目名	情報倫理	科目ナンバリング	EIGL23011
担当者氏名	榎木 浩、堀池 聡		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力		

《授業の概要》

インターネットの普及とともに大量の情報に接するようになってきた。これらの情報を活用することにより日々の生活において様々な利便性が得られる一方、コンピュータウィルスの被害や、著作権侵害などの危険性と隣り合わせであることも事実であり、自己の責任において対処しなければならない。この授業では情報に関連した法律、モラル、技術を学び、適切なルールやマナーのもとで情報を取り扱う方法や考え方を学ぶ。

《授業の到達目標》

- 情報技術と関連する法律について理解する。
- 現代社会と情報のかかわりについて理解する。
- 情報社会における緒問題を分析し、適切な対応策が展開できる。

《成績評価の方法》

授業への取り組みや毎回の到達度確認を40%、総合到達度確認60%の割合で評価する。
 分からないことは、オフィスアワー等で受け付ける。

《テキスト》

『学生時代に学びたい情報倫理』 榎 大輔 著、共立出版、2011

《参考図書》

適宜提示する。

《授業時間外学習》

毎回の授業内容を復習してください。特に後半の事例分析等では、その結果をノートにまとめましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報倫理の概要	授業内容、進め方、成績評価の説明、情報倫理とは
2	情報倫理に対する基本的な考え方	情報倫理に対する基本的な考え方を理解する。
3	情報と法 1	情報と表現の自由について理解する。
4	情報と法 2	個人情報保護法について理解する。
5	情報と法 3	知的財産法の概要、著作権法、産業財産権について理解する。
6	情報技術 1	情報倫理に関連した情報ネットワーク技術の概要を理解する。
7	情報技術 2	コンピュータに対する不正攻撃の概要を理解する。
8	情報技術 3	セキュリティ技術の概要を理解する。
9	現代社会と情報 1	現代社会における情報技術の浸透と個人の関係について理解する。
10	現代社会と情報 2	情報技術がもたらすリスクについて理解する。
11	現代社会と情報 3	情報社会におけるリスクの回避やモラルのあり方について理解する。
12	事例分析 1	知的財産に関連した事例に関し、対応策について討論する。
13	事例分析 2	コンピュータウィルスなどの被害事例に関し、対応策について討論する。
14	事例分析 3	情報モラルに関連した事例に関し、対応策について討論する。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達度レベルを確認する。

科目名	情報管理論		科目ナンバリング	EIGL23008
担当者氏名	斎藤 正寿			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

この講義では、(1) 近年の「情報化」が、ビジネスのあり方をいかに変えてきているかを考え、さらに(2) 近年の「情報化」が、社会で働く個人々の働き方や考え方にどのような変化をもたらしているかを議論し、最後に(3) 近年の「情報化」がもたらした新しいタイプの社会的リスク(犯罪、格差等)について考察したいと思います。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

講義の中で随時紹介する

《授業の到達目標》

○IT社会を考察するのに必須の知識やボキャブラリーを習得できる。
 ○IT社会のメリット、デメリットを具体的に理解できる。
 ○情報科教員として生徒に授業を行う際に必要な内容と視点を習得できる。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント(場合によってはそれ以上の量)にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《成績評価の方法》

講義中にテストを実施し、レポートを課す。これらの結果を総合して評価(レポート50%、テスト50%)をおこなう。テストやレポートの詳細については講義の中で説明する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

・「情報」の高等学校教諭一種免許状の取得を目指す諸君は必ず履修して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	IT社会とは
2	情報化によるビジネス環境の変化(1)	コンピュータの歴史、ENIACからメインフレームへ
3	情報化によるビジネス環境の変化(2)	コンピュータの歴史、電卓からパソコンへ
4	新しいビジネスモデル(1)	MIS、DSS
5	新しいビジネスモデル(2)	SIS、BPR
6	新しいビジネスモデル(3)	SCM
7	現代のIT社会の諸相(1)	国家のIT戦略
8	現代のIT社会の諸相(2)	インターネットの発達
9	現代のIT社会の諸相(3)	インターネットビジネスの勃興
10	労働環境と労働意識の変化(1)	雇用形態、コア・コンピタンス
11	労働環境と労働意識の変化(2)	アウトソーシング、組織のフラット化
12	労働環境と労働意識の変化(3)	成果主義、IT技術者の現状
13	リスクマネジメント(1)	リスクとは
14	リスクマネジメント(2)	IT社会の様々なリスク
15	まとめ	具体的なリスクの対処法

科目名	情報システム特論A		科目ナンバリング	EITL23003
担当者氏名	堀池 聡			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-5 情報処理能力		

《授業の概要》

基本情報処理技術者試験午前問題の出題範囲のうち、コンピュータ構成要素、システム構成要素、アルゴリズムとプログラミングを取り上げ、関連した技術や問題の解法を学習します。

《テキスト》

『基本情報技術者標準教科書』 大滝みや子編 (オーム社)
(情報システム特論Bと同じ教科書)

《参考図書》

適宜提示します。

《授業の到達目標》

受講終了後に講義内容を再度復習することにより、本講義で扱った範囲に対しては情報処理技術者試験午前問題の合格レベルに達することを目標とします。

《授業時間外学習》

授業内容を十分復習し、練習問題を解くなどして、翌週の試験に備えてください。

《成績評価の方法》

第3週から第15週までの授業の最初に前週の授業内容に関する10点満点のテストを行います。13回のテストのうち、良い成績10回分の合計点(100%)により成績を評価します。13回のテストは添削し、返却します。

《備考》

10人程度の小人数のクラス編成とする。受講希望者は必ず初回の授業に参加して受講許可を得てください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	基本情報技術者試験の概要、授業の進め方、単位の認定基準 受講者多数の場合は選抜を実施
2	基礎理論(1)	離散数学
3	基礎理論(2) 試験	応用数学 第2週の講義内容に対する試験
4	基礎理論(3) 試験	情報・通信、制御 第3週の講義内容に対する試験
5	アルゴリズム(1) 試験	配列、リスト構造 第4週の講義内容に対する試験
6	アルゴリズム(2) 試験	完全2分木、スタック、キュー 第5週の講義内容に対する試験
7	アルゴリズム(3) 試験	2分探索木、ハッシュ法、ハッシュ関数 第6週の講義内容に対する試験
8	コンピュータ(1) 試験	CPU性能評価、高速化技術 第7週の講義内容に対する試験
9	コンピュータ(2) 試験	メモリーの種類、キャッシュ 第8週の講義内容に対する試験
10	コンピュータ(3) 試験	磁気ディスクの容量、磁気ディスクのアクセス時間 第9週の講義内容に対する試験
11	システム構成要素(1) 試験	完全2分木、スタック、キュー 第10週の講義内容に対する試験
12	システム構成要素(2) 試験	集中処理と分散処理、サーバクライアントシステム、高信頼化手法 第11週の講義内容に対する試験
13	システム構成要素(3) 試験	直列構成の稼働率、並列構成の稼働率、 第12週の講義内容に対する試験
14	システム構成要素(4) 試験	2 out of 3 システム 第13週の講義内容に対する試験
15	まとめ 試験	全試験内容に対する復習 第14週の講義内容に対する試験

科目名	情報システム特論B		科目ナンバリング	EITL23004
担当者氏名	堀池 聡			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-5 情報処理能力		

《授業の概要》

基本情報処理技術者試験午前問題の出題範囲のうち、コンピュータ構成要素、システム構成要素、アルゴリズムとプログラミングを取り上げ、関連した技術や問題の解法を学習します。

《テキスト》

『基本情報技術者標準教科書』 大滝みや子編 (オーム社)
(情報システム特論Aと同じ教科書)

《参考図書》

適宜提示します。

《授業の到達目標》

受講終了後に講義内容を再度復習することにより、本講義で扱った範囲に対しては情報処理技術者試験午前問題の合格レベルに達することを目標とします。

《授業時間外学習》

授業内容を十分復習し、練習問題を解くなどして、翌週の試験に備えてください。

《成績評価の方法》

第3週から第15週までの授業の最初に前週の授業内容に関する10点満点のテストを行います。13回のテストのうち、良い成績10回分の合計点(100%)により成績を評価します。13回のテストは添削し、返却します。

《備考》

10人程度の小人数のクラス編成とする。受講希望者は必ず初回の授業に参加して受講許可を得てください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	基本情報技術者試験の概要、授業の進め方、単位の認定基準 受講者多数の場合は選抜を実施
2	データベース(1)	データベースのモデル
3	データベース(2) 試験	データベースの論理設計 第2週の講義内容に対する試験
4	データベース(3) 試験	集合演算、データベース言語 第3週の講義内容に対する試験
5	データベース(4) 試験	データベースの制御と応用 第4週の講義内容に対する試験
6	ネットワーク(1) 試験	TCP/IP 第5週の講義内容に対する試験
7	ネットワーク(2) 試験	LANとWAN 第6週の講義内容に対する試験
8	ネットワーク(3) 試験	インターネット 第7週の講義内容に対する試験
9	セキュリティ(1) 試験	情報セキュリティ技術 第8週の講義内容に対する試験
10	セキュリティ(2) 試験	情報セキュリティ対策 第9週の講義内容に対する試験
11	セキュリティ(3) 試験	情報セキュリティ実装技術 第10週の講義内容に対する試験
12	システム開発(1) 試験	開発プロセス、ソフトウェア設計 第11週の講義内容に対する試験
13	システム開発(2) 試験	テストレビュー、ソフトウェア保守 第12週の講義内容に対する試験
14	プロジェクト 試験	マネジメント 第13週の講義内容に対する試験
15	まとめ 試験	全試験内容に対する復習 第14週の講義内容に対する試験

《教職に関する科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	ETAL41001
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の「教師の仕事」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉えるとともに、法的な位置づけや立場を理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《授業の到達目標》

- 教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解している。
- 教員養成と教員免許制度について理解している。
- 教員の任免と服務について理解している。
- 教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
- 教員に求められる資質能力と研修について理解している。
- 自分なりの教職観を持ち、自身の課題を省察することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
 - ②提出物（提出の回数と完成度等） 30%
 - ③定期試験 50%（持ち込み不可）
- *提出物はコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教職とは何か、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。
2	さまざまな教職観とその歴史の変遷	・教職観の歴史の変遷をたどりながら、自分自身の教職観、教員像を獲得する。
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。
5	教員の職務①：教員の種類と職務、校務分掌	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力について理解する。
6	教員の職務②：学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。
7	教員の職務③：保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。
8	教員の職務④：アカウントビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。
9	教員の人事管理①：服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。
10	教員の人事管理②：任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。
11	教員の人事管理③：教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかを考察する。
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。
15	学習のまとめと振り返り	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

- ・東京都教職員研修センター（監修）『教職員ハンドブック 第3次改訂版』 都政新報社、2012
- ・石村卓也『教職論 これから求められる教員の資質能力』 昭和堂、2008年。
- ・『新任教師のしごと 中学校・高校版』 小学館、2007年。

《授業時間外学習》

毎回、授業の内容に関連したミニレポートを作成し提出する。配布された資料をあらかじめ読んでおく。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	ETAL41002
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

広い視野をもって教育を俯瞰する授業である。ポイントは、(1)人間とは何かを考える、(2)世界教育史に学ぶ、(3)日本の教育の流れを押さえ、これから教師になる者の歴史的立場づけを考える、(4)人権教育の概略を知る、(5)「総合的な学習」を検討しつつ、未来の教育の展望を探る、の諸点である。

《テキスト》

とくには定めず、授業中にプリントを配布する。

《参考図書》

授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析でき、それを文章で表現することを目指す。

《授業時間外学習》

学校教育はもとより、家庭教育、大人と子どもの関係、親と子の関係、地域社会と子どもの関係、子どもの遊び、子どもをめぐる生と死、子どもを取り巻く異文化と摩擦の問題、子どもの人権の問題、海外留学など、子どもに関する多岐にわたることがらに関心を広げ、活字情報等を摂取すること。

《成績評価の方法》

授業への参加度（教員の発問に対する口頭および記述式の解答）40%、レポート60%。ただし教育学のイロハであるが、受講生の様子によりこれを微調整することがある。

成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamotoh@hyogo-dai.ac.jpである。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育に関する問題意識の出し合い
2	人間とは何かを考える(1)	視聴覚教材鑑賞（前半）
3	人間とは何かを考える(2)	視聴覚教材鑑賞（後半）
4	人間とは何かを考える(3)	ディスカッション
5	世界教育史に学ぶ(1)	筋が通った教育者とは—ペスタロッチが問いかけるもの—
6	世界教育史に学ぶ(2)	教育は時代を反映するもの—モニリアル・システムを考える—
7	特別授業	教育についての集団討論
8	日本教育史に学ぶ(1)	イロハから帝王学まで—手習塾(寺子屋)は近世のフリースクールだった—
9	日本教育史に学ぶ(2)	水道方式—「下から」の教育内容現代化—
10	日本教育史に学ぶ(3)	ゆがんだ能力主義①—「上から」の教育内容現代化—
11	日本教育史に学ぶ(4)	ゆがんだ能力主義②—経済審議会答申から現在まで—
12	人権教育を考える(1)	差別・被差別からの解放をめざす教育
13	人権教育を考える(2)	同和教育から人権教育へ
14	未来の教育への展望	「総合的な学習」が問いかける、「自分で考える人間」づくり
15	本授業の総括	教育とは明日の日本・世界をつくる営み

《教職に関する科目》

科目名	教育史	科目ナンバリング	ETAL53003
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本授業では、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえ、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることをおさえる。

具体的には、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1冊以上選び（例は「参考図書」欄を参照）、その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。

《授業の到達目標》

誤った歴史教育が「歴史＝無味乾燥な暗記物」というイメージを生んでしまったのは残念であるが、本来歴史とはそういうものではない。本授業では、みなさんに暗記してもらうことは一つもない。その代わりに(1)教育史に関する文献探索能力を身につけ、(2)教育史について自分で問いを設定して考察する方法を習得し、(3)その内容を発表する能力を身につけることが、本授業の目的である。

《成績評価の方法》

提出物(30%)と、発表への評価(70%)による。ただし、大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき、変更することがある。

成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamoto@hyogo-dai.ac.jpである。

《テキスト》

とくに定めない。

《参考図書》

妹尾河童『少年H』、さくらももこ『まる子だった』、黒柳徹子『窓際のトットちゃん』、司馬遼太郎『竜馬がゆく』、ヘッセ『車輪の下』、サンテグジュペリ『星の王子さま』、童門冬二『上杉鷹山』、乙武洋匡『五体不満足』、ほか。

《授業時間外学習》

自力で文献を読むことは言うまでもないが、その他は必要に応じて指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	発表文献選定のための個別指導(1)	文献リスト作り等
3	発表文献選定のための個別指導(2)	発表内容の詰め等
4	口頭発表(1)	文献例:妹尾河童『少年H』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
5	口頭発表(2)	文献例:さくらももこ『まる子だった』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
6	口頭発表(3)	文献例:黒柳徹子『窓際のトットちゃん』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
7	口頭発表(4)	文献例:司馬遼太郎『竜馬がゆく』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
8	口頭発表(5)	文献例:H・ヘッセ『車輪の下』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
9	口頭発表(6)	文献例:A・サンテグジュペリ『星の王子さま』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
10	口頭発表(7)	文献例:童門冬二『上杉鷹山』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
11	口頭発表(8)	文献例:乙武洋匡『五体不満足』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
12	口頭発表(9)	文献例:E・ケストナー『エミールと探偵たち』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
13	口頭発表(10)	文献例:東上高志『教育革命』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
14	口頭発表(11)	文献例:三好京三『子育てごっこ』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
15	口頭発表(12)	文献例:李潤福『ユンボギの日記』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。

《教職に関する科目》

科目名	発達心理学	科目ナンバリング	ETAL52004
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

人間の生涯にわたる発達のプロセスを理解することを目的として授業を展開する。受胎の瞬間から始まり、死をもって終結する人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。発達の障がいに関する基礎知識について理解することも目的とする。

《授業の到達目標》

- 発達心理学の基礎的事項について十分に理解すること。
- 人間の生涯にわたる発達のプロセスを正しく理解すること。
- 発達障がいに関する正しい知識・理解の仕方を習得すること。

《成績評価の方法》

定期試験の評価100%

※質問等があれば授業中、授業前後、オフィスアワー等で受け付ける。

《テキスト》

使用しない。授業時にプリントを配布し、プリントの内容に即して講義を進める。

《参考図書》

- 『発達心理学で読み解く保育エピソード』
若尾良徳・岡部康成（編著） 北樹出版 2010
- 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』
川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010

《授業時間外学習》

担当教員が作成・配布したプリントを用いて講義を進めるが、各自で要点をノートにまとめるなどして、知識の定着と理解の深化に努めてもらいたい。また、参考図書としてあげた図書を参照しつつ、講義で取り上げた事柄について各自で理解を深めることも期待する。

《備考》

受講学生には大学生として常識ある受講態度を求める。授業に出席するだけでは単位の取得は困難であると心得ておこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達心理学への導入	発達心理学では何をどのような目的のもとに学ぶのかを解説する。授業の進め方と評価の仕方についてシラバスをもとに確認する。
2	人間発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間発達の規定因は何かという問いについて、遺伝と環境という2つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について、特に母体内環境の重要性に焦点を当てつつ学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期における発達の特徴について、母子関係を切り口として学ぶ。愛着をキーワードとした学びになる。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期における発達の特徴について、言語発達と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	幼児期の発達	幼児期における発達の特徴について、注目獲得行動とセルフ・コントロールに焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期から児童期の発達	幼児期から児童期にかけての知的発達について、ピアジェの理論をもとに学ぶ。
10	児童期の発達～その1	児童期の発達について、人間関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その2	児童期の発達について、学習に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達について、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
13	成人期の発達	成人期の発達に関して、親としての成長ならびに中年期危機に焦点を当てて学ぶ。
14	発達のつまずき～その1	発達障がいに関する基礎的事柄について学ぶ。
15	発達のつまずき～その2	LD、ADHD、自閉スペクトラム症について学ぶ。

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	ETAL41005
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、教育における心理学的領域の理解をめざすとともに人間科学的な視点を養う。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得とそれぞれの専門領域の教育に応用する方法を学習する。

《授業の到達目標》

○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。○自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめることができる。○教育効果の検証（評価）ができる。○教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。○障害をもつ子どもの学習や発達を理解し、「学び」について考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30%）、定期試験（70%）
課題の提出については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、参加状況を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達
5	発達の基礎理論（3）	発達課題
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
8	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
9	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
10	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
11	教育評価（2）	測定と評価の実際
12	教授過程	学習指導法、授業の最適化
13	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
14	不適応行動 「障害」の理解	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害 障害をもつ子どもの教育、学習（学び）の課程
15	教育における心理学の働き、まとめ	教育相談、集団の機能と構造、人間関係 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	ETAL41006
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育の「制度」（公教育制度、教育法制など）と「制度的実態」（教育行政、学校経営など）についての体系的な知識を獲得するとともに、昨今の教育改革の動向を検討しながら、現代日本における教育の課題を、みずからの問題として論理的に考えていく力が身につくよう、授業を進める。

《テキスト》

『現代教育の制度と行政』河野和清編著、福村出版、2008

《参考図書》

『図解・表解 教育法規 新訂版』坂田仰、河内祥子、黒川雅子、教育開発研究所、2012

《授業の到達目標》

1. 現代日本の公教育制度、教育法制などについての主要な知識を獲得する。
2. 現代日本の教育がどのように制度的に運用されているかについて、その実態を理解する。
3. 現代日本における教育改革の動向を検討し、今後の課題について考える力を養う。

《授業時間外学習》

授業中、指示する。

《成績評価の方法》

1. 筆記試験の結果で100%評価する。
 2. 筆記試験では、知識の定着度50%、文章作成能力（論理的思考力）50%の配点で、評価する。
- ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

教育改革の動向については、日頃から関心を持つよう心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育制度とは何か	①教育制度、②公教育、公教育の歴史類型、③学校制度、学校制度の類型
2	近代以降の日本教育制度(1)	昭和(戦前)期までの公教育制度、教育行政
3	近代以降の日本教育制度(2)	昭和(戦後)期の公教育制度、教育行政
4	現代日本の教育制度(1)	公教育制度(現状と課題)
5	現代日本の教育制度(2)	教育法制(現状と課題)
6	現代日本の教育制度(3)	教育行政(現状と課題)
7	現代日本の教育制度(4)	学校経営(現状と課題)
8	現代日本の教育制度(5)	教育課程(現状と課題)
9	現代日本の教育制度(6)	教職員人事(現状と課題)
10	現代日本の教育制度(7)	児童生徒の管理(現状と課題)
11	現代日本の教育制度(8)	教員養成・研修(現状と課題)
12	現代日本の教育改革(1)	教育改革の動向
13	現代日本の教育改革(2)	教育改革における今後の課題
14	海外主要国の学校制度	アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ等の学校制度
15	まとめ	学修内容の再確認

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論		科目ナンバリング	ETAL42007	
担当者氏名	古田 薫、廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育課程の編成と実施にあたっては、教育課程の構造と基礎的な編成原理、および基準となる学習指導要領の内容と法的性格について理解しておく必要がある。本授業は、これらの理解を深め、教育課程編成における教師の役割の重要性について考察することを目的とする。教育課程の理論的な枠組や主要論点を整理し、教育課程の実際と、新学習指導要領の要点、現代的課題についての理解を深める。

《授業の到達目標》

- 教育課程の構造と基礎的な編成原理について理解している。
- 学習指導要領の内容と法的性格について理解している。
- 学習指導要領の変遷とその背景について理解している。
- 児童生徒の個人差のとらえ方と教育課程編成における個人差の取り扱いについて理解している。
- 学習指導案の書き方を理解し、目的に応じた指導案を作成することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
 - ②課題の提出と完成度 30%
 - ③定期試験 50%（持ち込み不可）
- ※提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

広岡義之（編著）『はじめて学ぶ教育課程論（仮題）』ミネルヴァ書房、2016年
『中学校学習指導要領』文部科学省、2008年

《参考図書》

『高等学校学習指導要領』文部科学省、2008年
田中耕治（編）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年

《授業時間外学習》

参考資料を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育課程とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育課程とは何か、教育課程の意義と必要性について理解を深める。
2	学校教育の目的・目標と 教育課程	・教育行政における教育課程の位置づけ ・教育課程の法的性格
3	学力観と学習指導要領の 変遷①	・学習指導要領の変遷とその背景（戦後～1970年代）
4	学力観と学習指導要領の 変遷②	・学習指導要領の変遷とその背景（1980年代～現在）
5	教育課程の管理と運営	・学校における教育課程の管理・運営の実際
6	カリキュラムの構造と類 型	・カリキュラムの歴史、さまざまなカリキュラムの類型とその特徴
7	教育課程における個人差 の取り扱い	・個人差とは、個に応じた指導とは ・個人差と教育課程
8	教育課程編成の基礎原理	・教育課程編成の基礎原理について理解する。 ・教育内容をいかにしてデザインするかを理解する。
9	学習指導案の書き方	・指導案の構成と作成手順 ・作成上の留意点
10	小学校教育課程の構成	・小学校教育課程における教授内容や課題を具体的に探究する。 ・総合的な学習の時間について教育内容の構成と実施について考察する。
11	中学校教育課程の編成	・中学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
12	高等学校教育課程の編成	・高等学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
13	教科書制度	・教育課程における教科書の位置づけ ・教科書の無償措置および検定制度
14	諸外国の教育課程	・各国の教育課程に関する制度と実情
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	公民科教育法	科目ナンバリング	ETPU43001		
担当者氏名	大和 道生				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(I期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講座は、高等学校公民科教諭の普通免許取得のために開講されるものであり、「中学校学習指導要領解説社会編」「高等学校学習指導要領公民編」の解説・分析を中心に進めていく。公民については、中学校においても実施しており、連続性を考慮し、その解説・分析も含めて行う。また、教科書にそった基本的・基礎的な内容も理解する。

《授業の到達目標》

1 高等学校公民科、中学校社会科の指導内容・指導方法についての基本的な理解を深める。2 科目「現代社会」、中学校社会公民分野の年間指導計画・学習指導案の作成に習熟する。3 授業研究・評価・教材の選択と工夫の実践をとおして、公民科教員としての資質・技能を培う。

《成績評価の方法》

授業の課題(30%)、授業態度(20%)、レポート提出(30%)、模擬授業(20%)等により総合的に評価する。

※提出された課題に対し、講評コメントを都度伝える。

《テキスト》

『中学校学習指導要領解説社会編』文部科学省/日本文教出版
『高等学校学習指導要領解説公民編』文部科学省/教育出版
『中学社会 公民的分野』日本文教出版

《参考図書》

『新しい公民科教育の実践と理論 公民科教育法』魚山秀介・小泉博明 著/清水書院
『高等学校新学習指導要領の展開公民科編』大杉昭英編著/明治図書

《授業時間外学習》

1 講義にともなうテキストの該当箇所は必ず目を通しておくこと。
2 年間指導計画、学習指導案の作成に当たっては、個別の作業時間を十分に確保すること。
3 模擬授業等の実施については、綿密な教材研究を行うこと。

《備考》

基本的には講義形式で進めるが、教職の専門性を正しく理解し、意欲的に受講すること。まじめな態度を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公民科教育法を学ぶに当たって	I期・II期を通したオリエンテーション、自己紹介等
2	教育とは(含教育史)	教育の目的・意義等について、過去から現代まで
3	教育法規	新教育基本法を中心に、憲法その他の教育法規について
4	学習指導要領について	学習指導要領の意義・法的効力・歴史的変遷等について
5	公民教育について	公民的資質の形成に向けて、政治・経済・倫理、社会領域の各分野から公民科教育の基本的な性格(本質)について学ぶ。
6	授業・教材研究	中学校社会「公民分野」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
7	授業・教材研究	中学校社会「公民分野」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
8	授業・教材研究	中学校社会「公民分野」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
9	授業・教材研究	中学校社会「公民分野」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
10	授業・教材研究	中学校社会「公民分野」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
11	学習指導案の作成	学習指導案の構成・形式・作成要領の説明
12	学習指導案の作成	学習指導案の構成・形式・作成要領の説明
13	授業・教材研究	高等学校公民科「現代社会」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
14	授業・教材研究	高等学校公民科「現代社会」の目標・指導内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
15	I期のまとめ	レポート、その他

《教職に関する科目》

科目名	公民科教育法	科目ナンバリング	ETPU43001		
担当者氏名	大和 道生				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講座は、高等学校公民科教諭の普通免許取得のために開講されるものであり、「高等学校学習指導要領公民編」の解説・分析を中心に進めていく。公民については、中学校においても実施しており、連続性を考慮し、その解説・分析も含めて行う。また教科書にそった基本的・基礎的な内容も理解する。

《授業の到達目標》

1 高等学校公民科、中学校公民分野の各教科の指導内容・指導方法についての基本的な理解を深める。 2 科目「現代社会」、中学校社会公民分野の年間指導計画・学習指導案の作成に習熟する。 3 授業研究・評価・教材の選択と工夫の実践をとおして、公民科教員としての資質・技能を培う。授業に関連した見学等もあり。

《成績評価の方法》

授業の課題 (20%)、授業態度 (20%)、レポート提出 (30%)、模擬授業 (30%) 等により総合的に評価する。

※提出された課題に対し、講評コメントを都度伝える。

《テキスト》

『中学校学習指導要領解説社会編』文部科学省/日本文教出版
『高等学校学習指導要領解説公民編』文部科学省/教育出版

《参考図書》

『新しい公民科教育の実践と理論 公民科教育法』 魚山秀介・小泉博明 著/清水書院
『高等学校新学習指導要領の展開公民科編』大杉昭英編著/明治図書

《授業時間外学習》

- 1 講義にともなうテキストの該当箇所は必ず目を通しておくこと。
- 2 年間指導計画、学習指導案の作成にあたっては、個別の作業時間を十分に確保すること。
- 3 模擬所業等の実施については、綿密な教材研究を行うこと。

《備考》

基本的には講義形式で進めるが、教職の専門性を正しく理解し、意欲的に受講すること。まじめな態度を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業・教材研究	高等学校「現代社会」の目標・授業内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
2	授業・教材研究	高等学校「現代社会」の目標・授業内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
3	授業・教材研究	高等学校「倫理」の目標・授業内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
4	授業・教材研究	高等学校「倫理」の目標・授業内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
5	見学等	現代社会に関連する資料館・工場等、社会学融合について学ぶ。
6	授業・教材研究	高等学校「政治・経済」の目標・授業内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
7	授業・教材研究	高等学校「政治・経済」の目標・授業内容・内容の取り扱いについて解説編で学習する。基本的な学習内容の確認をする。
8	学習指導案の作成	学習指導案の構成・形式・作成要領の説明
9	授業研究	模擬授業の実施、研究授業
10	授業研究	模擬授業の実施、研究授業
11	授業研究	模擬授業の実施、研究授業
12	評価について	教育評価の意義、評価の場面・観点・基準・規準等について
13	公民科の教育実習	教育実習の意義と役割、実習の内容・展開・評価等について
14	公民科教員として期待されるもの	教員としての資質、指導力及び自己啓発について
15	Ⅱ期のまとめ	年間のまとめ、レポート、その他

《教職に関する科目》

科目名	情報科教育法	科目ナンバリング	ETIN43001		
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(I期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

情報活用の実戦力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度、それぞれの指導方法を実践的に学びます。

《テキスト》

特に使用しません。

《参考図書》

(教師を目指す人のための)『教育方法・技術論』小柳和喜雄・小野賢太郎・平井尊士編著、学芸図書、2012

《授業の到達目標》

情報教育の意味を理解し、そのために必要な知識と技術を取得できます。さらに、情報科ならではの新しい学習形態を考案できるような応用力を身に付けます。

《授業時間外学習》

実習、課題作成のために必要な調査は授業時間以外で行ってください。

《成績評価の方法》

学期中に課す課題が100%。課題については、授業の中で議論し、必要に応じてコメントを返します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報科とは	情報科設置経緯の概観、情報科の目標、情報科の学習内容について理解する。
2	情報活用の実戦力の指導法(1)	指導すべき情報活用の実戦力の具体的な内容を理解する。
3	情報活用の実戦力の指導法(2)	情報活用の実戦力の指導方法について考察する。
4	情報の科学的な理解の指導法(1)	指導内容を理解する。
5	情報の科学的な理解の指導法(2)	指導方法について考察する。
6	問題解決とモデル化の指導法(1)	指導内容を理解する。
7	問題解決とモデル化の指導法(2)	指導方法について考察する。
8	アルゴリズムとプログラミングの指導法(1)	指導内容を理解する。
9	アルゴリズムとプログラミングの指導法(2)	指導方法について考察する。
10	情報検索とデータベースの指導法(1)	指導内容を理解する。
11	情報検索とデータベースの指導法(2)	指導方法について考察する。
12	情報モラル・情報倫理の指導法(1)	指導内容を理解する。
13	情報モラル・情報倫理の指導法(2)	指導方法について考察する。
14	メディアリテラシーの指導法(1)	指導内容を理解する。
15	メディアリテラシーの指導法(2)	指導方法について考察する。

《教職に関する科目》

科目名	情報科教育法	科目ナンバリング	ETIN43001		
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

情報活用の実戦力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度、それぞれの指導方法を実践的に学びます。

《テキスト》

特に使用しません。

《参考図書》

(教師を目指す人のための)『教育方法・技術論』小柳和喜雄・小野賢太郎・平井尊士編著、学芸図書、2012

《授業の到達目標》

情報教育の意味を理解し、そのために必要な知識と技術を取得できます。さらに、情報科ならではの新しい学習形態を考案できるような応用力を身に付けます。

《授業時間外学習》

実習、課題作成のために必要な調査は授業時間以外で行ってください。

《成績評価の方法》

学期中に課す課題が100%です。課題については、授業の中で議論し、コメントします。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報通信ネットワークの指導法(1)	指導内容を理解する。
2	情報通信ネットワークの指導法(2)	指導方法について考察する。
3	情報システムと社会の指導法(1)	指導内容を理解する。
4	情報システムと社会の指導法(2)	指導方法について考察する。
5	評価方法	様々な評価方法とその問題点について理解し、評価方法の工夫について考察する。
6	学習指導案(1)	学習指導案の書き方を理解する。
7	学習指導案(2)	実習
8	情報科とプレゼンテーション(1)	用途に応じたプレゼンテーションの行い方や技術を理解・修得する。
9	情報科とプレゼンテーション(2)	実習
10	授業形式の実習(1)	模擬授業の実施と相互評価
11	授業形式の実習(2)	模擬授業の実施と改善についての議論
12	授業形式の実習(3)	模擬授業の実施と相互評価
13	これからの情報教育(1)	現在の情報教育の課題と問題点を議論する。
14	これからの情報教育(2)	情報科教育の意義について考える。
15	情報教育に必要な知識	情報を指導するための前提となる知識の確認を行う。

《教職に関する科目》

科目名	商業科教育法	科目ナンバリング	ETAC43001
担当者氏名	鎌田 志恵雄		
授業方法	講義	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年(I期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

商業科教員を目指す人には必修の科目です。
 変化の激しい社会の中で、確かな学力、豊かな心、健やかな体が調和された「生きる力」を育むことは教育の重要な課題となっています。商業科教育法Ⅰでは「高等学校学習指導要領解説商業編」を中心に商業教育の意義、各科目の目標や内容とその取扱いを分析し、商業科の教員として必要な、確かな学力を育むための授業力養成の基礎を学びます。

《授業の到達目標》

- 1 教育を取り巻く現状や教育法規・自己の体験を基に、教員としての教育観をもつことができる。
- 2 商業教育の意義や目標、商業科の科目編成について理解できる。
- 3 商業科の各科目の目標や、その取扱いについて理解し教材の工夫や指導方法について考えることができる。

《成績評価の方法》

到達目標について試験を実施します。また、事前の課題の準備や資料の提出の状況、意見発表や指導案の作成等の達成状況を評価します。評価の割合は試験60%、事前の課題や資料20%、意見発表や達成状況20%とし、100点満点で60点以上を合格とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 学校教育について	最初に、今後の授業の進め方や評価方法についてのガイダンスを行います。法規等を基に学校教育と教員の役割について考えます。
2	学校と教育を取り巻く状況	生徒や教員に関する調査データ、報道等を資料に、教育を取り巻く状況について理解し、教員として必要な資質について考察します。
3	高等学校における商業教育の現状と課題	さまざまな商業高校の活動や教員採用試験から商業科教員としての心構えや、身に付けておきたいことがらを考察します。
4	商業教育の歩みと科目の変遷	我が国の商業教育の歩みと学習指導要領による科目の変遷について学習し、商業教育について考えます。
5	学習指導要領と商業科の目標・科目編成	学習指導要領をもとに、商業教育の意義を考えるとともに各科目の内容を概観します。
6	ビジネス基礎と学習指導案作成(1)	商業の基礎科目である「ビジネス基礎」を取り上げ、学習指導案の書き方を覚えると共に、科目の目標・内容の理解を深め、学習指導を効果的に行う方法を考察します。
7	ビジネス基礎と学習指導案作成(2)	前時の学習を基に各自の考えを加味し、効果的授業のための学習指導案を作成します。また、授業実施にあたって必要となる資料も考えます。
8	マーケティング分野と学習指導案作成(1)	マーケティング分野の目標・内容の理解を深め、学習指導を効果的に行う方法を考察します。
9	マーケティング分野と学習指導案作成(2)	前時の学習を基に各自の考えを加味し、効果的授業のための学習指導案を作成します。また、授業実施にあたって必要となる資料も考えます。
10	ビジネス経済分野と学習指導案作成	ビジネス経済分野の目標・内容の理解を深め、各自の考えを加味し、学習指導を効果的に行うための学習指導案を作成します。
11	会計分野と学習指導案作成(1)	会計分野の目標・内容の理解を深め、学習指導を効果的に行う方法を考察します。
12	会計分野と学習指導案作成(2)	前時の学習を基に各自の考えを加味し、効果的授業のための学習指導案を作成します。また、授業実施にあたって必要となる資料も考えます。
13	ビジネス情報分野と学習指導案作成(1)	ビジネス情報分野の目標・内容の理解を深め、学習指導を効果的に行う方法を考察します。
14	ビジネス情報分野と学習指導案作成(2)	前時の学習を基に各自の考えを加味し、効果的授業のための学習指導案を作成します。また、授業実施にあたって必要となる資料も考えます。
15	総合的な科目と学習指導案作成・まとめ	総合的な科目の目標・内容の理解を深め、各自の考えを加味し、学習指導を効果的に行うための学習指導案を作成します。最後にまとめと試験について説明します。

《テキスト》

- ・高等学校学習指導要領解説商業編 著作権文部科学省発行実教出版株式会社 平成22年5月初版発行
- ・その他プリントを適宜配布します。

《参考図書》

- ・高等学校学習指導要領および同解説総則編
- ・商業科教育法 日本商業教育学会 実教出版
- ・実教出版 商業教科書 ビジネス基礎 マーケティング 商品開発 ビジネス経済 経済活動と法 簿記 財務会計Ⅰ 原価計算 情報処理 プログラミング 総合実践 ビジネス実務

《授業時間外学習》

事前に指示する資料収集や課題をまとめ、授業時間に提示や発表できるようにしてください。また、提出を指示された課題は指定期日までに提出してください。

《備考》

高等学校商業教科書を持っている人は授業で使用しますので指示したときに持ってきてください。

《教職に関する科目》

科目名	商業科教育法	科目ナンバリング	ETAC43001
担当者氏名	鎌田 志恵雄		
授業方法	講義	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

商業科教育法Ⅰと併せ商業科教員を目指す人には必修の科目です。

本講義では商業科教育法Ⅰの内容に引き続き、年間学習計画の立案、学習指導案の作成、模擬授業の実施と一連の流れを通して教師としての実践力を高めていきます。また、生徒の立場での授業評価を実施し、意見交換をする中で授業に必要な要素や方法・課題を考察します。

《授業の到達目標》

- 1 教材研究の方法について理解し、指導案に反映する事ができる。
- 2 指導案を基に模擬授業を実施する事ができる。
- 3 教育課程や履修・修得を理解し、指導する事が出来る。
- 4 教育公務員としての服務や教員としての資質を理解し、教員として努力する姿勢がある。

《成績評価の方法》

到達目標について試験を実施します。また、指導案に基づく模擬授業の実施状況、指導案や授業についての意見交換の内容を評価します。評価の割合は試験50%、模擬授業の実施状況30%、指導案や意見交換20%とし、100点満点で60点以上を合格とします。

《テキスト》

- ・高等学校学習指導要領解説商業編 著作権文部科学省発行実教出版株式会社 平成22年5月初版発行
- ・その他プリントを適宜配布します。

《参考図書》

- ・高等学校学習指導要領および同解説総則編
- ・商業科教育法 日本商業教育学会 実教出版2011.4/25発行
- ・実教出版 商業教科書 ビジネス基礎 マーケティング商品開発 ビジネス経済 経済活動と法 簿記 財務会計Ⅰ 原価計算 情報処理 プログラミング 総合実践 ビジネス実務

《授業時間外学習》

事前に指示する資料収集や課題をまとめ、授業時間に提示や発表できるようにしてください。また、提出を指示された課題は指定期日までに提出してください。

《備考》

高等学校商業教科書を持っている人は授業で使用しますので指示したときに持ってきてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	年間学習指導案の立案 授業指導と教員の役割	最初に、年間学習指導案について学習します。 また、授業指導における教員の留意事項について考察します。
2	「ビジネス基礎」学習指導案と模擬授業準備	各自、任意の単元について学習指導案を作成し、模擬授業の教材を準備・作成します。
3	「ビジネス基礎」模擬授業と評価票作成	時間を設定し、教員役が模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
4	「ビジネス基礎」授業評価と意見交換・考察	教員役を交替し、模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指すとともに、各自の指導案の改善について考察します。
5	マーケティング分野学習指導案と模擬授業準備	各自、任意の科目・単元について学習指導案を作成し、模擬授業の教材を準備・作成します。
6	マーケティング分野の模擬授業・評価・反省会	時間を設定し、教員役が模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
7	ビジネス経済分野模擬授業準備と実施	各自、任意の科目・単元について時前に作成した学習指導案と教材で、教員役と生徒役に分かれて模擬授業実施、評価・反省会で授業力向上を目指します。
8	会計分野学習指導案と模擬授業準備	各自、任意の科目・単元について学習指導案を作成し、模擬授業の教材を準備・作成します。
9	会計分野の模擬授業・評価・反省会	時間を設定し、教員役が模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
10	ビジネス情報分野学習指導案と模擬授業準備	各自、任意の科目・単元について学習指導案を作成し、模擬授業の教材を準備・作成します。
11	ビジネス情報分野の模擬授業・評価・反省会	時間を設定し、教員役が模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
12	総合的な科目模擬授業準備と実施	各自、任意の科目・単元について時前に作成した学習指導案と教材で、教員役と生徒役に分かれて模擬授業実施、評価・反省会で授業力向上を目指します。
13	教育課程の作成	学習指導要領を確認しながら学科と教育目標を各自で設定し、教育課程を作成します。
14	教職員の服務と危機管理対応	教育公務員としての服務を整理し、模擬事例から学校におけるさまざまな危機管理対応について、意見交換をして考察します。
15	教員採用試験とまとめ	教員採用試験への対応について検討し、最後に講義のまとめを行います。

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論	科目ナンバリング	ETAL42008
担当者氏名	砂子 滋美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解する。また実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得を目的とする。①わが国の特別活動の歴史と変遷について ②特別活動の意義と目的について ③学習指導要領における特別活動の位置づけについて ④他の教育領域との関わりについて等を中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解する。

《成績評価の方法》

到達目標に関わる定期試験(60%)、授業態度(20%)、ミニレポート(20%)により評価する。

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい特別活動-理論と実践』 (ISBN978-4-623-07258-3) ミネルヴァ書房 2015年

《参考図書》

文部科学省 『学習指導要領 小学校 中学校 高等学校』 2012年、『教育人間学的視座から見た「特別活動と人間形成」の研究』大学教育出版 2009年、広岡義之編著 『新しい特別活動論』創言社 2009年

《授業時間外学習》

受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートの整理に十分に時間をかけること。理解が十分でなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特別活動全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動と学習指導要領の変遷。特活への期待	戦後特別活動の実施の経緯と発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。特別活動の充実が学校生活の満足度に関係することを理解する。
3	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を紹介し、解説・分析し理解する。
4	特別活動と学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容と関わって明確にする。
5	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)Ⅰ	特別活動における学級活動・ホームルームの位置づけ、内容を説明し、その特徴を明確にする。
6	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)Ⅱ	学級活動・ホームルームの学級内の組織づくりや仕事の分担処理の方法を理解する。
7	児童会・生徒会活動と学習指導要領	児童会・生徒会活動の内容を解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことを理解する。
8	学校行事(儀式的行事)について	儀式的行事の内容と意義を理解し、これらの行事の課題について考える。
9	文化的行事について	文化的行事の内容と特徴を理解し、教科指導と特別活動との関連を明確にする。
10	健康安全・体育的行事について	健康安全・体育的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
11	旅行・集団宿泊的行事について	旅行・集団宿泊的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
12	勤労生産・奉仕的行事について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を理解し、これらの行事の課題について考える。
13	特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い	指導計画作成や内容の取り扱いについて理解し、入学式や卒業式などにおける国旗および国歌の取り扱いを明確にする。
14	特別活動学習指導案作成	学級の児童・生徒の様子から、題材を設定し学習指導案を作成し、本時のねらいを達成する授業展開を考える。
15	講義全体のまとめをする	特別活動はいつの時代にも、常に学校生活の基礎として重要な役割を果たしていることや特別活動の充実が学校生活の満足度に深く関わっている等を振り返る。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	ETAL42009
担当者氏名	吉永 潤		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本講義では、学習者が能動的に参加するような授業を展開するための基本的な方法・技術を学ぶ。特に、学習者の思考を触発し、教科内容の本質に迫らせる問いや課題を設定する方法と、その問い・課題をめぐる学習者の考え・意見の交流を支援する方法、および、そのような学習を評価する方法が軸となる。

《テキスト》

特に指定しない。必要に応じてワークシートを配布する。

《参考図書》

吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する』東信書房、2015年。

《授業の到達目標》

①授業が、教科内容伝達の場合だけでなく、学習者の思考と試行錯誤の場合であることが理解できる。②そのような授業の展開のために的確な方法・技術が必要であることが理解できる。③ペーパーテストのみに依存しない多様な観点での学習者評価の意義と方法が理解できる。④以上を踏まえた学習指導案を作成できる。⑤開発した学習指導案につき、相互に適切に評価・批評し合うことができる。

《授業時間外学習》

集中講義は4日を予定しているが、2日目の最後に4～5名のグループを編成し、各グループで一つの学習指導案を開発することを課題とする。このため、授業時間外に各グループで、またはグループ内個人で分担して教材研究、授業の流れの設計、評価方法の考察などを行う。授業4日目には、開発した授業案につき各グループのプレゼンテーションを行う。

《成績評価の方法》

評価方法は、①各授業最後に実施する小レポート、②グループ作成の学習指導案、③最終レポートによって行う。評価割合は①20%、②30%、③50%。小レポートには、質問を記載することもでき、次時に回答を行う。また、各グループの学習指導案プレゼンテーションの後に講評を行う。

《備考》

講義3、4日目は特に、学習指導案作成のグループワークを中心としたアクティブ・ラーニング形式なるため、受講生各自の積極的な参加を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	受講者各自の小中高段階での授業体験を交流し、各自の現在の授業観・学習観を確認する。
2	授業づくりの基本的な考え方	授業＝話を聞く場との基本的授業観の問題性を確認し、授業を学習者の思考と試行錯誤の場として再認識する。
3	授業目標の定立	授業目標の定立のためには、①教科内容に関する知識と理解形成の観点と、②それをめぐる学習者の思考の技能や知識活用の技能の形成、の2観点が必要である。
4	学習を触発する問い・課題の構成	授業づくりの核となるのは、教科内容の本質に迫るとともに、学習者の解明意欲をかきたて、結果として学習者各自の意見を持たせる問いや課題の構成である。
5	学習を多面的に見取る評価	ペーパーテストは知識、理解の修得を事後的に評価するのに適するが、授業内における学習者の思考の展開や課題解決行動の評価を行うには、別の評価観点と方法を要する。
6	授業事例の視聴1	「授業の中で学習者がめざましく成長する」ことを実感するため、優れた授業の事例を視聴する。
7	授業事例の視聴2	上記視聴を継続する。
8	視聴した授業の考察とその交流	視聴した授業に関して、小グループごとに、教師の方法・技術の観点から分析を行い、その考察結果を発表・交流する。
9	学習指導案の開発1	本講義これまでの内容を踏まえ、小グループごとに学習指導案の作成に着手する。本時は、開発する授業について学校種、教科、単元を相談の上定める。
10	学習指導案の開発2	本時は、グループごとに、開発する授業の目標、核となる教材の構成、それをめぐる問い・課題の開発、および、学習者の思考内容を交流させる方法の定立を行う。
11	学習指導案の開発3	本時は、グループごとに、開発した授業における学習者の評価基準と評価方法を定立する。
12	学習指導案プレゼンテーション1	開発した学習指導案の発表を行う。授業目標、核となる教材の教科学習上の意義、学習者の予想される思考内容、それを交流させる方法、および学習評価の方法を発表する。
13	学習指導案プレゼンテーション2	上記発表活動を継続する。
14	学習指導案プレゼンテーション3	各グループの発表後、それぞれの指導案につき、評価点と批評点を出し合い、相互評価を行う。
15	総合考察・まとめ	参加者は、受講開始時の授業観を振り返り、本講義によって得た学習内容を整理、報告し、それをめぐる交流を行う。その後、授業を総合的に振り返り、まとめを行う。

《教職に関する科目》

科目名	教育情報化演習 I	科目ナンバリング	ETAL53010
担当者氏名	池本 廣希		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

『問題発見学習』を基底とした『地元学』として教育情報化演習 I を展開する。

「ため池」「用水路」「水利」「水をめぐる郷土史」などを題材にゼミ形式で学習する。

《テキスト》

なし 資料提供

《参考図書》

池本廣希著『地産地消の経済学』『生命系の経済学を求めて』新泉社

《授業の到達目標》

- ① 地域の問題発見能力を修得する。
- ② その問題発生の原因と解決能力を修得する。
- ③ 以上の能力を生徒に伝授する能力を修得する。

《授業時間外学習》

地域社会の問題発見（課題）とその解決策についてレポートを課す。

《成績評価の方法》

演習中のコミュニケーション能力（50%）と課題発表（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス I	学校の現状と学校の役割。
2	ガイダンス II	地域学習から学ぶこと
3	地元学 I	『地元学』とは何か？その存在意義と課題。
4	地元学 II	兵庫大学の『地元学』－寺田池フィールドワーク－
5	地元学 III	「ため池学」から問題発見学習 自然科学編
6	地元学 IV	「ため池学」から問題発見学習 社会科学編
7	地元学 V	水をめぐる郷土の歴史－淡山疎水といなみ野台地－
8	地元学 VI	水を求めて－小学生の作文をとうして－
9	地元学 VII	いなみ野台地ため池協議会と地域おこし
10	地元学 VIII	学校と地域の今後
11	課題発表	受講生の地元学レポート発表（パワーポイントで編集・発表）
12	同上	同上
13	同上	同上
14	同上	同上
15	まとめ	地元学と学校の役割

《教職に関する科目》

科目名	教育情報化演習Ⅱ		科目ナンバリング	ETAL53011	
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		履修カルテ参照			

《授業の概要》

本授業はI期の「教育情報化演習I」の続きであり、教員になることを考えている人向けの特訓である。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに、交替で模擬授業を行う。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考図書》

とくには定めない。

《授業の到達目標》

4年次に行う教育実習に向けて、教壇での発声、板書から始まり、子どもたちに情報機器を用いたメッセージ伝達ができるようにする。

《授業時間外学習》

授業の性質上、時間外に模擬授業に向けての構想づくり、教材研究、学習指導案作成をせねば、本授業の目標に達することはできない。

なお休日に、教育の情報化に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamotoh@hyogo-dai.ac.jpである。

《備考》

本科目の単位を取得することは、4年次配当の「高等学校教育実習」を履修登録するための要件である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	情報機器を用いた模擬授業準備・講義と作業(1)	担当教員による模範模擬授業【アクティブラーニングゾーン使用予定】
3	情報機器を用いた模擬授業準備・講義と作業(2)	教材研究ガイド(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
4	情報機器を用いた模擬授業準備・講義と作業(3)	授業のアウトラインづくり(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
5	情報機器を用いた模擬授業準備・講義と作業(4)	教材研究における文献検索(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
6	情報機器を用いた模擬授業準備・講義と作業(5)	板書計画(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
7	情報機器を用いた模擬授業(1)	例：受講生A【アクティブラーニングゾーン使用予定】
8	情報機器を用いた模擬授業(2)	例：受講生B【アクティブラーニングゾーン使用予定】
9	情報機器を用いた模擬授業(3)	例：受講生C【アクティブラーニングゾーン使用予定】
10	情報機器を用いた模擬授業(4)	例：受講生D【アクティブラーニングゾーン使用予定】
11	情報機器を用いた教師の仕事を考える(1)	視聴覚資料または文献から(深める)
12	情報機器を用いた教師の仕事を考える(2)	とくに教師が行う「芸」(深める)
13	情報機器を用いた教師の仕事を考える(3)	とくに子ども観(深める)
14	情報機器を用いた教師の仕事を考える(4)	とくに人権教育(深める)
15	本授業の総括	情報機器を用いた教師の仕事の深い楽しみ

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論	科目ナンバリング	ETAL42012
担当者氏名	新井野 久男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関係する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%), レポート(40%), その他(提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等)(20%)を基本に総合的に評価する。

授業の最後に提出する小レポートにコメントを記して、次の授業時に返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題(1)	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題(2)	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題(3)	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題(4)	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究(1)	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究(2)	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。

《参考図書》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。

《教職に関する科目》

科目名	進路指導論		科目ナンバリング	ETAL43019	
担当者氏名	古川 雅文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

進路指導は、中学校および高等学校の教員が担任として必ず行わなければならないものである。最近ではキャリア教育として、より広く、系統的な展開が目ざされている。

この授業では、進路指導とキャリア教育について、学校教員として備えておくべき基礎的な知識を学習する。また、背景になっている理論と実践例の両方を学ぶことで、進路指導とキャリア教育をより深く理解する。

《授業の到達目標》

- ・進路指導の意義、目的、内容、方法について説明できる。
- ・キャリア教育の意義、目的、内容、方法について説明できる。
- ・進路指導とキャリア教育の関係を説明できる。
- ・学校において、教員としてどのように進路指導及びキャリア教育に取り組むかを構想できる。

《成績評価の方法》

(1)定期試験(60%)、(2)レポート(20%)、(3)その他(提出物、プレゼンなど)(20%)。100点満点で、60点以上を合格とする。
※レポート等にはコメントを付して返却する。

《テキスト》

『キーワード キャリア教育 一生涯にわたる生き方教育の理解と実践』小泉令三・古川雅文・西山久子(編)、北大路書房、2016

《参考図書》

『中学校 キャリア教育の手引き』文部科学省(編)、教育出版、平成23年

『高等学校 キャリア教育の手引き』文部科学省(編)、教育出版、平成24年

『その幸運は偶然ではないんです!』J.D. クランボルツ他(著)、花田光世他(訳)、ダイヤモンド社、2005年

《授業時間外学習》

1. 予習の方法：教科書の指定箇所、あらかじめ配布する資料などを読んでおくこと。
2. 復習の方法：授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べること。

《備考》

欠席や遅刻・早退が多い場合(5回以上)は不合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	進路指導の意義と内容	進路指導は何のために行うのか、そして、その内容にはどのような領域があるかについて理解する。
2	進路指導・キャリア教育の歴史と社会的背景	進路指導の歴史の変遷、キャリア教育の登場した社会的背景と考え方の変遷について理解する。また、現在の進路指導とキャリア教育の関係について理解する。
3	キャリア教育の意義と内容	キャリア教育の意義と内容について理解し、説明することができる。
4	進路指導・キャリア教育の理論1	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つである特性因子論について理解する。
5	進路指導・キャリア教育の理論2	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つであるキャリア発達理論について理解する。
6	進路指導・キャリア教育の理論3	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つである学習理論等について理解する。
7	教育課程と進路指導・キャリア教育	学校教育の中で、どのようにキャリア教育を行っていくか、教育課程との関係を理解する。
8	進路指導・キャリア教育の方法と技術	特にキャリア教育の方法的特色を理解し、具体的な教育方法について説明できる。
9	小学校におけるキャリア教育実践	小学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
10	中学校におけるキャリア教育実践	中学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
11	高等学校等におけるキャリア教育実践	高等学校および特別支援学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
12	進路相談・キャリアカウンセリングの基礎	学校で行われる進路相談とキャリアカウンセリングについて、その基礎理論と方法的特色を理解する。
13	進路指導・キャリア教育の組織と推進	進路指導とキャリア教育を学校で推進していくための組織と、推進方法について理解する。
14	進路指導・キャリア教育の評価	主にキャリア教育における評価方法について理解する。
15	諸外国におけるキャリア教育	アメリカ、ドイツ、フランスなどのキャリア教育について理解し、わが国のキャリア教育との違いを説明できる。

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）	科目ナンバリング	ETAL43013
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐめる問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
 授業内容の理解 50%

- ・レポートはコメントを付けて返却する
- ・最終回の「まとめ」は、全体的な講評を伝える

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	「人の話しをきく」ということについて考える
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライアント中心療法について知る
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）を行う
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	心理テストを体験し、自分自身のテーマを知る
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる症状について学ぶ
8	いじめの被害者・加害者への理解と対応	いじめは、学校で学ぶ権利を奪うだけでなく命を奪うことさえある。学校と教育の場でのいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考える
9	特別支援教育を必要とする子どもたち	本人が努力しているにも関わらず、発達に凸凹があり、できることとできないことの差が大きく日常生活に困難を抱えている子どもたちを理解し、支援する方法を学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返り、今後活かすべきことは何かを考える

《テキスト》

教育相談ワークブック 子どもを育む人になるために 桜井・斎藤・森平 北樹出版

《参考図書》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとり読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日までに提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《教職に関する科目》

科目名	教育実習予備演習 I	科目ナンバリング	ETAL42015
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本授業は、教員になることを考えている人向けの特訓である。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに、交替で模擬授業を行う。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考図書》

とくには定めない。

《授業の到達目標》

教育実習に向けて、教壇での発声、板書から始まり、子どもたちへのメッセージ伝達の基本ができるようにする。

《授業時間外学習》

休日に、教育に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。授業への参加度が評価の基準である。

成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamotoh@hyogo-dai.ac.jpである。

《備考》

本科目の単位を取得することは、4年次配当の「高等学校教育実習」を履修登録するための要件である。アクティブラーニングゾーンを使用予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	模擬授業準備・講義と作業(1)	担当教員による模範模擬授業【アクティブラーニングゾーン使用予定】
3	模擬授業準備・講義と作業(2)	教材研究ガイド【アクティブラーニングゾーン使用予定】
4	模擬授業準備・講義と作業(3)	授業のアウトラインづくり【アクティブラーニングゾーン使用予定】
5	模擬授業準備・講義と作業(4)	教材研究における文献検索【アクティブラーニングゾーン使用予定】
6	模擬授業準備・講義と作業(5)	板書計画【アクティブラーニングゾーン使用予定】
7	模擬授業(1)	例：受講生A【アクティブラーニングゾーン使用予定】
8	模擬授業(2)	例：受講生B【アクティブラーニングゾーン使用予定】
9	模擬授業(3)	例：受講生C【アクティブラーニングゾーン使用予定】
10	模擬授業(4)	例：受講生D【アクティブラーニングゾーン使用予定】
11	教師の仕事を考える(1)	視聴覚資料または文献から
12	教師の仕事を考える(2)	とくに教師が行う「芸」
13	教師の仕事を考える(3)	とくに子ども観
14	教師の仕事を考える(4)	とくに人権教育
15	本授業の総括	教師の仕事の楽しみ

《教職に関する科目》

科目名	教育実習予備演習Ⅱ	科目ナンバリング	ETAL42016
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本授業はI期の「教育実習予備演習Ⅰ」（岡本）の続きであり、教員になることを考えている人向けの特訓である。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに、交替で模擬授業を行う。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考図書》

とくには定めない。

《授業の到達目標》

4年次に行う教育実習に向けて、教壇での発声、板書から始まり、子どもたちへのメッセージ伝達の基本ができるようになる。

《授業時間外学習》

休日に、教育に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamotoh@hyogo-dai.ac.jpである。

《備考》

本科目の単位を取得することは、4年次配当の「高等学校教育実習」を履修登録するための要件である。アクティブラーニングゾーンを使用予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	模擬授業準備・講義と作業(1)	担当教員による模範模擬授業【アクティブラーニングゾーン使用予定】
3	模擬授業準備・講義と作業(2)	教材研究ガイド(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
4	模擬授業準備・講義と作業(3)	授業のアウトラインづくり(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
5	模擬授業準備・講義と作業(4)	教材研究における文献検索(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
6	模擬授業準備・講義と作業(5)	板書計画(上級)【アクティブラーニングゾーン使用予定】
7	模擬授業(1)	例：受講生A【アクティブラーニングゾーン使用予定】
8	模擬授業(2)	例：受講生B【アクティブラーニングゾーン使用予定】
9	模擬授業(3)	例：受講生C【アクティブラーニングゾーン使用予定】
10	模擬授業(4)	例：受講生D【アクティブラーニングゾーン使用予定】
11	教師の仕事を考える(1)	視聴覚資料または文献から(深める)
12	教師の仕事を考える(2)	とくに教師が行う「芸」(深める)
13	教師の仕事を考える(3)	とくに子ども観(深める)
14	教師の仕事を考える(4)	とくに人権教育(深める)
15	本授業の総括	教師の仕事の深い楽しみ